

沼津工業高等専門学校

# 運営諮問会議報告書

(平成 28 年度)

—平成 27 年度年度計画自己点検評価の検証／平成 28 年度年度計画—

平成 29 年 3 月

沼津工業高等専門学校

運 営 諮 問 会 議

# 目 次

I. はじめに .....	1
II. 沼津工業高等専門学校運営諮問会議規則 .....	3
III. 沼津工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿 .....	7
IV. 概要説明	
1. 沼津工業高等専門学校概要(Power Point 資料) .....	11
V. 審議事項	
1. 平成 27 年度年度計画 自己点検評価	
1)平成 27 年度 年度計画 自己点検評価表 .....	43
2)平成 27 年度 年度計画 評価シート意見対応表 .....	53
2. 平成 28 年度年度計画について	
1)沼津工業高等専門学校 平成 27 年度 年度計画 .....	65
2)平成 28 年度 年度計画意見表 .....	75
VI. 平成 28 年度 沼津工業高等専門学校 運営諮問会議議事要旨 .....	83
(平成 28 年 9 月 14 日(水) 本校3F 大会議室)	

はじめに

2016-9-14

藤本 晶

ご多忙中にも拘わらず、本校の諮問委員会に出席いただきありがとうございます。

本校は 1962 年の設立以来、半世紀余が経っています。設立当時は高度成長の真ただ中でしたが、その後のバブルの崩壊、少子高齢化、社会の高学歴化、若者の理科離れ等、その間に学校を取り巻く状況は大きく変わってきました。沼津高専のみならず、小規模の学校種である高等専門学校全体が、それら変化する状況への対応に追われてきました。

沼津高専では、新しい学科の設置や改組、専攻科の設置、学際教育の導入と専攻科の再編、混合学級の導入等を行って変化する状況に対応してきました。しかしそれらへの対応に追われる余り、ややもすれば沼津高専に与えられた本来の使命や、果たすべき役割を見失いがちになったきらいもあって感じています。

組織の使命や進むべき方向からのずれは、身近な課題への対応や日々の業務に忙殺されている内部の人間には気づきにくい面もあります。本会議では、沼津高専はどのような学生を受け入れてどのような教育を行い、そして卒業生を輩出すべきなのか？また地元である静岡県東部地域に対して何ができるのか？また日本の産業界にどのように貢献すべきなのか等について、それぞれの立場から忌憚の無いご意見をいただければと思っています。よろしくお願いします。

昨年度は①専攻科の長期インターンシップの重要性、②寮生活の効用、③7年制に移行した場合の特色、の3つの項目についてご意見をいただきました。いただいたご意見の中には、本校の教育の方針に関わるもの等、検討を要するものも多数含まれていました。本日の議論に先立ちまして、これらのご意見に対する現在までの検討状況を以下に説明させていただきます。

① 長期インターンシップにつきましては、企業の立場からは企業を見るだけでなく、何かを持って帰って欲しい、自社に就職する人に来てほしい、大学の研究室に行って社会を見たことになるのか？といったご意見をいただきました。

これにつきましては、沼津高専として長期インターンシップに何を求めるのか？といった基本的なところを整理する必要があると感じています。インターンシップが就職や進学の先取りの意味合いが強すぎるのも問題だと思います。また社会を経験させるのが目的なら、派遣先も自ずと決まってくると思います。インターンシップの意義や目的を教員間で共有できるように議論を勧めているところです。

② 寮生活については、高専の特色の一つ、集団生活の場、コミュニケーションの訓練の場として

有意義等、肯定的な意見が多い中、寮に合わない学生の存在や、寮に入らなければならないので、沼津高専進学を諦めた学生がいるのではとの指摘もありました。

寮は高専の大きな特色です。特に全寮制を敷いている沼津高専では、教育の大きな柱の一つになっています。今後も全寮制を維持・発展させる予定ですが、そうする中でも時代に即した運用へと徐々に変えることや、学生個々へのフォローを手厚くする等の対策を検討しているところです。

③ 7年制については、技術ばかりでなく文系にも力を入れるのなら7年制はやむを得ないと言った意見がある一方、評価の高かった高専の特色を失うのではないかと、7年はあまりにも長い等といった懸念も出されました。

昨年度は高専全体として7年制に移行するのを前提に議論が進んでいましたが、高等専門学校の実態に関する調査研究協力者会議の答申にもありますように、高専はこれまで同様5年+2年のシステムを維持しながら進んで行くことになりました。形の上では現状維持となりましたが、7年制の議論は、くしくも高専が抱える問題を明確にした面もあります。現状の沼津高専に欠けているところは無いのか、技術の進歩に対応できているか等を常に見直し、現状に甘んじることなく、今後も将来についての議論を進める所存です。

今年度は次の三つのテーマについてご意見を伺いたく思います。

- ① 企業との共同教育について
- ② 学生寮について
- ③ 卒業生の社会での活躍について

前2つは昨年のテーマと関連するものです。③は今回新たに提示させていただいたテーマです。是非活発な意見交換をお願いします。

## 沼津工業高等専門学校運営諮問会議規則

## 沼津工業高等専門学校運営諮問会議規則

### (設置)

第1条 沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に本校以外の有識者による沼津工業高等専門学校運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）を置く。

### (目的)

第2条 諮問会議は、本校の学校運営全般について、指導及び助言を行い、本校の健全な学校運営を支援することを目的とする。

### (任務)

第3条 諮問会議は、次の各号に掲げる事項について、校長の諮問に応じて審議し、及び校長に対して助言を行うものとする。

- (1) 本校の中期目標、中期計画及び年度計画に関する重要事項
- (2) 本校の教育及び研究活動に関する重要事項
- (3) その他、本校の運営に関する重要事項

### (組織)

第4条 諮問会議の委員は、人格識見が高く、かつ、本校の振興発展に関心と理解のある学外有識者で、次の各号に掲げる者のうちから、校長が委嘱する委員をもって組織する。

- (1) 大学等高等教育機関の関係者
  - (2) 産業・経済界の関係者
  - (3) 本校が所在する地域の関係者
  - (4) 本校の支援団体等の関係者
- 2 諮問会議は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

### (議長)

第5条 諮問会議に議長を置き、その議長は委員の互選をもって充てる。

- 2 議長は、諮問会議の会務を総括する。
- 3 議長に支障があるときは、あらかじめ議長が指名した委員が職務を代行する。

### (任期)

第6条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

### (事務)

第7条 諮問会議の事務は、総務課において処理する。

### (雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、諮問会議の運営に関し必要な事項は、諮問会議が別に定めるものとする。

### 附 則

1. この規則は、平成21年4月1日から施行する。
2. この規則の施行後、最初に委嘱された委員の任期は、第6条第1項の規定に係わらず平成23年3月31日までとする。

沼津工業高等専門学校 運営諮問会議委員

## 平成28年度 沼津高専運営諮問会議委員

	氏名(敬称略)	現職	規則根拠	備考
1	とうごう けいいちろう	静岡大学 理事 (企画戦略・情報担当)	規則第4条第1項第1号委員 (大学等高等教育機関の関係者)	
	東郷 敬一郎			
2	さわだ かずあき	豊橋技術科学大学 (高専連携担当)	規則第4条第1項第1号委員 (大学等高等教育機関の関係者)	
	澤田 和明			
3	きしもと よしひろ	東芝機械株式会社 専務執行役員 沼津工場長	規則第4条第1項第2号委員 (産業・経済界の関係者)	
	岸本 吉弘			
4	あべ よしなり	富士通株式会社 沼津工場長	規則第4条第1項第2号委員 (産業・経済界の関係者)	
	阿部 欣成			
5	せい かつひこ	日医工ファーマテック 静岡工場代表取締役	規則第4条第1項第2号委員 (産業・経済界の関係者)	
	清 勝彦			
6	うえまつ しょういち	矢崎総業技術研究所 研究企画部 部長	規則第4条第1項第2号委員 (産業・経済界の関係者)	
	植松 彰一			
7	はっとり ゆみこ	沼津市教育委員会 教育長	規則第4条第1項第3号委員 (本校が所在する地域の関係者)	公務の為欠席
	服部 裕美子			
8	からくに ひろあき	沼津市立大岡中学校長 (地区中学校長会会長)	規則第4条第1項第3号委員 (本校が所在する地域の関係者)	
	唐國 宏章			
9	きど みのる	沼津工業高等専門学校 同窓会長	規則第4条第1項第4号委員 (本校の支援団体等の関係者)	
	木戸 実			

※ 任期:平成27年4月1日～平成29年3月31日

## 沼津工業高等専門学校概要

# 沼津高専の概要、現状と課題



平成28年9月14日(水)

## 沼津高専の沿革と概要

- ・昭和37年(1962年) 機械工学科2学級、電気工学科1学級が設置
- ・平成 8年(1996年) 専攻科(3専攻)が設置
- ・平成11年(1999年) 工業化学科、電子制御工学科の設置、工業化学科→物質工学科、機械工学科の1学級→制御情報工学科、電気工学科→電気電子工学科へ、それぞれ改組を経て現在の5学科体制に。
- ・平成26年(2014年) 新カリキュラム(学際教育)2年後 新専攻科スタート



施設 敷地 89,598㎡  
 建物 36,017㎡  
 学生総数 1,103名

学校長1名  
 教員 84名 事務系職員 34名  
 博士 58名 技術系職員 14名

### 収入・支出決算額(平成27年度)

区分(千円)		
収入	運営費交付金	44,991
	自己収入(授業料・入学科等)	290,158
	施設整備費	75,264
	産学連携等研究収入	23,472
	寄付金収入 その他補助金	7,388 2,157
	合計	445,941
支出	業務費(教育研究経費・支援経費)	244,055
	業務費(一般管理費)	96,619
	施設整備費	75,264
	産学連携等研究経費	17,556
	寄附金事業費 その他補助金	8,967 2,158
	合計	446,619



# 2学年 ミニ研究(1単位)

## 【全教員を指導教員とするPBL教育】

学科を越えた学生2~3人でチームを編成し、各チームに課題を与えて、  
 実施計画→下調べ→研究調査・実験→まとめと成果発表  
 までの一連の手順を学生自らが企画・実行する。  
 教員はこれをサポートする。



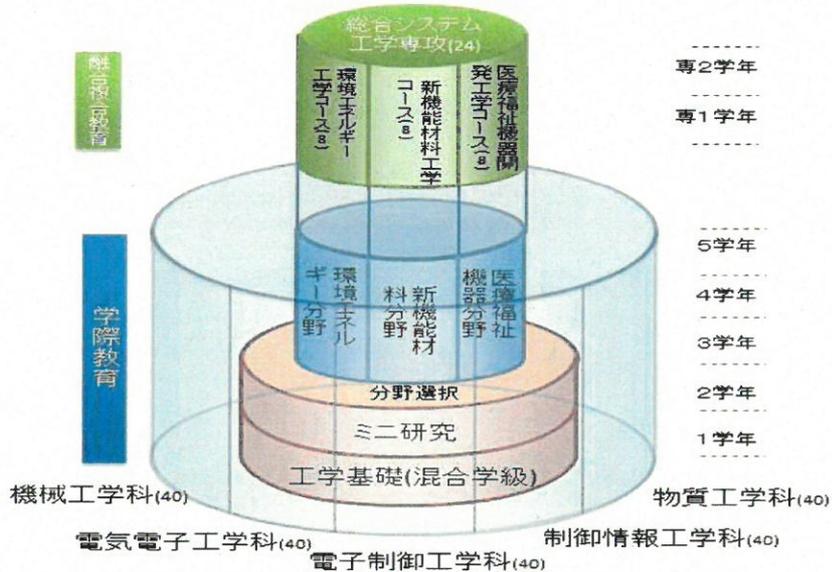
8 ミニ研究発表会全体の風景



5 保護者も参観

# 沼津高専7年一貫教育(本科・学際教育と専攻科の連続性)

## 沼津高専 学際教育・専攻科コース制概要



## 学生寮 (男子寮6棟、女子寮1棟)

●低学年全寮制 ●寮生会による自治運営



現員563名(内留学生6名)男子488名、女子75名  
【平成28年5月1日現在】



食事風景



談話室風景



寮生会主催の勉強会—マテカー<sup>7</sup>

## 教育研究支援センター

### 【医用機器開発分野】

自動解析心電計、超音波診断装置  
体外循環回路、エリブソメータ(薄膜計)  
筋電図・誘発電位検査装置  
重心動揺計システム、病室設備機器  
モーションキャプチャーシステム

### 【計測・分析分野】

レーザーラマン分光装置、  
走査型電子顕微鏡、  
高性能CNC三次元測定機、  
万能投影機、工具顕微鏡

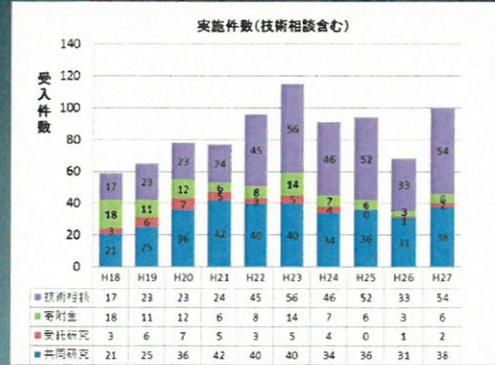


### 【ものづくり教育分野】

レーザー加工機、溶接設備、  
手仕上げ加工設備、  
プレス加工機(2台)  
鋳造設備、鍛造設備  
マシニングセンタ、CNC旋盤、  
ワイヤ放電加工機、旋盤(11台)、  
フライス盤(3台)、平面研削盤、  
円筒研削盤、横中ぐり盤、  
ボール盤(3台)



## 地域共同テクノセンター（平成16年3月竣工）



## 沼津高専として取り組んだこと

- 地域に開かれた学校を目指して  
HPに新着情報欄の追加と情報の積極的な発信
- 保護者・学校と距離の近い学校へ  
教育後援会(保護者会)内に支部を設置
- 地域と共に歩める学校を目指して  
『沼津高専と共に歩む議員連盟』、  
『沼津高専地域創生交流会』の発足
- グローバル化に対応できる学校へ  
韓国クモ工科大学と交流協定締結
- 成績不振者の減少へ  
学習サポートセンターを設置

# 『沼津高専と共に歩む議員連盟』 『沼津高専地域創生交流会』



議連発足会 1月29日  
於プラサヴェルデ



地域創生交流会発足会  
6月10日 於：三島商工会議所



第一回研修会  
5月26日 於沼津高専

## クモ工科大学との交流



交流協定締結  
2月19日 於：クモ工科大

クモ工科大学学生来校  
7月11日～8月6日



# 学習サポートセンター



【静岡新聞 平成27年1月13日(水) 夕刊3面】

＜NPO法人静岡学院＞が、学習サポートセンターを開設し、放課後の学習支援を開始する。本学は、学生が学習の悩みを気軽に相談できる場を確保し、学習意欲の向上を図る。センターは、11月13日に正式に開所した。NPO法人静岡学院の代表理事、藤田孝一氏は、センターの開設について、学生が学習の悩みを気軽に相談できる場を確保し、学習意欲の向上を図る。センターは、11月13日に正式に開所した。



## 放課後学習支援始める

NPO法人静岡学院は、11月13日に正式に開所した。センターは、11月13日に正式に開所した。NPO法人静岡学院の代表理事、藤田孝一氏は、センターの開設について、学生が学習の悩みを気軽に相談できる場を確保し、学習意欲の向上を図る。センターは、11月13日に正式に開所した。

センターは、11月13日に正式に開所した。NPO法人静岡学院の代表理事、藤田孝一氏は、センターの開設について、学生が学習の悩みを気軽に相談できる場を確保し、学習意欲の向上を図る。センターは、11月13日に正式に開所した。

17日のフジテレビ静岡放送「静岡学生たち」  
11月13日開所、近畿大学の近畿放送局

## 沼津高専

沼津高専は、11月13日に正式に開所した。センターは、11月13日に正式に開所した。NPO法人静岡学院の代表理事、藤田孝一氏は、センターの開設について、学生が学習の悩みを気軽に相談できる場を確保し、学習意欲の向上を図る。センターは、11月13日に正式に開所した。

## 物理、数学気軽に質問

技術者への道、学業不振で諦めないで

開所式 2015年11月25日

## (沼津)高専の抱える課題

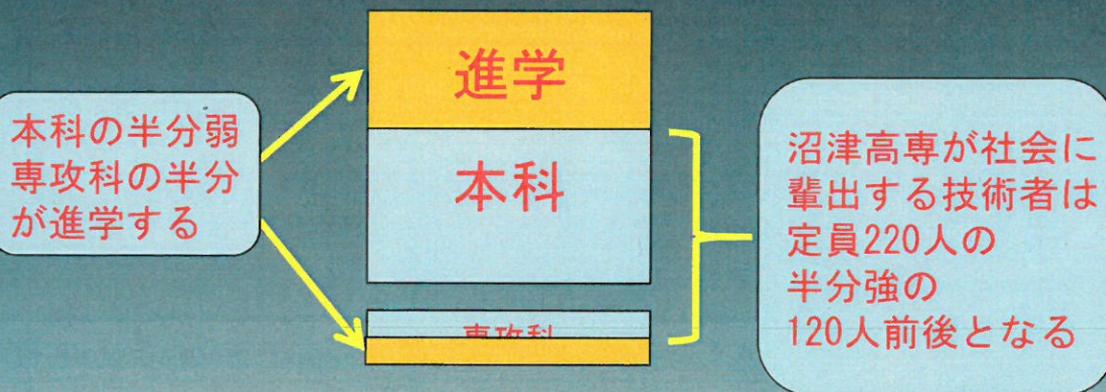
- 高専卒の評価の低下と進学者の増加
- 入学志願者の減少
- 留年者、退学者の存在

## 「高専」のミッション

- 1950年代後半からの高度成長を支える技術者の不足を補うため、産業界からの要請で設立。
- 中学校の卒業生を受け入れ、5年間の一貫教育を行い、社会が必要とする技術者を養成。

社会に技術者を輩出することが  
主目的である学校

## 卒業・修了生の 半数強の技術者を輩出



進学先で高専出身のメリットは？  
高専がコントロールできない。  
進学を選択する最大の動機は？

## 沼津高専の評価

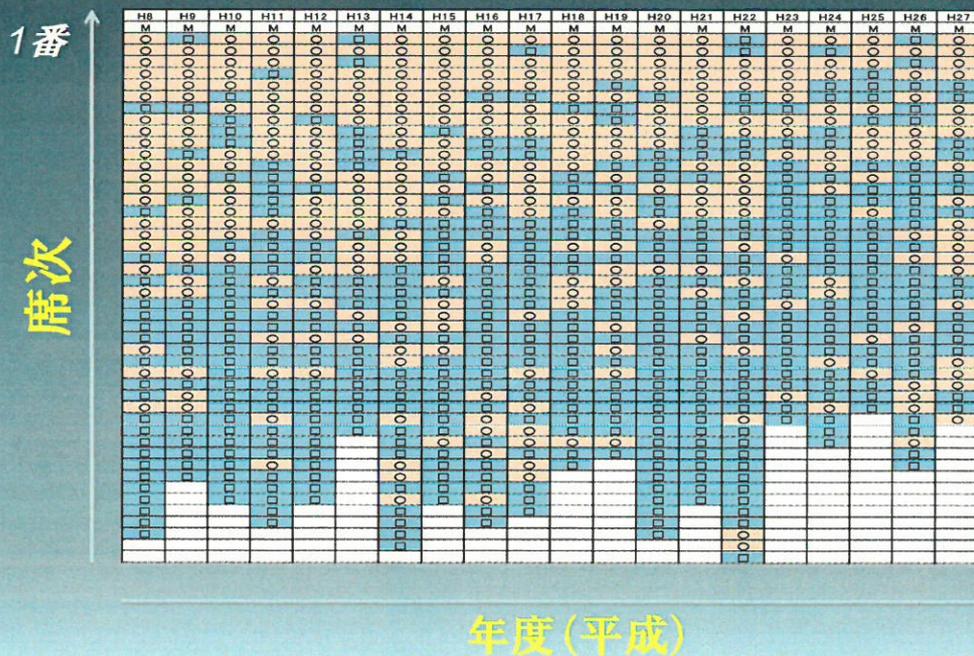
- 社会は高専を「沼津高専卒」で就職した卒業生で評価
- 進学すると、進学先の卒業・修了生
- 成績優秀者が進学しがち
- 質が落ちれば、企業の処遇も当然落ちる
- 質の高い「沼津高専卒」も必要。

33.6倍の求人があるのに進学者が増加

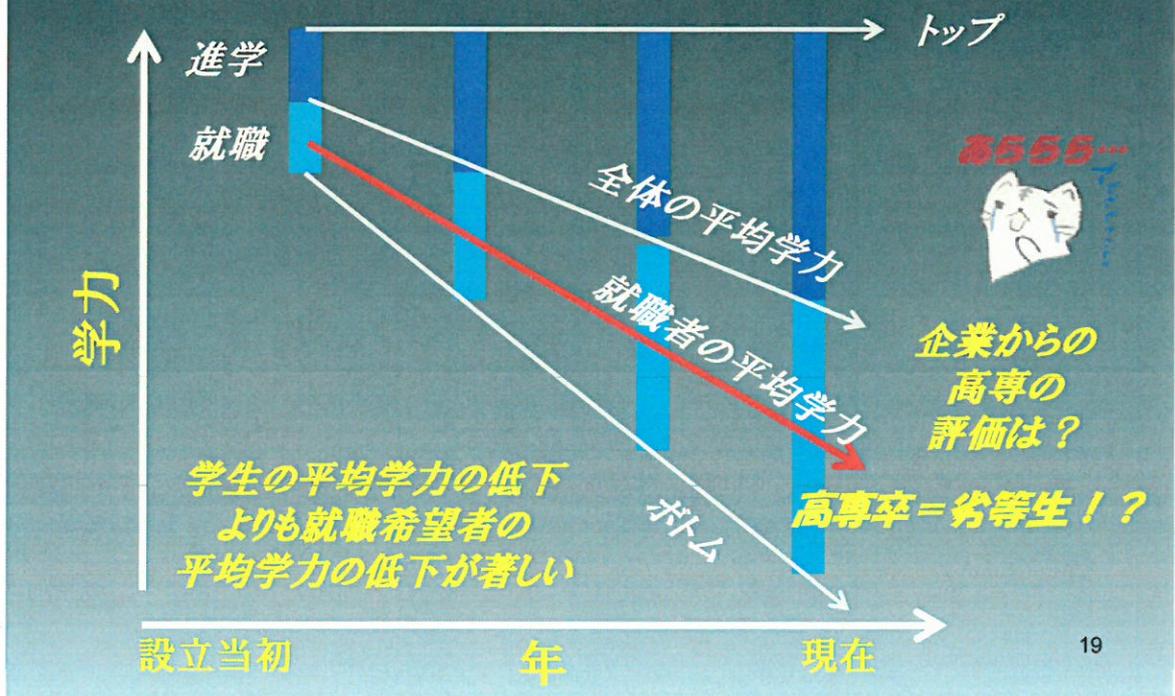
- もっと高度な技術・知識を。研究者を目指したい。
- 教員が進学を勧める。
- 高専卒では将来が不安、企業での昇進昇格に不利？
- もともと進学するつもりが入学

## 高専全体への影響

### 進学・就職者と席次(H8～制御情報工学科)

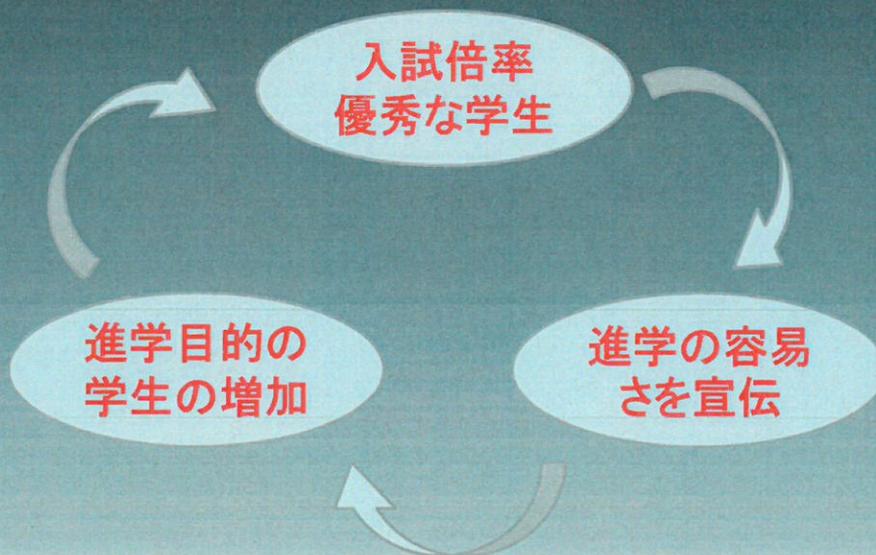


# 編入学者の増加と就職者の学力



## 進学者増加の連鎖

— 志願者確保・指導のやり易さとリンケ—



高専のミッションとの整合性

## 産業界へも働き掛け

- 高専は産業界の要請により設置
- 実力ある20歳の技術者の養成で成果
- 学歴ではなく、実力で処遇すべき
- 高専卒は係長とまり・・・大卒なら・・・
- ネガティブな噂は、信憑性をもって広まりやすい
- 勉強したい訳じゃ無いけど、「大卒」になりたい



学歴よりも実力で評価する旨  
 明文化して欲しい

## 沼津高専の留年・退学状況

年度(平成)	23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		留年 合計	退学 合計
	留年	退学										
機械	12	10	5	8	7	4	8	3	9	4	41	29
電気電子	2	5	4	3	4	3	9	5	6	6	25	22
電子制御	7	4	16	5	3	8	1	2	7	3	34	22
制御情報	5	4	8	9	2	3	6	4	7	2	28	22
物質	2	6	3	4	2	5	9	1	8	6	24	22
合計	28	29	36	29	18	23	33	15	37	21	152	117

5年間で152名が留年（15%）、117名が退学（12%）

## 大学等の中途退学者の状況

	国立 (人/%)	公立 (人/%)	私立 (人/%)	高専 (人/%)	計 (人/%)
学業不振	1269 /12.1	241 /10.2	9521 /14.6	472 /33.6	11503 /14.5
転学	1219 /11.6	376 /15.8	10137 /15.6	508 /36.2	12240 /15.4
計	10476	2373	65066	1405	79311

文部科学省 報道発表 平成26年9月25日より

これらの課題に取り組んで  
より良い沼津高専を  
作って行く所存です。

どうかよろしくお願いします。



平成 27 年度 年度計画

評価シート

**沼津工業高等専門学校 運営諮問会議**  
**平成27年度 年度計画 自己点検評価 評価シート <外部委員>**

1. 教育に関する事項	コメント欄
(1) 入学者の確保について	<p>(東郷委員)            年度計画が着実に実施されていると思う。平成 28 年度志願者が前年に引き続いて減少していることが気になる。</p> <p>(澤田委員)            第 3 期中期計画において、“ものづくりに関心と適性を有する者など・・・”とあるが、実施状況の説明において、内申点などの学力水準のことだけに留まっている。(学力水準とものづくり... の関係を説明するか、推薦入試の件など触れたらいかがでしょうか。</p> <p>(阿部委員)            様々な取組みを予定どおり実施しているが、結果としては志願者が 5% 程度減少、また女子志願者も若干減少という結果となっている。この結果をどう考えているのか、また 28 年度計画でも同様の取組み継続で良いのか見解を教えてください</p> <p>(岸本委員)            自己評価はすべて A: 当初計画を予定どおりに達成されているのですが、志願者数が減少している実態の分析と対応・対策をお願いします。推薦枠の活用は、どのようになっているのでしょうか。女子学生の割合目標は、掲げられているのでしょうか。</p> <p>(植松委員)            よい活動が計画通りできていると思いますので、継続して活動することが大切と感じます。</p> <p>(清 委員)            ホームページ、オープンキャンパス、パンフレット、等を活用してアドミッション委員会として計画以上の取り組みをされた事を評価できると考えます。</p> <p>(唐國委員)            ・教職員の学校訪問、生徒に対する説明会ともに中学校が情報を得るという点で有効に機能していると思います。            ・ロボコン等のイメージから、大学と同等の教育内容であるとの認識。沼津高専のこれまでの卒業後の進学(編入)実績。そういったことから、中学生から見た沼津高専のステータスは高く、高い学力水準の生徒の応募が今後も見込まれます。</p> <p>(木戸委員)            HP の充実や「高専キラキラガール」の作成など、いい方向に進んでいると思います。資料は大胆なくらいビジュアル指向に、高専の特徴の一層の強調する内容を期待しています。</p>
(2) 教育課程の編成等について	<p>(東郷委員)            年度計画が着実に実施されていると思う。全国的なコンテストへ積極的に参加し、多くの受賞結果を得ている。</p>

(澤田委員)

高専機構が開催して教員を講師として、学内研修会を開いたことを高く評価したい。地域との交流も行われており、学生のコミュニケーション能力の向上も期待できる。

(阿部委員)

計画について昨年 KPI を導入してはどうかというコメントをさせていただいたが、様々な施策を実施してその結果がどうであったのか、短期間で成果が出るものではないことは理解するが、中期計画レベルで良いので目標値を明確にし、目標と対比する形で評価すべきではないか

(岸本委員)

自己評価はすべて A: 当初計画を予定どおりに達成されているなか、学生による授業評価はどのような結果で、その結果をどのように改善に結び付けているのでしょうか。

(植松委員)

数学の能力向上活動に重点を置かれており、非常に期待しています。特色ある活動を実施してください。アイデアソン・ハッカソンのようなアイデア創出活動もご検討頂けたらと思います。

(清 委員)

インターンシップ、TOEIC、ロボットコンテスト、クリーン活動、等の活動を計画以上の取り組みをされた事を評価できると考えます。

(唐國委員)

- ・高専ならではの教育課程編成が志向されていると感じます。
- ・③の学生から評価システムのなかで、学生の提案を受け止められるとよいと思います。

(木戸委員)

TOIEC や GPA での客観的評価などを加えた「評価」などが、より学生の関心や意欲を高めるものとなっていると思います。学生の関心や意欲は「教育の原点」であり、それを高めるためのインターンシップなど、外との、社会との交流(刺激)も一層充実していくことを期待しています。

(3)優れた教員の確保について

(東郷委員)

年度計画が着実に実施されていると思う。  
専門科目教員の 80%以上が博士の学位、一般科目教員の 77%以上が修士以上の学位を有しており、専門科目教員の数値目標は達成されているが、一般科目教員の数値目標については 80%にわずかに足りない状況である。

(澤田委員)

(3)②の記載の国内他機関(機関)への内地研修員 1 名は富士通での 1 年での研修された准教授ですか? 説明がわかりにくかったです。また表彰システムの件で、今回は機構本部の顕彰制度に応募されましたが、高専校長による顕彰があってもいいように感じました。

(阿部委員)

目標に沿った形で取組みが進んでおり良いと思う一方で、推進する上での課題があるのなら、それも明記し、次年度以降の計画に盛り込むことも検討してみてもどうか(課題がなければ問題ないが)

	<p>(岸本委員) 自己評価はすべてA:当初計画を予定どおりに達成されているなか、公募採用の現状、教員の優秀人材の応募状況等で改善すべき課題はありませんでしたでしょうか。 教員相互の授業評価結果はどのような結果で、その結果をどのように改善に結び付けているのでしょうか</p> <p>(植松委員) 企業研修は実施されているようですが、企業出身者の採用等は、どのようになっているのでしょうか？</p> <p>(清 委員) 教員採用の公募、企業への研修派遣、女性教員の採用、等を計画以上の取り組みをされた事を評価できると考えます。</p> <p>(木戸委員) 女性教員の優先採用や内地留学など、教員の偏りをなす方向に進められよいことと思います。企業経験者を多くしたり、交流機会を増やしたり、社会ニーズをより取り込める布陣整備が進んで行くことを期待しています。</p>
<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステムについて</p>	<p>(東郷委員) JABEE を受審し、認定を維持できたことは教職員・学生の努力によるもので、評価できる。TOEIC Bridge テストや TOEIC IP テストを利用し、学生の英語力の向上に努めていると思う。</p> <p>(澤田委員) (4)⑦等に“知識・技術をもった意欲ある人材を活用した教育体制”の項において、「メーク実習」が出ているが(他の項にも)、関係があるのか違和感を感じた。</p> <p>(阿部委員) 全体的に結果の見える化が難しい項目だと感じるが、JABEE の受審はどのような形で進められ、評価結果はどのように示されるものなのか教えてほしい 結果の見える学生の TOEIC 受験結果を見て、計画にフィードバックする、目標を追加する項目はあったか</p> <p>(岸本委員) 自己評価はすべてA:当初計画を予定どおりに達成されているのですが、引き続き、学生が主体的に学習できる教育環境づくり、インターンシップの充実、共同研究の促進、英語教育の充実等を図っていただきたいと思います。</p> <p>(植松委員) インターンシップは、今後も継続していただきたい。(可能ならば長期インターンシップ)</p> <p>(清 委員) 教育の質の向上及び改善のためのシステムの PDCA サイクルがうまく回って計画以上の取り組みをされたと考えます。</p> <p>(唐國委員) ・高専で、改めて「アクティブラーニングの推進」という文言を使うことには違和感があります。一般の大学や高校に比べて、はるかに主体的な学びについてはすでに実践されているという認識があります。</p>

	<p>(木戸委員) 「授業の工夫実施例」のポータルサイト掲載など日々の改善、向上が窺われます。新しいことの挑戦なども身近なところから、教員間、教員学生間で自慢し合う雰囲気は推進されていくことを期待しています</p>
<p>(5) 学生支援・生活支援等について</p>	<p>(東郷委員) 年度計画が着実に実施されていると思う。国際交流基金を活用して、学生の海外派遣を積極的に推進している。</p> <p>(澤田委員) (5)②において、寄宿舎などの学生支援設備計画の項で、図書が強調されていたが、沼津高専の目玉である寄宿舎の件、触れることができれば良いと感じました。(電子ジャーナルなどは“教育環境の整備・活用”ではないでしょうか？)</p> <p>(阿部委員) メンタルヘルスの維持は社会的な課題になっているが、本校の特徴である全寮制に起因するような課題があるのかどうか、もしあるのなら明記してはどうか</p> <p>(岸本委員) 学生の皆さんはまだまだ若く、人格形成までも支援、指導さえる教職員の皆さんのご苦労も大変ですが、充実した学生生活を送れる学業・生活環境づくりをよろしく願います。</p> <p>(植松委員) メンタルヘルスは、企業でも非常に大きな課題です。</p> <p>(清 委員) メンタルに関することは非常にデリケートでケース by ケースが多いと感じますが、講習等による計画的な活動が充分取り入れられている事を評価できると考えます。</p> <p>(唐國委員) ・寮以外に、学生会のような自治組織はないのでしょうか？</p> <p>(木戸委員) メンタルヘルス講演会など、学生ひとりひとりに向き合い対応するためのスキル向上にも力を入れている様子が、頼もしく思います。キャリア教育などを通じて社会性や人間力を高めていくことにも期待しています。</p>
<p>(6) 教育環境の整備・活用について</p>	<p>(東郷委員) 年度計画が着実に実施されていると思うが、省エネ・CO2 削減を考慮したキャンパスマスタープランの再構築を推進することが望まれる。</p> <p>(澤田委員) しっかりと取り組まれていると思います。</p> <p>(阿部委員) ハード的な教育環境の充実も重要であるが、ソフト面、例えば、IT を活用した学習環境の改善(革新)といった面も計画に加えてはどうか</p> <p>(岸本委員) 教育の質を高め、かつ先生方の研究活動の成果を上げるためにも、使用設備も含</p>

	<p>め、教育、研究環境を、計画的に整備、充実ください。</p> <p>(清 委員) ISO活動、廃棄物等法的要件にもとづいた活動が計画以上の取り組みをされた事を評価できると考えます。</p> <p>(木戸委員) ワークライフバランスやメンタルヘルスのセミナーなど、より正しい知識の習得は大変良いことと思います。外部からの、その専門家からの知識習得を推進されていくことを期待しています。</p>
--	---

2. 研究や社会連携に関する事項	コメント欄
	<p>(東郷委員) 年度計画が着実に実施されていると思う。研究・技術シーズ集の発行、ビジネスマッチング展示会など、共同研究等の推進に努めている。</p> <p>(澤田委員) 学外相談にインセンティブをあたえたことは良いと思います。</p> <p>(阿部委員) 本校は東部地区を代表する高等教育機関として、地元企業からの期待が大きい。その期待を踏まえた様々な産学、産官学連携の取組みが実施されており、非常に良い流れになっていると思う。既に計画されているが外部との共同研究、教育等の取組みにもさらに力を入れてほしい。</p> <p>(岸本委員) 学外との共同研究、産学連携、学会参加等に積極的に取組み、先生方個人の能力を高め、かつ学校組織機能の機能・質を向上させていただきたいと思います。一つの成果として、知的財産の状況はいかがでしょうか。</p> <p>(清 委員) 計画以上の取り組みをされた事を評価できると考えます。</p> <p>(唐國委員) 長年に亘り、中学生ロボコンの運営をお手伝いいただいています。参加している中学生は、元々ロボット競技に関心のある生徒なので、そこでの高専生の活躍は、周知、宣伝効果が高いものと考えられます。</p> <p>(木戸委員) 外部フォーラムへの参加やシーズ集の配布など社会連携を積極的に推進する姿勢が感じられます。地域創生を推進していく上で、沼津高専が中核的存在となっていくことを切に願っています。</p>

3. 国際交流等に関する事項	コメント欄
	<p>(東郷先生) 年度計画が着実に実施されていると思う。 予算減の中での管理運営は大変であると思うが、効率的な運営と教職員のやる気を引き出す仕組みを構築することが重要であると思う。</p>

	<p>(澤田委員) クモ工科大学校など積極的に交流をされており、継続して進めていただければと思う。また、そこを足がかりに、専攻生の獲得にもつながれば良いと感じた。</p> <p>(阿部委員) 海外の大学との交流協定締結は素晴らしい取り組みだと思う。 大学、大学院では留学生の比率が高まっており、高専においても積極的な取り組みが必要だと思うが、現状の留学生数等、その推移等を明らかにしてほしい。</p> <p>(岸本委員) 異なる文化、価値観を広い視野を持って認識し、世界と交流できる人材を育成するには、教育する先生方も学生以上に国際交流の(世界に出ていく)取り組みが求められるのではないのでしょうか。 本項目は、当初計画どおりの達成状況ですが、必要、十分な計画で、成果は上がりましたでしょうか。</p> <p>(清 委員) 計画以上の取り組みをされた事を評価できると考えます。</p> <p>(木戸委員) 現在の海外からの受け入れ、海外への派遣など、一歩ずつ交流を深め、広げていくこと、またそれが日常的な状況となっていくことを期待しています。</p>
--	---

4. 管理運営に関する事項	コメント欄
	<p>(東郷委員) 年度計画が着実に実施されていると思う。 予算減の中での管理運営は大変であると思うが、効率的な運営と教職員のやる気を引き出す仕組みを構築することが重要であると思う。</p> <p>(澤田委員) 技術職員の交流は積極的に進めると良いと感じる。</p> <p>(阿部委員) 教育機関においてもセキュリティ強化は必須事項となっており物理セキュリティ、サイバーセキュリティ両面からの取り組みをさらに継続して強化してほしい</p> <p>(岸本委員) 学生の学業だけでなく、生活指導にも大きな役割を担われている教職員の皆さんの働き方、働く環境にも配慮した運営をお願いいたします。</p> <p>(清 委員) 計画以上の取り組みをされた事を評価できると考えます。</p> <p>(木戸委員) ハード面(設備、環境、制度、他)と併せて、教職員及び学生、来校者全てが居心地よく過ごせる、笑顔と楽しさに満ちた学校づくりを全員で目指していくことは、あらゆる面でいい波及効果が出てくると思います。</p>

## 5. 総合所感

(本校の教育研究・運営体制等全般に関して、どのような事でも構いませんので、ご自由にご記入ください)

(東郷委員)

平成 27 年度の年度計画実施状況を拝見して、年度計画は、全般的に、校長のリーダーシップの下、順調に実施されていると思う。教育機関としての高専の役割は、学生を受け入れて有為な人材に育成し社会に送り出すことであり、良い学生を入学させるための種々の取組み、学生を育成するための教育プログラムの改善、社会連携、国際交流、研究開発、送り出すための学生支援が年度計画として設定されていると思う。高専の置かれている難しい状況で、更に特徴を出してほしい。

志願者が前年度に引き続いて減少している状況は気になった。

(澤田委員)

沼津高専の卒業生が社会に貢献するためには、ものづくりに関心を持つ中学生をどのように確保するかとの方策もしくはビジョンが必要かと感じた。入学偏差値、入学倍率とは違う尺度が、必要かもしれない。ただし、学生が伸びていくためには、基礎学力は必要なのでバランスを考えた選抜方法が必要であろう。(安易な AO 入試とは違ったものがあればいいのだが)

学校管理、国際化など十分に取組みされており、評価したい。

(阿部委員)

沼津高専の教育理念・方針に基づき、継続して様々な取組みが行われており、地元企業を中心とした社会の要請に応える技術者を送り出すという役割を果たしていると感じる。

ただ、優秀な卒業生を中心に進学する学生の比率が高まる中で、本来の高専が持つ特色が薄れない、高専の独自性を維持できるような教育の在り方についても検討していく必要があるのではないかと思う。是非、このあたりも併せて引き続き取り組んでいただきたいと思う。

(岸本委員)

全般に当初計画を予定どおりに達成され、自己評価がほとんど A 以上と良い判定は、教職員の皆さんのご努力の結果と喜ばしく存じ上げます。

しかしながら、計画を実施した結果、どのような成果があがったか、どのような改善に繋がったか、また、反省も含め、課題・問題を認識し、次にどのように繋げていくのか等の記載をもう少し充実していただくことを望みます。“成果”に対する評価を実施いただきたいと思います。

教育、研究について、定量的評価はなじまない事項が多いとは思いますが、定性的な評価に、定量的な目標設定とその評価を織り込む等の工夫を加えることも検討いただければと存じます。(企業的な発想で恐縮です)

(勝手を申し上げましたが)引き続き、地域は勿論、日本、世界で活躍し、貢献する優秀人材の育成、輩出にご尽力くださいますようお願いいたします。

(清 委員)

年度計画に基づき、きめ細かく着実に実行され、計画以上の成果を出されている事が評価できると考えます。

(木戸委員)

共同教育(インターンシップ)の重要性については言うまでもありませんが、「情熱のある(常に内部から成長していく)受け入れ先(企業等)、特に地方創生に大きく繋がる地場企業との、日頃からの関係づくりや開拓が重要と考えます。インターンシップそのものの有効性の向上だけに留まらず、本音同士で関係する(成長する)ことを通じて、学生にも教員にも高専教育全般に、更に受け入れ先でもよい効果をもたらすきっかけになることを期待しています。

沼津工業高等専門学校 年度計画

自己点検評価表

沼津工業高等専門学校 平成27年度 年度計画 自己点検評価表(H28運営諮問会議資料)

沼津高専 第3期中期計画	平成27年度年度計画	担当部署	平成27年度年度計画実施状況	自己評価点
<p>(基本方針)</p> <p>沼津工業高等専門学校は、中学校卒業後の早い段階から、座学だけでなく実験・実習・実技等の体験的な学習を重視したきめ細やかな教育指導を行うことにより、産業界に実践的技術者を継続的に送り出してきており、また、近年ではより高度な知識技術を修得するために4割を超える卒業生が進学している。</p> <p>さらに、これまで蓄積してきた知的資産や技術的成果をもとに、生産現場における技術相談や共同研究など地域や産業界との連携への期待も高まっている。</p> <p>このように本校にさまざまな役割が期待される中、高等学校や大学とは異なる高等専門学校の本来の魅力を一層高めていかなければならない。</p> <p>こうした認識のもと、大学とは異なる高等教育機関としての本校が固有の機能を充実強化することを基本方針とし、中期目標を達成するための中期計画を以下のとおりとする。</p>			<p>〈自己評価点 SABC/4段階評価について〉</p> <p>S …… 当初の年度計画以上の取り組みを実行した</p> <p>A …… 年度計画どおり実行した</p> <p>B …… 年度計画達成には至らなかったが、具体的な取り組みを行った。</p> <p>C …… 全く実行していない</p>	
<p>I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置</p> <p>1 教育に関する事項</p> <p>本校が本校独自の学科を設け、所定の収容定員の学生を対象として、高等学校や大学の教育課程とは異なり中学校卒業後の早い段階から実験・実習・実技等の体験的な学習を重視した教育を行い、製造業を始めとする様々な分野において創造力ある技術者として将来活躍するための基礎となる知識と技術、さらには生涯にわたって学ぶ力を確実に身に付けさせるため、以下の観点に基づき本校の教育実施体制を整備する。</p>	<p>I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置</p> <p>1 教育に関する事項</p>			
<p>(1)入学者の確保</p> <p>① 地区中学校長会などの地域教区組織への広報活動を行うとともに、メディア等を通じた積極的な広報を行う。</p>	<p>(1)入学者の確保</p> <p>① 地区の各校長会の校長を訪問し、情報交換を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員による中学校訪問を引き続き行うとともに、中学校主催の進学説明会にも積極的に参加する。</li> <li>・ホームページを活用した広報活動を引き続き積極的に行う。</li> <li>・本校開催のイベントや研究・教育活動の情報を新聞社等、マスメディアに積極的に情報提供し、本校の社会における認知度を高める。</li> </ul>	<p>アドミッション委員会</p>	<p>(1)入学者の確保</p> <p>①沼津、三島地区などの校長会の校長を訪問し、情報交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員による中学校訪問を昨年度より13%増の143校に対して実施し、中学校主催の高校説明会には10校に参加した。</li> <li>・ホームページを活用した情報発信(入試案内や入試広報)を継続して実施した。</li> <li>・本校開催のイベント等や研究・教育活動の情報を新聞社等に積極的に情報提供し73件が掲載され、ホームページにも随時情報を掲載した。</li> </ul>	<p>A</p>

沼津高専 第3期中期計画	平成27年度年度計画	担当部署	平成27年度年度計画実施状況	自己評価点
② 中学生が本校の学習内容を体験できるような入学説明会、体験入学、オープンキャンパス等を充実させ、特に女子学生の志願者確保に向けた取組を推進する。	② 全校あがりのオープンキャンパス「一日体験入学」や、授業内容の一部が体験できる「中学生のための体験授業」、「ミニ体験授業」、「出前授業」の体験型オープンキャンパスに加え「進学説明会」、「キャンパスツアー」の見学型オープンキャンパス等を切れ目なく実施する。 ・女子学生の志願者確保の観点から、女子中学生を意識した入試広報パンフレットを作成するとともに、高専機構作成の女子中学生向けパンフレットの有効活用を行う。 ・公式ホームページ内の受験生向けページをリニューアルし、より中学生に分かりやすい構成とするとともに、女子中学生向け情報を充実させる。 ・志願者が減少した県東部地区の対策として、教職員による中学校訪問を重点的に行うなど、広報活動の強化を図る。	アドミッション委員会	② 昨年度に引き続き、体験型オープンキャンパスとして「一日体験入学」、「中学生のための体験授業」、「ミニ体験授業」、「出前授業」を見学型オープンキャンパスとして「進学説明会」、「キャンパスツアー」を実施した。 「一日体験入学」は8/8実施(1070名が参加)、「中学生のための体験授業」は10/10実施、「ミニ体験授業」は高専祭期間中に実施、「出前授業」は全33テーマをホームページ等で提示して募集を行い、地元中学校や公民館等で8回実施した。「進学説明会」は8回開催し、中学生・保護者・中学教員ら1097名が参加した。また学校見学会として「キャンパスツアー」を実施し74名の参加があった。 ・在校女子学生のインタビュー記事を掲載した入試広報パンフレットや「キラキラ高専ガールになろう」を各種の広報イベントで配布するなど女子学生の志願者確保に向けた取組を行った。 ・公式ホームページ内の入学案内ページを更新し、入学希望者により分かりやすい構成とするとともに、新たに女子中学生向けのページ「わたしたち高専ガール!!」を新設した。 ・志願者が減少した県東部地区の対策として、教職員による中学校訪問を重点的に行った。	A
③ 中学生やその保護者を対象とする本校に有益な広報資料を作成する。	③ 中学生やその保護者を対象とする本校独自の広報資料を作成し、県内及び近隣県(神奈川・山梨県)の中学校へ配布するとともに、高専機構にも広報資料を提供する。 ・高専機構作成の広報資料の有効活用を行う。	アドミッション委員会	③ 中学生やその保護者を対象とする本校独自の広報資料2種類(リーフレット及びパンフレット)を作成し、県内264校及び近隣県(山梨県86校・神奈川県100校)の中学校へ配布し、高専機構に本校の広報誌や掲載写真を提供した。 ・高専機構作成の女子中学生向けパンフレット「キラキラ高専ガールになろう」を各種の広報イベントで配布し、「広報用映像」DVDを披露するなど高専全体のPRに努めた。	A
④ ものづくりに関心と適性を有する者など国立高等専門学校の教育にふさわしい人材を的確に選抜できるように適切な入試を実施する。	④ 入試成績と入学後の学力との相関関係等について継続的に分析を行う。得られた結果に基づき、アドミッション委員会において現行の入試制度や選抜基準等が妥当であるかについて検証を行い、必要があれば入試制度の見直しを行う。	アドミッション委員会	④ アドミッション委員会において、入試成績と1年次成績の比較分析等を行った結果、入学後の学力と中学校の内申点に最も相関がみられることから、本年度も現行の入試制度を継続していくこととしたが、引き続き入試制度のあり方について検討していくこととした。 ・昨年度と同様、県西部地区の受験者の便宜を図るため、本校及び浜松の2会場で入試を実施した。	A
⑤ 入学者の学力水準の維持に努めるとともに、女子学生等の受入れを推進し、入学志願者の質を維持する。	⑤ 入学者の学力水準の維持、向上を目指すとともに、入学志願者数の確保(広報活動の充実)に継続して努力する。	アドミッション委員会	⑤ 入学者の学力水準の維持、向上を目指すとともに、入学志願者数の確保(広報活動の充実)に継続して取り組んだが、平成28年度志願者は昨年度より14名減の269名(うち女子は昨年度より2名減の36名)であった。 ・合格者の中学校内申点については、昨年度と比べてほぼ同等であることから、入学者の学力水準は維持できたと考えている。	A
(2)教育課程の編成等 ① 産業構造の変化や技術の高度化、少子化の進行、社会・産業・地域ニーズ等を踏まえ、本校がその機能を発揮し、専門的かつ実践的な知識と世界水準の技術を有し、自律的、協働的、創造的な姿勢でグローバルな視点を持って社会の諸課題に立ち向かう、科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者を養成するため、学科再編、専攻科の充実等を行う。またその際、本校の地域の特性を踏まえ、教育研究の個性化、活性化、高度化がより一層進展するよう配慮する。 また、その前提となる社会・産業・地域ニーズ等の把握に当たっては、法人本部が作成するニーズ把握の統一的手法を利用する。	(2)教育課程の編成等 ・1年次混合学級と工学基礎Ⅰ・Ⅱの授業・実習、2年次ミニ研究について、本年度も改善しながら実施する。4年次の学際教育を計画通り実施して改善点を明確にする。改編された専攻科においては、専攻科長およびコース長を中心に確実な運営を進める。 ・平成26年度の3年生に加え、平成27年度は4年生の学際教育が開始される。いずれも大教室での授業となることから、円滑な授業実施に向け環境を整える。 ・改編専攻科2年目となる今年度、専攻科2年生の授業、実験、研究が円滑に進められるよう努める。 ・社会的要請から平成26年度より新たなスタイルで始まった特別課程「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」の7期生8名に対し、講義の実施等、円滑な運営に努める。	教務委員会、専攻科 地域共同テクノセンター長	(2)教育課程の編成等 ・平成24年度新入生から適用を開始した新教育課程、現行の専門5学科を維持して、1学年のみ混合学級、2学年ミニ研究、3・4・5学年に環境・エネルギー、医療・福祉、新機能材料の学際3分野のいずれかを選択する学際教育を進めた。本年度は新たに4年生に対し、学際3分野の授業を開始した。加えて、後期は3分野共通の地域指向科目「社会と工学」を開講した。専攻科は学際分野を深めた3コースから成る総合システム工学専攻への改編後、初となる修了生を輩出した。 ・学際教育の教育効果を挙げるための施設として学際教育実験棟を概算要求した。 ・2年目を迎えた改編専攻科の円滑な授業運営に努め、その結果全員の修了が認められた。 ・「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」の後継事業として設けた単年度事業「沼津高専特別課程」の7期生8名に対し計画のとおり外部講師を中心に講義を実施した。	A

沼津高専 第3期中期計画	平成27年度年度計画	担当部署	平成27年度年度計画実施状況	自己評価点
	①-2平成26年度より開始された1専攻(総合システム工学専攻)3コース制の改編専攻科の教育を着実に進める。	専攻科長	①-2学習教育目標の新たな評価・点検法としてルーブリックとポートフォリオを導入した教育を着実に進めた。また、長期インターンシップでは学生を希望通りの配属先に派遣することができ、中間報告会では確実に実務が身につくことを確認した。	A
②各分野において基幹的な科目について必要な知識と技術の修得状況や英語力を把握し、教育課程の改善に役立てるために、学習到達度試験を実施し、試験結果の分析を行うとともに公表する。また、英語については、TOEICなどを積極的に活用し、技術者として必要とされる英語力を伸長させる。	② 1,2年生でTOEIC Bridgeテスト、3,4年生でTOEIC IPテストを全学生に受験させることを継続する。その結果、授業内容・方法の改善に役立てる。 ・高専機構と豊橋技大とが企画する教員研修制度(英語による専門授業)に教員を派遣し、本校における教員の英語力強化の中核人材とする。 ・3年の全国高専学習到達度試験「数学」、「物理」に継続して参加し、その結果を活用して、該当科目の修得状況を把握し、教養科と専門学科とで連携して数学、物理の力を伸ばすための教育改善に役立てる。 ・4年生に工学系数学統一試験を全学生に受験させることを継続する。	教務委員会	② 1,2学年にTOEIC Bridge テスト、3,4学年に TOEIC IP テストを受験させた。その結果を活用し、英語の授業を中心に技術者として必要とされるコミュニケーション能力を伸長させた。 ・高専機構が開催した教員研修(英語による専門授業)に参加した教員を講師とした教員の英語力強化研修会を開催した。 ・3年の全国高専学習到達度試験「数学」、「物理」に継続して参加し、その結果を活用して、該当科目の修得状況を把握し、教養科と専門学科とで連携して数学、物理の力を伸ばすための教育改善に役立てた。 ・工学系数学統一試験を全4年生に受験させた。	A
③卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価を実施し、その結果を積極的に活用する。	③ 学生による適切な授業評価・学習到達度評価を実施し、その結果を教育方法の改善に活用する。 ・GPA自動計算システムと学生授業アンケートを活用し、継続的に平成24年度導入の新教育制度(1年生工学基礎、2年生ミニ研究)の評価と改善を行う。 ・3年生と5年生による学習到達度自己評価を実施し、平成24年度から移行した新教育課程による教育課程改善の効果の検証に役立てるためのデータを蓄積する。	教務委員会	③学生による適切な授業評価・学習到達度評価を実施し、その結果を教育方法の改善に活用した。 ・平成25年度に導入したGPA自動計算システムと学生授業アンケートを活用し、継続的に平成24年度導入の新教育制度(1年生工学基礎、2年生ミニ研究)の評価と改善を行った。 ・3年生、5年生に学習到達度自己評価を実施し、平成24年度からのデータを蓄積した。	A
④公私立高等専門学校と協力して開催される、スポーツなどの全国的な競技会やロボットコンテストなどの全国的なコンテストに参加する。	④ 高専体育大会、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザコンコンペティション、英語プレゼンテーションコンテストなどに積極的に参加し、運営に協力する。特に、東海北陸地区高専ロボコン大会を主催校として開催する。・全国高専デザインコンペティションと同時開催することになった「学生による3次元デジタル設計造形コンテスト(CADコン)」に参加する。平成25年度「大学間連携共同教育推進事業(KOSEN発イノベーション・ジャパン)」の連携校として引き続き事業の運営に協力するとともに、「社会実装コンテスト」に参加するチームの増加に努める。 ・専攻科では、引き続き、静岡県東部地域の近隣大学間共同学生研究発表会や高専シンポジウム等、学会への所属を要せず参加できる研究発表会での研究発表を積極的に奨励する。また、専攻科1年後期に長期インターンシップを実施し、これをきっかけに地域企業や大学院との連携、共同研究を活発にし、専攻科生の従来の専門分野を超えたイノベーションな創造的実践的技術者の育成を目指す。	学生委員会	④・東海地区高専体育大会では野球、卓球競技の運営を担当した。 ・東海北陸地区高専ロボットコンテストの運営を担当した。本校は2チームとも1回戦で敗退したが、1チームはアイデア賞に輝いた。 ・全国高専プログラミングコンテストに電子制御工学科5年生チームが出場し、競技部門3位に入賞した。 ・全国高専デザインコンテスト(デザコンAM部門)に制御情報工学科と機械工学科、専攻科から成るをチーム(専攻科2年生、4年生、計4名)が出場し、最優秀賞を獲得した。 ・東海北陸地区高専英語スピーチコンテストは2名が3位に入賞した。 ・平成27年度「大学間連携共同教育推進事業(KOSEN発イノベーション・ジャパン)」の連携校として引き続き事業の運営に協力するとともに、「社会実装コンテスト」に参加し、社会実験賞等3つの賞を獲得した。 ・本科4・5年生のインターンシップをこれまでと同様に継続した。昨年度から開始した専攻科1年生の長期学外実習(10月、11月、12月、1月の4ヶ月間)には地域の優良企業ならびに大学を中心に学生を派遣して共同教育を実践した。	A
⑤ボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動の実績を踏まえ、その実施を推進する。	⑤ 1~4年生全クラスで校外内の清掃を行う「クリーン活動」を実施する。また、学生会を中心に校外でのボランティア活動を行う。さらには、1年生のオリエンテーション研修、3年生のスキー研修を通じて自然体験活動を行う。 ・寮においては、寮生による近隣中学校放課後学習支援および休日学習支援を継続する。	学生委員会 寮務委員会	⑤1~4年生全クラスでクリーン活動を行った。また8月、県教育委員会等後援のイベント「学ぶ! 未来の遊園地」に学生会を中心として約10名の学生がボランティア参加した。11月、沼津市主催イベント「よさこい東海道」に学生会を中心として約20名の学生がボランティア参加した。11月、三島市主催イベント「三島秋祭り」に学生会を中心として約10名の学生がボランティア参加した。さらには、4月、国立中央青少年交流の家に1年オリエンテーション研修を行った。1月、ふじてんスノーリゾートにて3年スキー研修を行った。 ・寮においては、授業時間の関係で寮生による近隣中学校放課後学習支援はできなかったが、休日学習支援を6回(12月~1月)を実施した。	A

沼津高専 第3期中期計画	平成27年度年度計画	担当部署	平成27年度年度計画実施状況	自己評価点
<p>(3)優れた教員の確保 ①多様な背景を持つ教員組織とするため、公募制の導入などにより、教授及び准教授については、採用された学校以外の高等専門学校や大学、高等学校、民間企業、研究機関などにおいて過去に勤務した経験を持つ者、又は1年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を持つ者が、全体として60%を下回らないようにする。</p>	<p>(3)優れた教員の確保 ①教員の採用は公募制を原則とする。本校外の勤務経験や1年以上の長期にわたる海外での研究や経済協力に従事した経験を、採用・昇任にあたって重視し、教授・准教授については、これらの経験を持つ者が、全体として60%を下回らないようにする。</p>	校長、教務主事	<p>(3)優れた教員の確保 ①教員の採用はすべて公募制とした。 ・本校外での1年以上の勤務、海外での研究や経済協力などに従事した経験を有する教員は全体で61%であった。 ・専門学科(教養科理系)で博士の学位を取得している教員は80%、教養科で修士以上の学位を有する教員は77%であった。</p>	A
<p>②教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、採用された学校以外の高等専門学校などに1年以上の長期にわたって勤務し、またもとの勤務校に戻ることでできる人事制度を活用するほか、大学、企業などとの任期を付した人事交流を図る。</p>	<p>②教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、本校以外の高等専門学校や企業において1年以上の長期にわたる任期を付した人事交流を図る。</p>	校長、教務主事	<p>②・国内他機関(企業)への内地研究員1名、海外機関・大学への在外研究員への1名を派遣した。 ・現状准教授1名が富士通(株)において1年間の研修を行った。</p>	A
<p>③専門科目(理系の一般科目を含む。以下同じ。)については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%を下回らないようにする。</p>	<p>③昨年度と同様、専門科目(理系の一般科目を含む。以下同じ。)については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や高等学校等における教育経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%を下回らないようにする。</p>	校長、教務主事	<p>③本年度採用を内定した1名の専門教員は博士の学位取得済み。教養科1名の採用内定者は修士取得済みであり、目標を達成した。 ・採用に当たっては、博士・技術士等の資格、海外経験等を重視している。また女性の採用も積極的に行っており、平成28年度には1名の女性教員を新規採用した。 ・専門学科(教養科理系)で博士の学位を取得している教員は80%、教養科で修士以上の学位を有する教員は77%であった。</p>	A
<p>④女性教員の比率向上を図るため、必要な制度や支援策について引き続き検討を行い、働きやすい職場環境の整備に努める。</p>	<p>④引き続き、女性教員への面談等を実施し、女性教員の働きやすい職場環境に配慮しつつ、現場教員の要望を反映できるような体制整備を図る。窓口となる女性教員を中心として機構が主催する男女共同参画事業に積極的に参加するように努める。学寮巡回業務を希望する曜日を女性教員に聞き取り、それに沿った割振りを継続する。</p>	校長、3主事	<p>④教員採用の際、同レベルの応募者の中には女性教員の採用を優先した。 ・女性教員との面接等により希望を聴取し働きやすい環境の整備に努めた。 ・学寮巡回業務を希望する曜日を女性教員から聞き取り、それに沿った割振りを継続した。 ・校長が女性教員を含む全教員と面談を行い、それぞれの要望を聞いて、働きやすい職場作りを行った。</p>	A
<p>⑤中期目標の期間中に、全ての教員が参加できるようにファカルティ・ディベロップメントなどの教員の能力向上を目的とした研修を実施する。また、特に一般科目や生活指導などに関する研修のため、地元教育委員会等と連携し、高等学校の教員を対象とする研修等に派遣する。</p>	<p>⑤教員相互の授業参観を引き続き実施する。教員FD研修会を年4回、開催し、教員個々の教育力向上に資するための取り組みを継続する。また、機構が開催する「教員研修(クラス運営・生活指導研修会)」や一般科目研修等に積極的に参加者を派遣する。 ・生活指導に関し主に高等学校教員を対象とした「生徒指導沼津地区研究協議会(生地研)」に教員を派遣する。また、東海北陸地区高専学生指導力向上研修会に積極的に参加・協力する。</p>	校長、3主事	<p>⑤従前の計画通り、年4回(5月、8月、10月、1月)の教員FD研修会を計画的に開催した。 ・教員相互の授業参観を引き続き実施した。また、授業改善委へつながらよう参観後に提出された報告書は参観授業提供教員に開示した。 ・機構が開催する「教員研修(クラス運営・生活指導研修会)」や一般科目研修等に積極的に参加者を派遣した。 ・年5回開かれる「生徒指導沼津地区研究協議会(生地研)」に5名の学生主事補・委員等を派遣し、教員FDの一助とした。また、3月、東海北陸地区高専学生指導力向上研修会に、次年度初めて担任をする教員4名を派遣し、助言者として学生主事が参加することにより、同研修会の運営に積極的に協力した。</p>	A
<p>⑥教育活動や生活指導などにおいて顕著な功績が認められる教員や教員グループを毎年度表彰する。</p>	<p>⑥引き続き、優秀な教職員への意識の高揚の観点から、機構本部で実施する教職員顕彰制度に積極的に推薦していく。</p>	校長、3主事	<p>⑥・機構本部の教職員顕彰制度に応募を継続した。</p>	A
<p>⑦文部科学省の制度や外部資金を活用して、中期目標の期間中に、長期短期を問わず国内外の大学等で研究・研修する機会を設けるとともに、教員の国際学会への参加を促進する。</p>	<p>⑦教員の国内外の学会での発表、大学等での研究又は研修等への積極的な参加を推進する。昨年度に引き続き、教員の研究力を向上するために、査読付き論文を執筆した教員に校長リーダーシップ経費から報奨金を出す。</p>	校長・教務主事	<p>⑦教員の国内外の学会での発表、大学等での研究又は研修等への積極的な参加を推進した。 ・学外での学会活動に積極的な教員に優先的に校長リーダーシップ経費から研究奨励費として9件を配分した。</p>	A

沼津高専 第3期中期計画	平成27年度年度計画	担当部署	平成27年度年度計画実施状況	自己評価点
<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <p>① 本部が進める全高等専門学校が利用できる教材の共有化を進め、学生の主体的な学びを実現するICT活用教育環境を整備することにより、モデルコアカリキュラムの導入を加速化し、高等専門学校教育の質保証を推進する。</p>	<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <p>①-1 本部が進める全高等専門学校が利用できる教材の共有化に向け、共通に利用可能なプログラムの開発を行う。また、他高専から提供された教材の利活用を試みる。学生の主体的な学びを実現するアクティブラーニングの推進に向け教員FDIにおいてその手法を共有する。ICT活用教育環境を整備する。専攻科授業やプログラム科目においてルーブリック評価導入を目指す。上記試みにより、本校における教育の質保証と業務の効率化を推進する。</p> <p>①-2 高専機構が進めている、「高専学生情報統合システム」の整備に向けて、必要な範囲で協力する。</p>	<p>校長・教務主事</p>	<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <p>①-1モデルコアカリキュラムの充足を確認したうえで、学生にはポートフォリオの活用を進めた。教員はシラバスで提示した教育目標の達成度を評価するルーブリックを依頼し、JABEEコースに当たる本科第4・5学年のプログラム科目及び専攻科に全国ではじめて導入し、JABEEを受審した。その結果、この取り組みに高い評価が得られた。</p> <p>・高専機構が主催する「全国高専教育フォーラム」や各種シンポジウムに積極的に参加した。また、本校が進めている教育の高度化については口頭発表も行った。</p> <p>・沼津高専版教育改革「学際科目の導入」の2年目にあたる本年、4年生に導入した地域指向科目「社会と工学」を実施し、大きな成果を得た。</p> <p>・学生の主体的な学びを実現するアクティブラーニングの推進に向け教員FDIにおいてその手法を共有した。</p>	<p>S</p>
<p>② 実践的技術者養成の観点から、在学中の資格取得を推進するとともに、日本技術者教育認定機構によるプログラム認定等を活用して教育の質の向上を図る。</p>	<p>② 英語によるコミュニケーション能力の向上を推進する目的で、TOEIC及び工業英語能力検定の受験を推進する。</p> <p>・改編専攻科においても引き続き日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定レベルを維持するとともにJABEE審査を受審する。</p> <p>・JABEEの継続審査を控え、認定が維持できるようグローバル化を見据えた「チームワーク力の向上」と「デザイン教育の充実」を中心にさらなる教育改善に取り組む。</p> <p>・「学習・教育目標」と「実践指針」が社会からの要請に応えたものになっているか、「ルーブリック」と「シラバス」がこの学習・教育目標と実践指針を着実に達成できる仕組みになっているか、「ポートフォリオ」による自己点検が確実に実施され、学生が意欲的に学ぶ仕組みになっているかについてのPDCAを着実に実行する。</p>	<p>教務主事</p> <p>専攻科長</p>	<p>②・1,2学年でTOEIC Bridge テスト、3,4学年で TOEIC IP テストを受験させた。その結果を活用し、技術者として必要とされるコミュニケーション能力を伸長させる方策を英語科を中心に検討した。</p> <p>・高専機構が開催した教員研修(英語による専門授業)に参加した教員を講師とした教員の英語力強化研修会を開催した。</p> <p>・JABEEの継続審査を受審し、実地審査および一次報告書でA16個、C9個、W0個、DO個の審査結果を得た。認定を維持できた。</p> <p>・「チームワーク力の向上」では、専攻科の長期インターンシップ、「デザイン教育の充実」では、「エンジニアリングデザイン」を授業目標に取り入れた科目を複数設定し、充実を図った。</p> <p>・初代校長の遺訓、卒業生・修了生の就職先や進学先における活躍分野、運営諮問会議からの提言、地元静岡県産の産業等の特質を考慮して学習教育目標を設定している。プログラム科目では、該当する学習教育目標の実践指針を「シラバス」に明記し、「ルーブリック」によって設定レベルを達成できたかを確認できる仕組みになっている。「ポートフォリオ」では達成度レーダチャートによって、各実践指針の達成度を自己点検できるようになっており、学生が意欲的に学習教育目標の達成に向けて取り組めるようにした。PDCAは着実に実行された。</p>	<p>A</p>

沼津高専 第3期中期計画	平成27年度年度計画	担当部署	平成27年度年度計画実施状況	自己評価点
③ 毎年度サマースクールや国内留学などの多様な方法で学校の枠を超えた学生の交流活動を推進する。	③ 教育研究交流協定を締結している東京工業大学、静岡大学、東京医科歯科大学及び豊橋技術科学大学と、専攻科1年生の長期学外実習の学生受入れ等、具体的交流の実現を推進する。 ・学生会においても他高専等との交流活動を積極的に推進する。 ・寮において、他高専との交換寮生、交流を引き続き実施する。	3主事	③ 静岡大学3名、東京医科歯科大学1名、長岡技術科学大学1名の専攻科1年生が長期インターンシップを実施したを受け入れて頂いた。 ・沼津市教育委員会主導のGNHIに学生会役員が参加し、機関紙「ぬまつぶろいど」を発行した。8月、沼津市教育委員会主催の「2015しゃべり場inぬまつ」に参加した。8月、平成27年度沼駿地区高校生交通安全地域連絡協議会に参加した。3月、中部地区高専学生会交流会に参加し、他高専学生会と交流した。 ・寮において鈴鹿高専、和歌山高専、豊田高専との交流行事をそれぞれ実施した。	A
④ 本校における特色ある教育方法の取組を促進するため、優れた教育実践例を取りまとめ、総合データベースで共有するとともに、毎年度まとめて公表する。	④ 本校教員による授業の工夫実践例を継続的に調査収集し、本校のポータルサイト上に公開することにより全教員で情報共有し互いの授業改善に有効活用する。機構本部が集めた教育改善事例を活用する。	教務主事	④ 本年度本校教員による授業の工夫実践例を調査収集し、本校のポータルサイト上に公開した。得られた情報を全教員で共有し互いの授業改善に有効活用した。	A
⑤ 学校教育法第123条において準用する第109条第1項に規定する教育研究の状況についての自己点検・評価、及び同条第2項に基づく文部科学大臣の認証を受けた者による評価など多角的な評価への取組によって教育の質の保証がなされるように、評価結果及び改善の取組例について総合データベースで共有する。	⑤ 機関別認証評価(H23年度受審)の評価結果に基づく教育の質の保証を確保するために、外部委員による多角的な外部評価を毎年実施し、その評価結果及び改善の取組等を本校公式HP等に掲載し、広く公表する。	校長、教務主事	⑤ 平成20年度から継続的に実施している、年度計画に対する自己点検評価結果を基に外部有識者を構成委員とする運営諮問会議による外部評価を受け、指摘を受けた事項を学内のPDCAサイクルに載せて改善に努める体制を継続実施した。	A
⑥ 中期目標の期間中に、8割の学生が卒業までにインターンシップに参加できるよう、産業界等との連携を組織的に推進するとともに、地域産業界との連携によるカリキュラム・教材の開発など共同教育の推進に向けた実施体制の整備を図る。	⑥ 1,2年生対象キャリア教育として地元企業から講師を派遣して頂く「Futureしずおか」や、地元企業等を招いて行う「就職祭」等を通して、地域企業との「共同教育」を推進する。 本科4・5年生のインターンシップはこれまでと同様に継続することとし、専攻科1年生の長期学外実習は地域の優良企業を中心に学生を派遣して共同教育の推進に向けた実施体制の充実を図る。 4年生に導入する学際科目「社会と工学」は、地域自治体、商工会議所、企業、金融機関と連携した地域志向科目とする。	教務主事、学生主事	⑥ 静岡新聞社の協力を得て「Futureしずおか」を10月、11月に各クラス2回ずつ、合計4回実施した。静岡県の企業から計16社、延20講義の講師を派遣頂いた。また、地元企業等35社に出展いただき、3月に「就職祭」を実施した。女子学生に対しては「メーク実習」を行い、企業人材を活用した。 ・本科4年生のインターンシップを継続して実施した。4年生の半数が参加した。 ・4年生の学際科目「社会と工学」では、地域自治体、商工会議所、企業、金融機関と連携し、地元技術者や行政関係者に来校いただく等、地域志向科目として共同教育を実施した。	A
⑦ 企業技術者や外部の専門家など、知識・技術をもった意欲ある人材を活用した教育体制の構築を図る。	⑦ 学生キャリア支援室を中心として、「Futureしずおか」、「就職祭」、「模擬面接」等を通して、企業人材を学生のキャリア教育に活用する。 ・4年生の学際科目「社会と工学」を地域志向科目とするため、地元の技術者や行政関係者等を講師とした共同教育を開発する。	教務主事、学生主事	⑦ 専攻科を含めた全ての学年に亘り、計画されたプログラムに沿ったキャリア教育を実施した。女子学生に対して化粧と立ち居振る舞いのための「メーク実習」を企業関係者を講師に実施した。 ・就職祭を、協定の改訂に基づき3月に開催した。 ・協定の改定に伴い、来年度の就職活動について、夏ごろより検討を始め、企業との綿密な情報交換を行うなど、円滑な就職活動に向けて準備した。 ・各学科で行っている就職活動の問題点や課題は、キャリア支援室を通じて検討し、情報の共有化と、対応の同質化を行った。 ・4年生の学際科目「社会と工学」では、地域自治体、商工会議所、企業、金融機関と連携し、地元技術者や行政関係者と調整した上で、地域志向科目として実施した。	A

沼津高専 第3期中期計画	平成27年度年度計画	担当部署	平成27年度年度計画実施状況	自己評価点
<p>⑧理工系大学、とりわけ技術科学大学との間で定期的な協議の場を設け、教員の研修、教育課程の改善、高等専門学校卒業生の継続教育などの分野で、有機的な連携を推進する。本科卒業後の編入学先として設置された技術科学大学との間で役割分担を明確にした上で必要な見直しを行い、より一層円滑な接続を図る。</p>	<p>⑧ 教育研究交流協定を締結した東京工業大学、静岡大学及び日本大学国際関係学部をはじめ、豊橋技術科学大学・長岡技術科学大学等との連携を生かし専攻科1年生の長期学外実習の学生受け入れの拡大を進めるとともに豊橋・長岡両技術科学大学と本校教員の共同研究も進める。さらに昨年度協定を結んだ東京医科歯科大学ともインターンシップ先を広げていく。</p>	<p>校長、教務主事</p>	<p>⑧静岡大学で3名、東京医科歯科大学で1名長岡岡大で1名の専攻科1年生が長期インターンシップを実施した。また、長岡技術科学大学と本校教員との共同研究(1件)が進められた。 ・上記のとおり、「Futureしずおか」、「就職祭」、「模擬面接」等を通して、企業人材を学生のキャリア教育に活用したが、女子学生に対する特別な取り組みとしては、「メイク実習」と称した、化粧と立ち居振る舞いについての実習を設け、企業人材を活用した講座を開講した。</p>	<p>A</p>
<p>⑨ インターネットなどを活用したICT活用教育の取組を充実させる。</p>	<p>⑨ 総合情報センターは、Moodleのハードウェアを管理、教育用計算機システムの環境を保つ。 ・H27年度は、教育用計算機システムをリプレイス(2015年3月)を引き継いだ年度であるため、まずはICTを行うための端末がトラブルが無いような状態に持っていきととも、組織としてその状態を保てるような体制を整える。</p>	<p>総合情報センター長 教務主事 (e-LearningWG)</p>	<p>⑨2015年3月にリプレイスされた教育用計算機システムにおいて、設定最適化に向けて微調整を進めた。また、ソフトウェア環境を最新の状態に保ち、質の高い計算機環境を提供できるよう環境を整えた。</p>	<p>A</p>
<p>(5)学生支援・生活支援等 ① 中学校卒業直後の学生を受け入れ、かつ、相当数の学生が寄宿舎生活を送っている特性を踏まえ、本校のメンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の質の向上及び支援業務等における中核的人材の育成等を推進する。</p>	<p>(5)学生支援・生活支援等 ① 全ての教員を対象としたメンタルヘルス講習を教員FD研修会にて実施する。学生生活支援室主催の講演会等を、1年生、2年生、5年生、新入生保護者を対象に実施する。学生生活支援室主導で5月に機構作成の自殺予防アンケート「こころと体の健康調査」を行い、その結果を全保護者に通知することで学校と家庭の連携を図るとともに、関係教職員による情報交換会議の開催と危険度の高い学生氏名の全教職員への周知により、学内での情報の共有化を図る。11月には学生生活支援室作成の「学生アンケート」を行い、主にいじめの発見に努める。また、学生生活支援室長と三主事との情報交換会議を毎月1回行う。学生主事主催で課外教育特別講演会や、クラブ活動及び全教員対象の救急救命講習会を実施する。さらには、低学年クラスに対しQ-Uテストを実施する。 ・寮においては、寮生リーダー研修において引き続き救命救急講習を行う。また低学年年寮生に対し、本校カウンセラーによるメンタルヘルスに関する講演を行う。</p>	<p>学生主事、寮務主事 学生生活支援室長</p>	<p>(5)学生支援・生活支援等 ① ・全教職員を対象に「大人の自閉症スペクトラム」と題して精神科医によるメンタルヘルス講演会を行った。また1年生には性教育に関する講演を、2年生にはデートDVに関する講演を、5年生にはメンタルヘルスに関する講演を行った。さらに、5月には新入生保護者対象のメンタルヘルスの講演会を実施した。 アンケート結果は、いずれの講演会でも好意的な意見が多く見られた。5月には「こころと体の健康調査」を実施し、主に希死念慮等リスクの把握に努めるとともに、結果を全保護者に通知し、情報共有に務めた。11月には「学生生活アンケート」を実施し、いじめなどの把握に努めている。 いずれの場合も情報交換会議などを通じて学内で情報共有を図っている。 学生主事主導で1年生(7月、12月)、2年生(7月、1月)、3年生(12月)に対して課外教育特別講演会を、また5月と10月に、クラブ活動及び全教職員対象の救急救命講習会を、そして1、2年生に対しQ-Uを年2回(6月、1月)、それぞれ実施した。 ・寮においては、今年度役員に対する寮生リーダー研修において救命救急講習を行った。また一年生寮生に対し、本校カウンセラーによるメンタルヘルスに関する講演を行った。</p>	<p>A</p>
<p>② 寄宿舎などの学生支援施設の計画的な整備を図る。</p>	<p>② ハイブリッド図書館構想として電子ジャーナル等の導入、新カリキュラム対応の資料については引き続き検討、整備を進めていく。図書館改修の実現に向け、予算要求も引き続き検討する。朝読書の推進を図る。図書館で資料・情報を求める利用者に対して文献の紹介・提供などの援助や参考調査の業務を推進する。図書館内の壁スペースを利用して図書や文化への興味・関心をひき上げる活動を実施する。</p>	<p>図書館長、寮務主事</p>	<p>② ・研究に有用な電子ジャーナル等の導入、新カリキュラム対応の資料を収集した。 ・図書館改修の実現に向けて予算要求を行った。 ・学生が作成した「図書館だより」を発行して学生のための図書館であるということをアピールした。 ・「読書会」や「ビブリオバトル」実施し、学生や教員の積極的な参加があった。 ・読書や文化への興味・関心を引き起こすことを目的として、図書館内の空間を利用した書籍や作家の紹介、展覧会ポスターの展示を行った。</p>	<p>A</p>
<p>③ 独立行政法人日本学生支援機構などと緊密に連携し、本校における各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供体制を充実させるとともに、産業界等の支援による奨学金制度の充実を図る。</p>	<p>③ 各種奨学金に関する情報を集約した学内限定ホームページの情報更新を行う。50周年記念事業の一環として創設された国際交流基金の運用を継続する。</p>	<p>学生主事</p>	<p>③・各種奨学金に関する情報を集約した学内限定ホームページを随時更新した。 ・国際交流基金を活用し、海外派遣学生に対して助成(上限8万円)を今年度においても継続して行った。(助成件数17件、助成金額688,000円)</p>	<p>A</p>

沼津高専 第3期中期計画	平成27年度年度計画	担当部署	平成27年度年度計画実施状況	自己評価点
④ 学生の適性や希望に応じた進路選択のため、企業情報、就職・進学情報などの提供体制や相談体制を含めたキャリア形成支援を充実させる。なお、景気動向等の影響を勘案しつつ、就職率については前年度と同様の高い水準を維持する。	④ 「学生キャリア支援室」を中心に低学年からの一貫したキャリア教育を実施する。前年度に引き続き、静岡新聞社企画・運営、本校主催の「就職祭」を実施する。各学科の就職担当教員・インターンシップ担当教員を中心に、企業情報・就職情報等の提供を充実させ、高い就職率を維持する。	学生主事	④専攻科を含めた全学年を対象に、計画されたプログラムに沿ったキャリア教育を実施した。就職活動について、前年夏より検討を開始し、企業と綿密に情報交換を行って進めた。企業を学校に集めた就職祭は、協定の改訂により3月開催とした。各学科の就職指導上で生じる様々な事例や、各学科共通の課題や問題は、キャリア支援室で検討し、情報の共有化と、対応の同質化を推進した。今年度の就職内定率は3月8日現在で97.2%であり、高い就職率を維持できた。	A
<p>(6)教育環境の整備・活用</p> <p>①施設マネジメントの充実を図り、産業構造の変化や技術の進展に対応できる実験・実習や教育用の設備の更新、実習工場などの施設の改修をはじめ、耐震性の確保、校内の環境保全、ユニバーサルデザインの導入、環境に配慮した施設の整備など安全で快適な教育環境の整備を計画的に推進する。特に、施設の耐震化率の向上に積極的に取り組む。PCB廃棄物については、計画的に処理を実施する。</p> <p>②中期目標の期間中に専門科目の指導に当たる全ての教員・技術職員が受講できるように、安全管理のための講習会を実施する。</p> <p>③ 男女共同参画を推進するため、機構本部が作成する、情報の収集・提供を利用し、必要な取組について普及を図る。</p>	<p>(6)教育環境の整備・活用</p> <p>① 平成28年度概算要求においても本科の学際教育及び1専攻3コースに改編後の専攻科において充実した学際3分野の教育を実施するための施設として学際教育実験棟を引き続き予算要求していくと共に、高専のグローバル化の推進を図るため、日常生活において交流を深めることを目的とした留学生と専攻科生とが混住する新寮を要求する。</p> <p>①-2 定期報告や修繕履歴をもとに優先的に整備すべき施設を把握し、中長期的な施設整備計画を立案するとともに、「エネルギーの使用状況及び省エネルギーの方策」をもとに省エネ・CO2削減について考慮したキャンパスマスタープランを再構築する。</p> <p>①-3 機構本部の計画に基づき、PCB廃棄物等に対し、計画的に処理・廃棄を進めていく。</p> <p>② 安全衛生管理のため年一回の講習会及び安全パトロールを継続して実施する。安全衛生に関する資格等取得者のデータベースに基づき、外部の各種講習会に教職員を順次積極的に派遣する。</p> <p>③ 引き続き、女性教員への面談等を実施し、女性教員の働きやすい職場環境に配慮しつつ、現場教員の要望を反映できるような体制整備を図る。窓口となる女性教員を中心として機構及び他機関が主催する男女共同参画事業に積極的に参加するように努める。</p>	<p>施設整備計画委員会</p> <p>施設整備計画委員会</p> <p>安全衛生委員会</p> <p>安全衛生委員会</p> <p>校長 部長</p>	<p>(6)教育環境の整備・活用</p> <p>①学際教育実験棟を平成28年度概算要求に置いて要求し、総合評価で前年度と同じA評価を得たが、個別評価において前年度より良い評価を得た。新寮については国際交流寄宿舎としての要求は引き続き行っていくが要求順位を下げ、他の事業を優先することとした。</p> <p>①-2 宮繕要求の平成32年までの修繕計画を作成した。省エネ・CO2削減について考慮したキャンパスマスタープランについては資料の収集等を行っており、再構築までは至っていない。</p> <p>①-3 低濃度PCB廃棄物、蛍光灯安定器、高濃度PCBを含む油について適切な保管を行った。処理については機構本部の計画に基づいて計画的に行った。</p> <p>② ・本年はワークライフバランス、メンタルヘルスをテーマに2の安全衛生セミナーを開催し、教職員に勤務に関する意識改革を促した。 ・玉かけ技能講習会に1名、クレーン運転業務特別講習に2名を派遣し、業務の改善につなげた。</p> <p>③女性教員を含む全教員と面談を行い、女性教員の意見を聞いて働きやすい職場作りを推進した。また機会ある毎に男女共同参画事業への参加を推奨した。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>

沼津高専 第3期中期計画	平成27年度年度計画	担当部署	平成27年度年度計画実施状況	自己評価点
<p>2 研究や社会連携に関する事項</p> <p>① 高等専門学校間の共同研究を企画するとともに、研究成果等についての情報交換会を開催する。また、科学研究費助成事業等の外部資金獲得に向けたガイダンスを開催する。</p>	<p>2 研究や社会連携に関する事項</p> <p>① 地域企業との共同研究、外部機関からの受託研究及び寄附金の受け入れに対し、学校周辺地域の県や市、商工会議所等主催の催しに、コーディネーターや関係教員が積極的に派遣する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究補助金の採択件数増を目的とした、説明会等を企画し実行する。</li> <li>・「富士山麓アカデミック&amp;サイエンスフェア」へ参加し研究発表、本校の紹介をおこなう。</li> <li>・産学連携活動を活発にするために、沼津・三島・富士・富士宮の4信用金庫との連携協定の有効利用を考える。</li> <li>・産学連携活動・地域貢献を活発にするため、静岡県東部の7商工会議所と連携協定及び覚書の有効的な利用を考える。</li> </ul>	<p>地域連携・研究支援委員会</p>	<p>2 研究や社会連携に関する事項</p> <p>① 「第6回富士山麓ビジネス商談会」等、学校周辺の県や市、商工会議所等主催の催し10件に、コーディネーターや関係教員を派遣した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機構本部主催の科研費説明会の案内するとともに、学内で説明会を開催した結果、申請件数が昨年度46件から48件へと微増した。</li> <li>・「富士山麓アカデミック&amp;サイエンスフェア」に本校学生・教職員から研究成果を22件発表するとともに、本校の紹介もおこなった。</li> <li>・連携協定を結んだ地元信用金庫に「静岡県東部テクノフォーラムin 沼津高専」の共催・後援いただくとともに、関連企業への紹介を依頼した。また、三島信用金庫と共同で「技術課題提案会」実施した。さらに、地域企業との連携を推進するための「沼津高専地域創生交流会」の立ち上げ準備を行っている。</li> </ul>	<p>A</p>
<p>② 地域共同テクノセンター等を活用して、産業界や地方公共団体との共同研究、受託研究への取組を促進するとともに、これらの成果を公表する。</p>	<p>② 例年のとおり学外からの技術相談に対し、教員に技術相談推進のためのインセンティブ経費を支給する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「テクノセンターニュース」を発行し、教員の研究・技術シーズ集と併せ、地域連携の成果を紹介していく。</li> <li>・地域公共団体・企業関係者に新規大型設備の見学会を実施し、本校の保有する機材の周知を図る。</li> <li>・産学連携運営委員会が共同研究・受託研究等の受入審査を行うとともに、地域共同テクノセンターの有効利用に向けて検討をする。</li> <li>◇出前授業については、中学校・地方自治体から要望を受け可能な限り実施していく。</li> </ul>	<p>校長、 地域共同テクノセンター長 地域連携・研究支援委員会 アドミッション委員会</p>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学外からの技術相談を45件受けた教員にインセンティブ経費を支給した。</li> <li>・「テクノセンターニュース」および教員の研究・技術シーズ集の改訂版を発行して、地域連携イベントなどで配布・紹介した。</li> <li>・「静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専」参加者に新規大型設備の見学会を実施し、本校の保有する機材の周知を図った。</li> <li>・共同研究・受託研究等の受入審査を12月時点で18件行った。また退職などで管理者不在の機材を地域共同テクノセンター内に移し、希望者に貸し出すこととした。</li> <li>・中学校・地方自治体から要望を受けて可能な限り出前授業を実施した。</li> </ul>	<p>A</p>
<p>③ 技術科学大学との連携の成果を活用し、本校の研究成果を知的資産化するための体制を整備し、全国的に展開する。</p>	<p>③ 昨年度に引き続き、発明委員会が本校教職員からの発明届を規定に則って処理した後、研究支援係が高専機構知財本部の方針に基づいて知財化及びその管理を行って行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校が保有している知的財産について、業務提携を結んでいる静岡TTOが主催する技術移転促進会議に出席する等で情報の共有を図り、資産化できるよう努める。また、産学官マッチングIN三島等の催しに本校の教員・CDを派遣する。</li> </ul>	<p>校長 教務主事</p>	<p>③本校教職員の発明の知財化に関する検討を、関係教員と行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡TTOが主催する技術移転促進会議に出席し情報の共有を図った。</li> <li>・知財に係る他の外部の催しに積極的に参加した。(産学間マッチングIN三島は開催されなかった)</li> </ul>	<p>A</p>

沼津高専 第3期中期計画	平成27年度年度計画	担当部署	平成27年度年度計画実施状況	自己評価点
<p>④ 教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を印刷物、データベース、ホームページなど多様な媒体を用いて企業や地域社会に分かりやすく伝えられるよう広報体制を充実する。</p>	<p>④ 前年度機構のフォーマットに統一した、研究・技術シーズ集を最新状態に保つ。          ・本校の全教員のシーズを様々な場面で開示していく。          ・学校の公式ホームページのリニューアルに合わせ、Web上のデータを見直す。          例年発行するテクノセンターニュースを継続発行し、また本校教員の研究・技術シーズ集の内容更新を行い、研究シーズを積極的に発信する。さらに、県内外のイベントに参加すると共に、引き続き「静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専」や「富士山麓アカデミック&amp;サイエンスフェア」など、地域の産学官連携行事を主催すると同時に積極的に参加して共同研究等の成果を発信する。</p>	<p>校長、 地域連携・研究支援 委員会</p>	<p>④          ・機構のフォーマットに統一した研究・技術シーズ集を最新状態に保った。          ・本校の全教員のシーズを地域で行われた「富士山・東北道広域ビジネスマッチング展示会」等の交流会で紹介・配布した。          ・学校の公式ホームページをリニューアルし、Web上のデータを見やすく工夫した。          ・テクノセンターニュースを継続発行し、本校教員の研究・技術シーズ集の内容更新を行い、研究シーズを外に対して積極的に発信した。さらに、「御殿場・裾野ビジネス交流会」等の県内外のイベントに参加した。          ・「静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専」や「富士山麓アカデミック&amp;サイエンスフェア」などの産学官連携行事を主催し、共同研究等の成果を発信した。「静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専」の学外出席者は67名、学外展示13件、「富士山麓アカデミック&amp;サイエンスフェア」での発表は22件であった。          また最新の研究・技術シーズ集を作成し、教員のシーズを広く公表した。</p>	<p>A</p>
<p>⑤ 満足度調査において公開講座(小・中学校に対する理科教育支援を含む)の参加者の7割以上から評価されるように、地域の生涯学習機関として本校における公開講座を充実する。</p>	<p>⑤ 引き続き静岡県の認定講習の認可を受けた「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム(F-met)」を沼津高専特別課程として実施する。7期生8名の社会人受講生を医用機器開発中核人材に育成することにより静岡県が進めているファルマバレープロジェクトに人材育成面から協力する。          ・前年度にアンケートを実施した結果を考慮しつつ、社会人対象の公開講座を専門5学科及び教養科が各1講座以上を開催し社会人の学び直しに協力する。          ・地域貢献として出前授業も、中学校・地方自治体からの依頼を受ける。</p>	<p>地域連携・研究支援 委員会 アドミッション委員会</p>	<p>⑤ 静岡県の認定講習の認可を受けた「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム(F-met)」を沼津高専特別課程として実施し、7期生8名の社会人受講生を医用機器開発中核人材に育成することにより静岡県のファルマバレープロジェクトに人材育成面から協力した。          ・同特別課程を文部科学省の職業実践力育成プログラム(BP)へ申請し認定を受けた。更に受講生に学びやすい環境を提供するために、厚生労働省の教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)の指定講座に申請し認定された。          ・社会人(中学生以上)対象の公開講座を13講座開催し社会人の学び直しに協力し、アンケートを実施し、より良いものを提供できるよう検討した。          ・地域貢献として出前授業も、中学校・地方自治体からの依頼を受け実施した。</p>	<p>A</p>
<p>3 国際交流等に関する事項          ① 安全面への十分な配慮を払いつつ、学生や教員の海外交流を促進するため海外の教育機関との国際交流やインターンシップを推進する。          教育の国際化(英語力の向上など)に向けた取組を推進する。</p>	<p>3 国際交流等に関する事項          ① 海外の大学等との交流協定の締結に向けて検討を進める。          ・高専機構が推進する国際交流事業への取組(海外インターンシップなど)に積極的に応募する。          ・教員の国際交流を促進するための取組(在外研究員、国際会議発表など)を推進する。          ・近隣高専と連携・協働して国際性の向上を目的とした取組(国際インターンシップ、ワークショップ参加など)を推進する。          ・豊橋技術科学大学が中心に進めている三機関連携事業の「英語で講義できる教員の育成プログラム」に若手教員を参加させる。          ・学生の国際交流・海外派遣を促進するための取組(学内の国際交流基金の有効活用など)を推進する。          ・学生の国際性の育成を目的とした取組(教育の英語化、海外語学研修の実施など)を推進する。</p>	<p>国際交流委員会</p>	<p>3 国際交流等に関する事項          ① クモ工科大学(韓国)と学生交流も含めた交流協定を締結した。          ・高専機構等が主催する「ISTS2015」(マレーシア)に専攻科1年生が参加した。          ・熊本高専が主催する「高専生のための英語キャンプ」(シンガポール)に本科4年生が参加した。          ・トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム(理系、複合・融合系人材コース)に本科4年生が応募した。          ・高専機構の在外研究員として教員1名をアメリカ合衆国へ派遣した。          ・13名の教員が海外の国際会議で研究発表(件数14件)を行った。          ・三機関連携事業の「英語で講義できる教員の育成プログラム」に若手教員を参加させた。          ・国際交流基金を活用し、海外派遣学生に対して助成(上限8万円)を今年度においても継続して行った。(助成件数17件、助成金額688,000円)          ・教員FD研修会において、「アクティブラーニングを活用した教育改善」をテーマに英語の学習意欲を向上させる取組例などを紹介した。          ・本校主催のアメリカでの「シアトル語学研修&amp;異文化体験」(9/6~9/20)を実施した。(引率教員1名、参加学生14名)</p>	<p>S</p>

沼津高専 第3期中期計画	平成27年度年度計画	担当部署	平成27年度年度計画実施状況	自己評価点
② 留学生交流の拡大に向けた環境整備及びプログラムの充実や海外の教育機関との相互交流並びに優れたグローバルエンジニアを養成するための取組等に積極的に取り組む。	② 高専機構と高専が共同で実施する外国人学生対象の3年次編入学試験に引き続き参加するとともに私費留学生受入れのための取組(奨学金確保など)を推進する。 ・留学生及び上級生を対象とした寄宿舎(70名程度)を要求するなど留学生の受入拡大に向けた環境整備を推進するとともに留学生の支援体制の強化(日本語特別補講の実施、チューターの配置など)に取り組む。 ・海外の教育機関との相互交流に向けた取組(短期留学生の受入、派遣など)を推進する。グローバル技術者の養成を目的とした取組(ネイティブの非常勤講師による集中講義など)を推進する。	国際交流委員会	② 高専機構と高専が共同で実施する外国人学生対象の3年次編入学試験に引き続き参加した。 ・エンケイ財団奨学金(アセアン諸国からの私費留学生対象/給付月額2万円)の確保について、財団事務担当者と打合せを行った。 ・留学生3年生(3名)を対象とした日本語特別補講を実施(週1回)した。 ・寄宿舎の新設要求については、関係部局で検討を行い、国際交流舎の新設として継続的に検討していくこととした。 ・留学生3・4年生(5名)に対し、チューターを配置し、学業支援などを行った。 ・国際交流室において、それぞれの業務を整理(情報共有含む)することにより、留学生の受入支援体制等の強化を図った。 ・来年度の短期留学生の受入れについてキングモンクット工科大学へ具体的な提案を行った。 ・夏休期間中にネイティブの非常勤講師による英語の専門授業(How To Become a Global Engineer)を実施した。	A
③ 留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行などの機会を毎年度提供する。	③ 本校に在籍する留学生を対象とした研修旅行を実施するとともに東海地区5高専による留学生交流会(スキー研修)に参加する。	学生主事 国際交流室長	③ 「日本の文化～宗教、暮らし、防災～」を研修テーマとして東京方面への留学生研修旅行(10月17日)を実施した。(引率教職員2名、参加留学生6名) 東海地区5高専による留学生交流会(12月23日～25日)に参加した。(引率教員1名、参加留学生6名)	A
4 管理運営に関する事項 ① 迅速かつ責任ある意思決定を実現するとともに、そのスケールメリットを生かし、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。	4 管理運営に関する事項 ① 引き続き、校長リーダーシップ経費配分の際に、全ての申請者からのヒアリングにより効率的な配分を行うと共に、学内設備整備マスタープランによる設備の計画的な導入・更新とあわせ、教育研究設備維持運営費により継続的な保守体制を整備することにより、本校の戦略的かつ計画的な資源配分を行う。	校長 事務部長	4 管理運営に関する事項 ・校長リーダーシップ経費の全申請者に対しヒアリングを実施したが、効率化係数等による機構配分予算の大幅な減額により効率的な配分が出来なかった。 ・学内設備整備マスタープランにおいても上記同様予算減により、当該予算を施設整備関係の経費に振替を行ったため、今年度は設備の更新・導入は行わなかった。 ・教育研究設備維持運営費は継続的な保守体制を維持するために計画的な配分を実施した。	B
② 管理運営の在り方について、校長を中心に、学校運営に責任ある者による研究会を開催する。	② 計画の達成に向け、年度計画策定及び改善等において、運営諮問会議委員の意見を反映すべく、構築された「業務改善システム」の適切な運用に努める。	校長	② 運営諮問会議委員から出された意見を、業務改善、運営改善に反映させた。	A
③ 効率的な運営を図る観点から、管理業務の集約化やアウトソーシングの活用などに引き続き努める。	③ 引き続き職場の労働環境の整備に力を入れ、出退勤システムを活用した、教職員の勤務時間の把握や過重労働の根絶等、働きやすい職場環境の改善を実施する。また、その一環として、平成25年度に実施した「業務のスクラップ」の実施に向けた継続的検討を行う。	事務部長	③ 引き続き職場の労働環境の整備のため、出退勤システムを活用した、教職員の勤務時間の把握や過重労働の根絶等、働きやすい職場環境の改善に努めた。その一環として、平成25年度から実施している「業務のスクラップ」の実施に向けた継続的検討を行った。	A
④ 本校の課題やリスクに対し組織一丸となって対応できるよう、研修や倫理教育等を通じた全教職員の意識向上に取り組む。	④ 本校の危機管理マニュアルの確認と緊急時一斉通報システム等の関係機器の動作確認及び教職員の危機管理意識を促すために、にメールによる一斉連絡テストを行う。 危機管理の対応のため、「学生安否システム」「教職員一斉通報システム」の動作試験をおこない、あわせて危機管理意識の高揚を図る。 ④-2 ・コンプライアンスの向上を図るためセルフチェックを8月頃に実施する。新規に採用される教職員についても採用の手続き時もしくは採用の直近の時期にコンプライアンスマニュアルを配布し、セルフチェックを実施する。これに併せ、コンプライアンスに関する研修会を開催する。	事務部長	④ 本校の危機管理マニュアルの確認と緊急時一斉通報システム等の関係機器の動作確認及び教職員の危機管理意識を促すために、にメールによる一斉連絡テストを行った。 7月に「学生安否確認システム」の運用訓練を抜き打ちで実施した結果、学生からの確認メールへの24時間以内の返信(安否確認)率は86.8%であった。(前年度は70.7%) ④-2 ・コンプライアンスの向上を図るため、例年行っているコンプライアンスセルフチェックに加え、コンプライアンスに関する研修会を実施し、併せてアンケート調査を行った。	A
⑤ 機構本部からの監査や相互監査・内部監査等監査体制を強化する。あわせて、法人本部を中心として法人全体の監査体制に協力する。	⑤ 業務改善WGで作成中の「内部監査マニュアル」に基づく内部監査を確実に実施すると共に、相互監査においては、指摘、改善等の指示を受けることの無いよう学内会計系職員研修会において、内部統制の充実を図る。	事務部長	⑤ 「内部監査マニュアル」のチェックリストを利用した内部監査(科研費)を11/17に実施した。また、四半期ごとの会計系職員研修会を計画し、5・8・11・2月に実施することにより職員のスキルアップを図った。研修では他校の監査指摘事項等を周知し、本校の状況についても確認することにより内部統制の充実を図った。	S

沼津高専 第3期中期計画	平成27年度年度計画	担当部署	平成27年度年度計画実施状況	自己評価点
⑥ 平成23年度に策定された「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の確実な実施を徹底するとともに、必要に応じ本再発防止策を見直す。	⑥ 「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の徹底に向けて、全教職員に対し説明会を実施。監査としては物品検査、科学研究費助成事業の校内監査を実施していく。	事務部長	⑥ 4/22に教員対象、9/15に職員対象に説明会を実施した。物品検査を8/24～9/30に、科研費監査を11/17に実施した。	S
⑦ 事務職員や技術職員の能力の向上のため、必要な研修を計画的に実施するとともに、必要に応じ文部科学省などが主催する研修や企業・地方自治体などにおける研修などに職員を参加させる。	⑦ 事務職員及び技術職員の能力向上を図るため、機構、国立大学法人、社団法人国立大学協会などが主催する研修会、発表会等については、旅費予算の大幅な削減を踏まえ、GIネット形式による研修及び研修会等の必要性の有無を精査したうえで参加させる。 ・技術職員研修関係では、今年度は、西日本地域国立高等専門学校技術職員特別研修会の主幹校として豊橋技術科学大学と連携しながら、研修の円滑な運営に支障をきたさずことのないよう計画的に進める。	事務部長、技術室長	⑦ 事務については本部主催の新任職員、会計・人事研修等に参加させた。 ・GIネットを利用した地区勉強会に参加させた(各係毎)。 ・東海北陸地区高等専門学校技術職員研修、西日本地域国立高等専門学校技術職員特別研修会、IT研修会に技術職員を派遣した。 ・東海北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修に参加した。地域企業が参加する研究委員会に参加した。 ・西日本地域国立高等専門学校技術職員特別研修会の主幹校として豊橋技術科学大学と連携して、円滑に開催できた。	A
⑧ 事務職員及び技術職員については、国立大学との間や高等専門学校間などの積極的な人事交流を図る。	⑧ 昨年度に引き続き、事務職員及び技術職員については、国立大学法人や高等専門学校間などとの人事交流を積極的に推進する。技術職員の人事交流についてはこれまで同様、技術長会議等で積極的に検討する。	事務部長、技術室長	⑧ 西日本地域国立高等専門学校技術職員特別研修会が実施された際に、豊橋技術科学大学の技術支援室長と、今後の連携について意見交換を実施した。継続検討課題である。	B
⑨ 業務運営のために必要な情報セキュリティ対策を適切に推進するため、政府の方針を踏まえ、情報システム環境を整備する。	⑨ 総合情報センターとして、機構主催のセキュリティの研修会に参加させる。 ・機構が指示したセキュリティ講座に対しては、独自のマニュアルを整え学習を今後も促し、セキュリティの維持を図る。 ・教育用計算機システムのリプレイスに合わせ、LAN環境の再確認をおこなう。 ・ライセンス管理は、セキュリティと密接に関わる重要な取り組みで、管理体制の見直しにより高いレベルを維持する。 ・ライセンス管理を更に向上させ、セキュリティの点からも向上させる。	総合情報センター長 教務主事 (e-LearningWG) 専攻科長	⑨ 機構主催のセミナーや研修会を受講したり、予定を組んだ。(セキュリティトップセミナーを学内リーダー達が受講。情報担当者研修会に2名参加。セキュリティ系の研修会2件(12月と1月)に参加し、その知見が総合情報センターに集まるようにした。 ・機構から指示のあったセキュリティの e-Learning に対し、操作マニュアルに独自に追加説明を入れ完全に実施した。 ・学校全体と学生用LANそれぞれにパケットを制御する機器をいれてセキュアなLAN環境を継続して管理・運用している。また、学内から外部に公開しているサーバーに対して、セキュリティ強度の確認を行った。 ・ライセンス管理を学内に依頼する時期を早めた。また、点検項目を昨年度よりも増やした。ライセンス確認作業は機構からの期日までに完全に実施した。 ・ライセンスの状況が管理者からわかりやすくなるよう項目を増やしたことで、今後の管理がより確実に行われるようになるとともに、コンプライアンスの意識も高め、セキュリティ意識の向上も見込まれる。	A
⑩ 機構の中期計画および年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定めることとする。なお、その際には、各学科の特性に応じた具体的な成果指標を設定する。	⑩ 毎年の自己点検評価及び外部委員からの意見を踏まえた上で、本校独自の年度計画を策定する。また、各学科との「報告・連絡・相談」体制を推進するとともに、各学科においては学科会議をほぼ隔週で開催して、教員個々の勤務状態や意見を収集して学科運営に役立てると共に、学内の情報を速やかに伝達して、健全な学科の管理運営に取り組む。	校長 教務主事 各学科長	⑩ 自己点検評価及び外部委員からの意見を踏まえて本校の年度計画を策定した。 ・各学科との「報告・連絡・相談」体制を推進し、学科会議をほぼ隔週で開催し、教員の勤務状態や意見を収集して学科運営に役立てると共に、学内情報の速やかな周知を行っている。 ・ほぼ予定通り各科で学科会議を開催して、学内の情報を可能な限り早く正確に学科教員に伝達すると同時に、個々の意見を集約して担当部署に連絡し、健全な学科の管理運営に努めた。	A

沼津高専 第3期中期計画	平成27年度年度計画	担当部署	平成27年度年度計画実施状況	自己評価点
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 ① 引き続き、一般管理費(人件費相当額を除く。)については3%、その他は1%の業務の効率化を図る。 ② 契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争性、透明性を確保する。 ③ 高専機構で実施する高専相互会計監査を受検する。	II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 ① 引き続き、一般管理費(人件費相当額を除く。)については3%、その他は1%の業務の効率化を図る。 ② 契約にあたっては、原則として一般競争入札等によるものとし、1社応札の無いよう慎重な仕様策定を実施して、競争性、透明性の確保を図る。	事務部長	II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 一般管理費(人件費相当額を除く。)については5%、その他は3%の業務の効率化を図った。 契約は、原則として一般競争入札を行い、競争性、透明性の確保を図っている。 ・予定の効率化係数により、今年度の予算配分を実施し、全教職員の努力により効率化を図っている。 契約にあたっては、競争性、透明性の確保を図ってあつた。現在のところ、工事入札において1社応札が1件発生した。当該工事は特殊性(資格技術者関係)があつたため、競争性の確保に注意はしたが、時期的な問題により資格技術者の確保が不可となり応札予定見込2社が加われず、結果1社応札となつた。	A
III 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 引き続き、外部資金(共同研究、受託研究、奨学寄附金、科研費等)の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加に努める。	III 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 引き続き、外部資金(共同研究、受託研究、奨学寄附金、科研費等)の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加に努める。	校長、研究支援委員会	III 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 外部資金(共同研究、受託研究、奨学寄附金、科研費等)の獲得に積極的に取り組んだ。	A
IV 短期借入金の限度額 (該当なし)	IV 短期借入金の限度額 (該当なし)	校長、事務部長	(該当なし)	
V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 以下の土地を国庫に現物納付又は譲渡する。 ・沼津工業高等専門学校香貫団地(静岡県沼津市南本郷町14-27)288.19㎡	V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 香貫宿舎跡地について、機構本部等関係機関の処分方針(売払い又は財務局への現物返納)が決定次第、速やかに処分に伴う諸手続きを実施する。 香貫宿舎団地(静岡県沼津市南本郷14-27)・288.19㎡	校長、事務部長	V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 香貫宿舎跡地について、機構本部等関係機関の処分方針(売払い又は財務局への現物返納)が決定次第、速やかに処分できる準備を整えた。	A
VI 剰余金の使途 (該当なし)	VI 剰余金の使途 (該当無し)	校長、事務部長	VI 剰余金の使途 (該当なし)	
VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設及び設備に関する計画 施設マネジメントの充実を図り、教育研究活動に対応した適切な施設の確保・活用を計画的に進める。	VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 ① 26年度に行った「27年度概算要求」において学際教育実験棟の予算で機構のA評価を得た。第1体育館については工法等の見直しにより、27年度営繕要求を行った。新寮については建設予定地について関係各所との協議を行った。図書館改修については関係部署の要望等を取り続けた。このことを基に27年度実施に移せるよう準備を進める。	施設整備計画委員会	VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 学際教育実験棟を平成28年度概算要求に置いて要求し、総合評価で前年度と同じA評価を得たが、個別評価において前年度より良い評価を得た。 第1体育館床改修については平成27年度営繕要求を行ったが、予算化されなかつたため、平成28年度営繕要求を行った。 図書館改修についてはコンセプト等を施設整備計画委員会にて協議を行うこととした。 新寮については、国際交流寄宿舎としての要求は引き続き行っていくが要求順位を下げ、他の事業を優先することとした。	A

沼津高専 第3期中期計画	平成27年度年度計画	担当部署	平成27年度年度計画実施状況	自己評価点
<p>2 人事に関する計画  (1)方針  教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。  (2)人員に関する指標  常勤職員について、その職務能力を向上させるとともに、中期目標期間中に全体として効率化を図りつつ、常勤職員の抑制を図るとともに、事務の電子化、アウトソーシング等により事務の合理化を進め、事務職員を削減する。</p>	<p>2 人事に関する事項  (1)方針  引き続き、教職員の人事交流を積極的に進め多様な人材の育成を図ると共に、各種研修に積極的に参加し、資質の向上を図る。また、事務職員の県内機関との人事交流を活発に行う。  (2)人員に関する事項  引き続き、人事評価制度を活用し、その職務能力及びやる気を向上させたとともに、アウトソーシング等も含めた事務の合理化を進め、再雇用制度を活用した有効な人員配置を行う。</p>	<p>校長、事務部長</p>	<p>2 人事に関する事項  (1)方針  教職員の人事交流を積極的に進め多様な人材の育成を図った。各種研修に積極的に参加し、資質の向上を図った。  事務職員の県内機関との人事交流を行った。  (2)人員に関する事項  人事評価制度により、職務能力及びやる気を向上させ、事務の合理化を進めるとともに、再雇用制度による有効な人員配置を行った。</p>	<p>A</p>

沼津工業高等専門学校

平成 28 年度 年度計画

# 沼津工業高等専門学校 平成28年度 年度計画

(前文)

独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）の中期目標・中期計画を踏まえ策定した沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の計画（第3期中期計画）に基づき、平成26年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

## I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

### 【1. 教育に関する事項】

#### (1) 入学者の確保

- ① 地区中学校長会や各中学校などを訪問し、広報活動や情報交換を行うとともに、ホームページ・メディア等を通じて積極的に広報を行い、本校の社会における認知度を高める。
- ② 昨年度に引き続き、オープンキャンパスなど様々な広報活動を行う。  
また、女子学生の志願者確保の観点から、女子中学生を意識した入試広報パンフレットを作成するとともに、高専機構作成の女子中学生向けパンフレットの有効活用を行う。
- ③ 中学生やその保護者を対象とする本校独自の広報資料を作成し、県内及び近隣県（山梨県・神奈川県）の中学校へ配布する。また、高専機構作成の広報資料の有効活用を行う。
- ④ 入学者の学力等について継続的に分析を行うとともに、現行の入試制度や選抜基準等が妥当であるかについて検証を行い、必要があれば入試制度の見直しを行う。  
また、推薦選抜の出願資格及び入学選抜方法の改善について検討を行う。
- ⑤ 入学者の学力水準の維持、向上を目指すとともに、入学志願者数の確保（広報活動の充実）に継続して努力する。

#### (2) 教育課程の再編

- ① 1年次混合学級と工学基礎Ⅰ・Ⅱの授業・実習、2年次ミニ研究について、本年度も改善しながら実施する。4年次の学際教育の問題点を整理し改善、実施する。本年度導入の5年生の学際教育を確実に実施する。専攻科長、コース長を中心に改編された専攻科の問題点がないか点検し、改善につなげる。
  - ・社会的要請に応えるべく実施している、特別課程「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム（F-met）」の8期生8名に対し、講義の実施等、円滑な運営に努める。同時に今後のF-metの在り方について検討し方針を明確化する。
- ①-2 ルーブリック・ポートフォリオによる学習教育目標の評価・点検法を定着させる。また、長期インターンシップを継続し、実務に通じた実践的教育を進める。
- ② 1,2年生にTOEIC Bridge テスト、3,4年生にTOEIC IP テストを全学生に受験させることを継続する。その結果を授業内容・方法の改善に役立てる。
  - ・高専機構と豊橋技大とが企画する教員研修（英語による専門授業）に教員を派遣し、本校における教

員の英語力強化の中核人材とする。

- ・3年の全国高専学習到達度試験「数学」、「物理」に継続して参加し、教養科と専門学科とで連携して数学、物理の力を伸ばすための教育改善に役立てる。
  - ・工学系数学統一試験を4年生全学生に受験させることを継続する。
- ③ 学生による適切な授業評価・学習到達度評価を実施し、その結果を教育方法の改善に活用する。
- ・GPA自動計算システムと学生授業アンケートを活用し、継続的に平成24年度導入の新教育制度（1年生工学基礎、2年生ミニ研究）の評価と改善を行う。
  - ・3年生と5年生による学習到達度自己評価を実施し、平成24年度から移行した新教育課程による教育課程改善の効果の検証に役立てるためのデータを蓄積する。
- ④ 高専体育大会、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンペティション、英語プレゼンテーションコンテストなどに積極的に参加し、運営に協力する。
- ・全国高専デザインコンペティションと同時開催することになった「学生による3次元デジタル設計造形コンテスト(CAD コ)」に参加する。平成25年度「大学間連携共同教育推進事業 (KOSEN 発イノベーション・ジャパン)」の連携校として引き続き事業の運営に協力するとともに、「社会実装コンテスト」に参加するチームの増加に努める。
  - ・専攻科では、引き続き、静岡県東部地域の近隣大学間共同学生研究発表会や高専シンポジウム等、学会への所属を要せず参加できる研究発表会での研究発表を積極的に奨励する。また、専攻科1年後期に長期インターンシップを実施し、これをきっかけに地域企業や大学院との連携、共同研究を活発にし、専攻科生の従来の専門分野を超えたイノベティブな創造的実践的技術者の育成を目指す。
- ⑤ 学生に様々な体験活動に参加させるため、以下の活動を実施する。
- ・1～4年生全クラスで校内外の清掃を行う「クリーン活動」を実施する。また、学生会を中心に校外でのボランティア活動を行う。
  - ・1年生のオリエンテーション研修、2年生の特別研修、3年生のスキー研修を通じて自然・文化体験活動を行う。
  - ・寮においては、寮生が近隣中学生への休日学習支援を継続できるようにサポートする。

### (3) 優れた教員の確保

- ① 教員の採用は公募制を原則とする。本校外の勤務経験や1年以上の長期にわたる海外での研究や経済協力を従事した経験を、採用・昇任にあたって重視し、教授・准教授については、これらの経験を持つ者が、全体として60%を下回らないようにする。
- ② 教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、昨年度と同様、本校以外の高等専門学校や企業において1年以上の長期にわたる任期を付した人事交流を図る。
- ③ 昨年度と同様、専門科目（理系の一般科目を含む。以下同じ。）については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や高等学校等における教育経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%を下回らないようにする。

- ④ 引き続き、女性教員への面談等を実施し、女性教員の働きやすい職場環境に配慮しつつ、現場教員の要望を反映できるような体制整備を図る。窓口となる女性教員を中心として機構が主催する男女共同参画事業に積極的に参加するように努める。
- ・学寮巡回業務の希望曜日について女性教員に問い合わせをし、希望があった場合はそれに沿った割振りをするを継続する。
- ⑤ 教員相互の授業参観を引き続き実施する。教員FD研修会を年4回、開催し、教員個々の教育力向上に資するための取り組みを継続する。また、機構が開催する「教員研修(クラス運営・生活指導研修会)」や一般科目研修等に積極的に参加者を派遣する。
- ・生活指導に関し主に高等学校教員を対象とした「生徒指導沼駿地区研究協議会(生地研)」に教員を派遣する。
  - ・東海北陸地区高専学生指導力向上研修会に積極的に参加・協力する。
- ⑥ 引き続き、優秀な教職員への意識の高揚の観点から、機構本部で実施する教職員顕彰制度に積極的に推薦していく。
- ⑦ 教員の国内外の学会での発表、大学等での研究又は研修等への積極的な参加を推進する。

#### (4) 教育の質の向上・改善のためのシステム

- ①-1 本部が進める全高等専門学校が利用できる教材の共有化に向け他高専から提供された教材の利活用を試みる。学生の主体的な学びを実現するアクティブラーニングの推進に向け教員FDにおいてその手法を共有する。ICT活用教育環境を整備する。専攻科授業やプログラム科目においてルーブリック評価の定着を目指す。
- ①-2 高専機構が進めている、「高専学生情報統合システム」の整備に向けて、必要な範囲で協力する。
- ② 改編専攻科においても引き続き日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定レベルを維持する。
- ・グローバル化を見据えた「チームワーク力の向上」と「デザイン教育の充実」を中心にさらなる教育改善に取り組む。
  - ・「学習・教育目標」と「実践指針」が社会からの要請に応えたものになっているか、「ルーブリック」と「シラバス」がこの学習・教育目標と実践指針を着実に達成できる仕組みになっているか、「ポートフォリオ」による自己点検が確実に実施され、学生が意欲的に学ぶ仕組みになっているかについてのPDCAを着実に実行する。
  - ・前年度JABEE審査でC評価だった項目について、改善に向けて取り組む。
  - ・「チームワーク力の向上」では、専攻科の長期インターンシップを継続し、「デザイン教育の充実」では、「エンジニアリングデザイン」を授業目標に取り入れた科目の内容をさらに充実させる。
  - ・養成すべき技術者像及び卒業生・修了生が身につけておくべき学習教育目標の学内外へ周知をさらに進める。また、プログラム科目では、該当する学習教育目標の実践指針を「シラバス」に記載し、「ルーブリック」によって設定レベルを達成できたかを確認できる仕組みを維持する。「ポートフォリオ」では達成度レーダチャートによる自己点検の仕組みを維持し、学生が意欲的に学習教育目標の達成に向けて取り組めるよう、教員や学生への周知を徹底し、PDCAを着実に実行する。
- ③ 教育研究交流協定を締結している東京工業大学、静岡大学、東京医科歯科大学及び豊橋技術科学大学と、専攻科1年生の長期学外実習の学生派遣等、具体的交流の実現を推進する。

- ・学生会において、他高専等との交流活動を積極的に推進する。
  - ・寮において、他高専寮生会との交流活動を引き続き実施する。
- ④ 本校教員による授業の工夫実践例を継続的に調査収集し、本校のポータルサイト上に公開することにより全教員で情報共有し互いの授業改善に有効活用する。機構本部が集めた教育改善事例を活用するよう教員への周知を図る
- ⑤ 機関別認証評価（H23 年度受審）の評価結果に基づく教育の質の保証を確保するために、外部委員による多角的な外部評価を毎年実施し、その評価結果及び改善の取組等を本校公式 HP 等に掲載し、広く公表する。
- ⑥ 地域産業界との連携による共同教育として、以下の活動を実施する。
- ・1, 2 年生対象キャリア教育として地元企業から講師を派遣して頂く「Future しずおか」や、地元企業等を招いて行う「就職祭」等を通して、地域企業との「共同教育」を推進する。  
 本科4・5年生のインターンシップはこれまでと同様に継続することとし、専攻科1年生の長期学外実習は地域の優良企業を中心に学生を派遣して共同教育の推進に向けた実施体制の充実を図る。  
 4年生に導入された地域指向科目である学際科目「社会と工学」に、引き続き地域自治体、商工会議所、企業、金融機関と連携した共同教育とする。
  - ・COC+において、インターンシップ受入れ先の開拓を行う。企業人材活用事業において、第2ブロックの高専と協働したインターンシッププログラムを検討する。
- ⑦ 企業技術者や外部の専門家を活用した教育として、以下の活動を実施する。
- ・学生キャリア支援室を中心として、「Future しずおか」、「就職祭」、「模擬面接」等を通して、企業人材を学生のキャリア教育に活用する。
  - ・地域指向科目である4年生の学際科目「社会と工学」には、引き続き地元の技術者や行政関係者等を講師とした共同教育を実施する。今年度は、本授業の見直しを行い、改善につなげる。
- ⑧ 教育研究交流協定を締結した東京工業大学、静岡大学、東京医科歯科大学及び日本大学国際関係学部をはじめ、豊橋技術科学大学・長岡技術科学大学等との連携を生かし専攻科1年生の長期学外実習の学生派遣の拡大を進めるとともに豊橋・長岡両技術科学大学と本校教員の共同研究も進める。
- ⑨ 総合情報センターは引き続き ICT 活用教育環境を支える。
- ・2016 年 4 月には SINET5 への移行という大きな変革があり、そうした中でもサービスの中断を最小限に抑えて快適な環境を保てるようにすることを最重要課題とする

## (5) 学生支援・生活支援等

- ① 学生生活支援室主催で、5月に新入生保護者対象の講演会を実施する。また、「こころと体の健康調査」を実施し、希死念慮等リスクを把握し、適切な対応を取ることで自殺防止につなげる。また、この頃、5年生を対象にメンタルヘルスの講演会を実施する。6月から7月にかけて1年生と2年生に対し、前年度と同様の講演を行う。11月には「学生生活アンケート」を実施し、いじめと思われる兆候の把握に務める。
- ・寮においては、寮生リーダー研修において引き続き救命救急講習を行う。また低学年に対して豊かな教養の涵養を目的とする教養講座を実施する。

- ② 寄宿舎などの学生支援施設の計画的な整備を図るために、以下の活動を実施する。
  - ・マスタープランWGにて、寄宿舎などの学生支援施設を含めた学内施設の適切な配置について検討する。
  - ・図書館改修の実現に向け予算要求を引き続き行うとともに、図書室整備を行う。
- ③ 各種奨学金に関する情報を集約した学内限定ホームページの情報の更新を行う。
  - ・50周年記念事業の一環として創設された国際交流基金の運用を継続する。
- ④ キャリア教育を推進するため、以下の活動を実施する。
  - ・「学生キャリア支援室」を中心に低学年からの一貫したキャリア教育を実施する。
  - ・静岡新聞社企画・運営、本校主催の「就職祭」を実施する。
  - ・各学科の就職担当教員・インターンシップ担当教員を中心に、企業情報・就職情報等の提供を充実させ、高い就職率を維持する。

## (6) 教育環境の整備・活用

- ① 本科の学際教育及び1専攻3コースに改編後の専攻科において充実した学際3分野の教育を実施するための施設として学際教育実験棟を引き続き予算要求していく。また、安心・安全な教育環境を確保するため、ライフラインの更新についても予算要求を行う。
- ①-2 キャンパスマスタープランワーキンググループによる長期計画を基に、定期報告での指摘事項や修繕履歴も考慮し、優先的に整備すべき施設を把握し、中長期的な施設整備計画の見直しを図るとともに、「エネルギーの使用状況及び省エネルギーの方策」に基づき省エネ・CO2削減について考慮したキャンパスマスタープランを再構築する。
- ①-3 PCB 廃棄物等に対し、適切な保管・管理を行い、機構本部の計画に基づき、計画的に処理・廃棄を進めていく。
- ② 安全衛生管理のため年一回の講習会及び安全パトロールを継続して実施する。安全衛生に関する資格等取得者のデータベースに基づき、外部の各種講習会に教職員を順次積極的に派遣する。
- ③ 引き続き、女性教員への面談等を実施し、女性教員の働きやすい職場環境に配慮しつつ、現場教員の要望を反映できるような体制整備を図る。窓口となる女性教員を中心として機構及び他機関が主催する男女共同参画事業に積極的に参加するように努める。

## 【2. 研究や社会連携に関する事項】

- ① 教員の研究活動活性化するとともに地域社会との連携を強化するため、以下の活動を実施する。
  - ・地域企業をはじめとする共同研究、外部機関からの受託研究及び寄附金の受け入れを推進するため、学校周辺地域の県や市、商工会議所等主催の催しに、コーディネーターや関係教員を積極的に派遣する。
  - ・科学研究補助金の採択件数増をにむけた説明会等を企画し実行する。
  - ・「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア」の開催を担当するとともに研究発表および本校の活動紹介による地域社会への発信をおこなう。
  - ・「静岡県東部テクノフォーラム in 沼津高専」を主催するとともに、外部機関に対する校内見学を適宜実施する。
  - ・沼津・三島・富士・富士宮の4信用金庫との連携協定および静岡県東部の7商工会議所と連携協定及び覚書の有効的な利用について、新規発足した関連団体（「沼津高専とともに歩む議員連盟」および「沼津高専地域創生交流会」）と連携して検討する。
  
- ② 共同研究等の推進のため、以下の活動を実施する。
  - ・学外からの技術相談に対し、教員が通常業務の一貫として積極的に応じる。
  - ・「テクノセンターニュース」を発行し、教員の研究・技術シーズ集と併せ、地域連携の成果を広報発信する。
  - ・地域共同テクノセンター主導で地域産官学金あるいは一般の方々を対象に見学会を実施し、本校保有設備・機器の充実度の周知を図る。
  
- ③ 本校の研究成果の知的資産化を推進するため、以下の活動を実施する。
  - ・発明委員会が本校教職員からの発明届を規定に則って処理した後、研究支援係が高専機構知財本部の方針に基づいて知財化及びその管理を行って行く。
  - ・本校が保有している知的財産について、業務提携を結んでいる静岡 T10 が主催する技術移転促進会議に出席する等で情報の共有を図り、資産化できるよう努める。また、産学官マッチング IN 三島等の催しに本校の教員・CD を派遣する。
  - ・「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」に参加し、学生への知財教育を推進する。
  
- ④ 教員の研究活動に関する情報を広報するため、以下の活動を実施する。
  - ・テクノセンターニュースを発行するとともに、本校教員の研究・技術シーズ集の内容更新を行い、地域の産業交流会等での研究シーズの発信を図る。
  - ・県内外のイベントに参加すると共に、「静岡県東部テクノフォーラム in 沼津高専」や「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア」など、地域の産学官連携行事を主催すると同時に積極的に参加して共同研究等の成果を発信する。
  
- ⑤ 静岡県の認定講習の認可を受けた「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム(F-met)」を沼津高専特別課程として実施し、8期生の社会人受講生を医用機器開発中核人材に育成することにより静岡県のファルマバレープロジェクトに人材育成面から協力していく。
  - ・社会人（中学生以上）対象の公開講座を専門5学科及び教養科が各1講座以上を開催することで社会人の学び直しに協力する。また、前年度のアンケートの結果を教職員に開示し、公開講座の内容の改善を図る。
  - ・地域貢献として出前授業を中学校・地方自治体からの依頼を受けて実施する。
  - ・入学志願者数確保の観点から、中学生も参加できるものも検討する。

### 【3. 国際交流等に関する事項】

- ①-1 教員の国際交流・海外派遣を促進するための取組（学術交流、在外研究員、国際会議発表など）を推進する。
- ①-2 学生の国際交流・海外派遣を促進するための取組（学生間交流、海外インターンシップ、海外派遣助成など）を促進する。
  - ・学生の国際性の育成を目的とした取組（教育の英語化、海外語学研修の実施など）を推進する。
- ③ 留学生に対し、日本の歴史・文化などに触れさせる取組（研修旅行、東海地区留学生交流会）を推進する。

### 【4. 管理運営に関する事項】

- ① 校長リーダーシップ経費については、予算の範囲内で、申請基準やヒアリング方法を見直し、効率的、戦略的な経費配分を行う。また、学内設備整備マスタープランについても設備維持運営費と併せて計画的な配分を検討する。
- ② 計画の達成に向け、年度計画策定及び改善等において、運営諮問会議委員の意見を反映すべく、構築された「業務改善システム」の適切な運用に努める。
- ③ 引き続き職場の労働環境の整備に力を入れ、出退勤システムを活用した、教職員の勤務時間の把握や過重労働の根絶等、働きやすい職場環境の改善を実施する。また、その一環として、平成 25 年度に実施した「業務のスクラップ」の実施に向けた継続的検討を行う。
- ④ 本校の危機管理マニュアルの確認と緊急時一斉通報システム等の関係機器の動作確認及び教職員の危機管理意識を促すために、メールによる一斉連絡テストを行う。  
危機管理の対応のため、「学生安否システム」「教職員一斉通報システム」の動作試験をおこない、あわせて危機管理意識の高揚を図る。
- ④-2 ・コンプライアンスの向上を図るためセルフチェックを 8 月頃に実施する。新規に採用される教職員についても採用の手続き時もしくは採用の直近の時期にコンプライアンスマニュアルを配布し、セルフチェックを実施する。これに併せ、コンプライアンスに関する研修会を開催する。
- ⑤ 業務改善 WG で作成中の「内部監査マニュアル」に基づく内部監査を確実に実施すると共に、相互監査等においては、指摘、改善等の指示を受けることの無いよう学内会計系職員研修会において、内部統制の充実を図る。
- ⑥ 「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の徹底に向けて、全教職員に対し説明会を実施、監査としては物品検査、科学研究費助成事業の内部監査を実施していく。
- ⑦ 事務職員及び技術職員の能力向上を図るため、機構、国立大学法人、社団法人国立大学協会などが主催する研修会、発表会等に参加させる。  
又、旅費予算の大幅な削減を踏まえ、GI ネット形式を活用した研修及び講習等に参加させる。
- ⑧ 技術職員の人事交流についてはこれまで同様、技術長会議等で積極的に検討する。
  - ・事務職員の人事交流については機会ある毎に意見交換の機会を設け積極的に検討する。

⑨ 平成28年度の計画案

- ・平成28年度実施の情報セキュリティ監査を契機として、ネットワーク管理体制を再確認するとともに、セキュリティ確保のために導入すべき事項を検討して必要なものを取り入れる。
- ・Windows10へのアップデートに注意を払う。

- ⑩ 毎年の自己点検評価及び外部委員からの意見を踏まえた上で、本校独自の年度計画を策定する。また、各学科との「報告・連絡・相談」体制を推進するとともに、各学科においては学科会議をほぼ隔週で開催して、教員個々の勤務状態や意見を収集して学科運営に役立てると共に、学内の情報を速やかに伝達して、健全な学科の管理運営に取り組む。

**【Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置】**

- ① 引き続き、一般管理費（人件費相当額を除く。）については5%、その他は3%の業務の効率化を図ると共に予算配分全体について見直しを行い効率化を図る。
- ② 契約にあたっては、原則として一般競争入札等によるものとし、1社応札の無いよう慎重な仕様策定及び広告を実施して、競争性、透明性の確保を図る。

**【Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画】**

引き続き、外部資金（共同研究、受託研究、寄附金、科研費等）の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加に努める。

**【Ⅳ 短期借入金の限度額】**

（該当なし）

**【Ⅴ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画】**

香貫宿舎跡地について、機構本部等関係機関の処分方針（売払い又は財務局への現物返納）が決定次第、速やかに処分に伴う諸手続きを実施する。

香貫宿舎団地（静岡県沼津市南本郷14-27）・・・288.19㎡

**【2 人事に関する事項】**

(1) 方針

引き続き、教職員の人事交流を積極的に進め多様な人材の育成を図ると共に、各種研修に積極的に参加し、資質の向上を図る。また、事務職員の県内機関との人事交流を活発に行う。

(2) 人員に関する事項

- ・ストレスチェックの結果を踏まえ、教職員のメンタルヘルスチェック体制を組織的に強化するとともに、職場環境の改善に活用する。
- ・教職員一人一人の職務能力及びやる気の向上を図るだけでなく、アウトソーシングの推進や、再雇用制度の有効活用を通じて、事務の合理化及び適正な人員配置を行う。

## 平成 28 年度 年度計画意見表

# 平成28年度年度計画 沼津工業高等専門学校運営諮問会議委員 意見表

## ○入学者の確保

(東郷委員)

入学志願者が減少傾向にありますので、年度計画が入学志願者増に繋がるように実施して頂きたい。

(澤田委員)

ものづくり(高専教育)にふさわしい方策を検討されたいかがでしょうか。

(阿部委員)

平成27年度にも様々な取組みを実施し、成果が上がったということであるが、中長期的な視点に立ち、志願者数、その中の女子の志願者数について母数を念頭に置いた目標値を定めて取り組む必要があるのではないか

(岸本委員)

①本校の特徴、魅力をいかに情報発信していくか、HP、オープンキャンパス等で、関係する多くの皆さんが興味を示す情報発信となるよう創意工夫をしていただきたい(志望者増には、中学生本人は勿論ですが、中学教師、保護者にいかに本校を理解してもらうかも重要ではないでしょうか)②県の西部、中部地域への本校理解の浸透(拡大)への工夫③女子学生への高専の魅力アピール(女子学生割合の目標は掲げられているのでしょうか)

(植松委員)

国立高等専門学校としての特色を更に発揮すべく情報公開を続けていただきたいと思います。

(清 委員)

中学、地域へメディア等を通じての広報活動として、志望理由等の分析から、特に就職率・進学率をアピールしていくことが有効かと考えます。

(唐國委員)

自校の卒業生が高専に居る場合、その学生からの中学生への情報提供も有効かと思えます。数が少なく、寮生活をしていることもあるかと思えますが、他の高等学校に比べて、卒業生が部活等を訪問する数は少ないように思えます。

(木戸委員)

中学生に、中学の教師に、高専が知られていないことが、入学応募者が十分に確保出来ないことの最大の原因ではないかと思えます。従って対策は、確保のために宣伝すること、昨年から沼津高専HPが大きく変わってきていると思えますが、更にいろいろな取り組みが出来るのではと思えます。例えば、沼津高専紹介のリーフレット等は中学生、先生がめくって楽しめるもの、学生生活、寮生活、高校との違い、将来の進路、などなど、文字は少なく、写真や絵を大部分にしてビジュアル版を中心にしてあらゆる機会に宣伝し、中学校にも置いてもらう、HPでも見る事が出来るように、ここにはビデオなども加えるとより効果的かと思えます。また、更に世間一般でも誤解された内容での認識が、中学校での少ない高専の知識に入っているのではないかと思えます。「大学・大学院」「高専・短大・専門学校」「高校」の括りで年収や就職、求人状況を統計的に比較されることが多く、世の中で流される情報の多くは、「高専」より圧倒的に数が多い「専門学校」の姿になっていると思えます。この事が高専について知られていない上に、その中でも知られている少ない情報は誤った内容となって、「高専の魅力」を正しく伝えられない状況を作っているかと思えます。2年前の卒業生アンケート調査の数値などを用いて、教師や保護者に「高専の姿」を正しく伝えることも重要なことと思えます。

## ○教育課程の編成等

(東郷委員)

昨年度に引き続き、3年生と5年生の学習到達度自己評価を実施し、教育課程の改善に反映させる取組は、重要であると思えます。学生の学習到達度自己評価結果はどのような状況でしょうか？

(澤田委員)

高専教員の英語力強化は社会的な課題だと思います。今後小学生から英語教育が始まり、近いうちに高等教育に及びますので、教育課程の構成など具体的な検討は準備したらいかがでしょうか？

(阿部委員)

他の項目についても同様な傾向が見られるが、こういう施策を実施するという手段中心の計画となっており、その狙い・目標をもう少し明確にすべきではないかと感じる。

その上でどこまで施策が有効だったのかを評価し、フィードバックする形が望ましいのでは。

(岸本委員)

①イノベーションが求められる世の中で、イノベーションを生み出す学生の自主性、独創性、多様性を伸ばさせる教育体系を組み込んでいただきたい②グローバルで活躍できる人材が求められており、語学教育の充実は必須

(植松委員)

昨年と同様のコメントですが、計算科学・データサイエンスなどが今後さらに重要となる中で、数学・物理教育に力を入れており、非常に期待しています。

(清 委員)

グローバルな視点からもTOEIC等による英語力向上の確認は、企業としても優秀な人材確保にもつながり、必要とされるところと考えます。弊社におきましても、全社員TOIC受講を義務化しております。

<p>(唐國委員)          具体的提案はできないのですが、「学際」を科目としてだけでなく「系」として置き、特定の科には属さずにプロジェクト的に学ぶような系統が、高専のように小回りの利きそうな組織なら有効に働きそうに思います。</p>
<p>(木戸委員)          TOIECやGPAでの客観的評価などを加えた「評価」などが、より学生の関心や意欲を高めるものとなっていると思います。学生の関心や意欲は「教育の原点」であり、それを高めるためのインターンシップなど、外との、社会との交流(刺激)も一層充実していくことを期待しています。</p>
<p><b>○優れた教員の確保</b></p>
<p>(東郷委員)          優れた教員の確保、育成は重要な課題で、人事評価システムを整備することが不可欠だと思います。昨年も、質問していますが、教員の採用・昇格基準はどのようになっているのでしょうか？</p>
<p>(澤田委員)          教員の流動化(交流人事ではなく)を積極的にできる体制が必要と感じます。業績だけではなく教育活動を積極駅に評価しより高いポジションを他高専などで獲得するような雰囲気作りが、高専全体で生まれればと思います。</p>
<p>(阿部委員)          平成27年度の評価シートにも記載させていただいたが、推進する上での課題があるのかないのかを明確にしてほしい。目標数値をすでに超えた水準になっており、目標達成している中での課題を洗い出すことでさらなる向上を目指すのではないか</p>
<p>(岸本委員)          ①企業との産学連携、共同研究の促進、海外も含め他の教育機関との相互交流、派遣や学会への参加等、先生方に学外と積極的な交流を行ない、自己研鑽を積んでいただく②学生同様、先生にとっても、本校が、魅力的な教育、研究機関でなければ、公募制も有効に機能しない</p>
<p>(植松委員)          企業出身者の採用は、どのように考えていますか？ 教員の多様化も必要と思います。</p>
<p>(清 委員)          弊社の中でも人材育成の考え方から、従業員レベルアップを考えた育成的ローテーション(人事異動)を実行しております。他機関との教員交流の中での研修派遣は優れた教員の確保につながると考えます。</p>
<p>(木戸委員)          女性教員の優先採用や内地留学など、教員の偏りをならす方向に進められよいことと思います。企業経験者を多くしたり、交流機会を増やしたり、社会ニーズをより取り込める布陣整備が進んで行くことを期待しています。</p>
<p><b>○教育の質の向上及び改善のためのシステム</b></p>
<p>(東郷委員)          教育の質の向上のための多くの取組が計画されていると思います。計画を着実に実施され、高専卒業生の質保証を確保して頂きたいと思います。</p>
<p>(澤田委員)          長期学生派遣は有効だと思いますが、適切な期間をどのように考えるかのポリシーがあれば良いと感じました。(長ければ良いのか?)</p>
<p>(阿部委員)          難しいとは思いますが、これまでの取組み成果を定量化するような取組みを加えてはどうか。特にグローバル化に関しては数値化することが比較的容易な項目であり、具体的な目標設定をしてはどうかと思う。</p>
<p>(岸本委員)          ①先生同士での授業評価、学生による授業評価で、先生方には厳しい面もあるでしょうが、教育水準の向上、活性化に繋がる他者評価を改善に活用する仕組みが構築されていますでしょうか</p>
<p>(植松委員)          アイデアソン。ハッカソンなどのアイデア創出プログラムを組み入れることは検討していないのでしょうか？</p>
<p>(清 委員)          インターンシップ、企業人材の活用は、継続して実施して行くことが、非常に有効であると考えます。</p>
<p>(唐國委員)          学際科目「社会と工学」には、起業の視点が含まれますか？</p>

(木戸委員)

「授業の工夫実施例」のポータルサイト掲載など日々の改善、向上が窺われます。新しいことの挑戦なども身近なところから、教員間、教員学生間で自慢し合う雰囲気が進んでいくことを期待しています。

## ○学生支援・生活支援等

(東郷委員)

学生支援・生活支援に関して、適切な取組みが計画されていると思います。学生のメンタルヘルス、いじめ、寮生活など多くの課題があると思いますが、是非、入学した学生が成長して卒業できるようにして頂きたい。

(澤田委員)

特にありません

(阿部委員)

最近では学生のメンタルヘルスクエアが重要性を増してきていると考えるが、本学の特色の一つである低学年次の全寮制に関連した課題、取組み、目標を設定してはどうかと思う

(岸本委員)

①留年、中退が多いとの報告を受けましたが、学生の学力、生活力の実態を把握、認識し、組織的な学業サポート、生活指導を望みます(厳しくても楽しく有益な学生時代を送っていただきたい)

(清 委員)

学生におけるメンター制度を始めたとお聞きました。弊社も新入社員の多い本年度より新入社員全員一人一人にメンターを任命したところです。学校、企業に共通する新人支援活動であると考えると同時に、先輩(メンター)にとっても自分自身が成長できる機会であることが確認できたところです。

(唐國委員)

高専においてすら、学生のメンタルヘルスクエアへの配慮を大きく掲げざるを得ないところにご苦勞を感じます。この点については、情報提供において中学校との連携が必要だと思えます。

(木戸委員)

メンタルヘルス講演会など、学生ひとりひとりに向き合い対応するためのスキル向上にも力を入れている様子が、頼もしく思います。キャリア教育などを通じて社会性や人間力を高めていくことにも期待しています。

## ○教育環境の整備・活用

(東郷委員)

前年度の自己評価でBとなっていた省エネ・CO2削減を考慮したキャンパスマスタープランの構築を進めて頂きたい。

(澤田委員)

安全衛生資格取得者の目標とする人数をどのように設定するかを数値化すると良いと思います。また、ガスなどに関する資格取得者などはいかがでしょうか？

(阿部委員)

平成27年度の評価シートにも記載したように、ハード的な教育環境の充実とともに、ソフト面、例えば、ITを活用した学習環境の改善(革新)といった面も計画に加えてはどうかと思う。IT活用は企業においても当たり前で、そのアイデアが重要なポイントとなりつつあるので。

(岸本委員)

①実習設備、研究設備の維持と更新・新設は、世の中、産業、科学の動きに遅れないように計画的に(予算確保)して実施いただきたい

(清 委員)

省エネ・CO2削減活動、ISO認証要件(法的要件)の習得・意識づけは、将来の企業人としても有効な知識であり、重要な事項であると確信しております。

(木戸委員)

ワークライフバランスやメンタルヘルスのセミナーなど、より正しい知識の習得は大変良いことと思います。外部からの、その専門家からの知識習得を推進されていくことを期待しています。

## ○研究や社会連携に関する事項

(東郷委員)

沼津高専の特色ある研究や社会連携を推進するための取組が計画されていると思います。

(澤田委員)

知財に関して記述がありますが、貴学教員が取得した特許の海外出願などJSTの支援を受けるような目標があっても良いと思いました

(阿部委員)

東部の高等教育機関としての社会からの期待に応えた素晴らしい取組みが行われていると思う。既に取り組まれているが、外部との共同研究、共同教育等に、さらに力を入れていただきたい。

(岸本委員)

①本学(学生、教員)の機能や評価向上のためにも、学校、教員、学生とも、学外との学術交流、共同研究、産学連携の強化、推進をしていただきたい

(清 委員)

特記ありません

(唐國委員)

中学生ロボコンの運営を毎年お手伝いいただいておりますが、一歩進めて、藤枝市が実施しているような、通年に亘るロボット教室のようなものを主宰していただけると、東部地区の中学生ロボコンの拡大にも、高専のアピールにもつながると思います。

(木戸委員)

外部フォーラムへの参加やシーズ集の配布など社会連携を積極的に推進する姿勢が感じられます。地域創生を推進していく上で、沼津高専が中核的存在となっていくことを切に願っています。

## ○国際交流に関する事項

(東郷委員)

グローバル化への対応は、教職員一丸となった意識の下で進める必要があるかと思います。

(澤田委員)

特にありません

(阿部委員)

海外の大学との交流協定締結等、積極的な取組みを実施させており、素晴らしいと思う。目標を設定するのは現時点では難しいと思うが、現状把握をした上で課題を明らかにし、今後の施策を具体化するというような取組みを追加してもよいのではないかと感じる

(岸本委員)

①グローバルな視野を持って思考し、議論し、行動できる人材が求められている中、海外留学、外国人留学生の受け入れ、外国人教師の採用等も計画的に実施いただきたい

(清 委員)

交流センター、留学等により、英語力向上の目的からも実践で習得する機会をより幅広く提供できていることが大切であると考えます。

(木戸委員)

現在の海外からの受け入れ、海外への派遣など、一歩ずつ交流を深め、広げていくこと、またそれが日常的な状況となっていくことを期待しています。

## ○管理運営に関する事項

(東郷委員)

特にコメントございません。

(澤田委員)

windows10のくだりは唐突な感じがしました

(阿部委員)

平成28年度の評価シートにも記載させていただいたとおり、物理的なセキュリティに加え、サイバーセキュリティについてもますます重要性が増しているため、取組みの強化をお願いしたい。

(岸本委員)

①世の中は、働き方改革が議論されています。教育現場における働き方改革についても議論を深めていただければと思います②若年の学生の生活指導もしなければならない教育環境下、先生方の繁忙さも含め勤務実態を適切に把握し、改めるべき事項は適切に改善くださいますようお願いいたします

(植松委員)

セキュリティに対する取組みについて、現状の構築状況を教えていただきたい。

(清 委員)

教職員と学生が一体となった透明性ガイドラインが明確となったコンプライアンスマニュアルを活用し、定期的に繰り返し研修確認して行くことが大切であると考えます。

(唐國委員)

公的資金確保については、世論の後押しも必要かと思います。そのためにも、地域連携や高等専門学校についての認知度の向上に尽力が必要だと思います。

(木戸委員)

ハード面(設備、環境、制度、他)と併せて、教職員及び学生、来校者全てが居心地よく過ごせる、笑顔と楽しさに満ちた学校づくりを全員で目指していくことは、あらゆる面でいい波及効果が出てくると思います。

○総合所感(本校に対する意見等)

(東郷委員)

特にコメントございません。

(澤田委員)

物づくりに適する入学者確保とその育成に期待します

(阿部委員)

本校は東部地区を代表する高等教育機関として、地元企業からの期待が大きい。その期待を踏まえた教育体系、様々な産学、産官学連携の取組みが実施されており、非常に良い流れになっていると思う。既に計画されているが外部との共同研究、教育等の取組みにもさらに力を入れてほしい。

(岸本委員)

①世界は、第四次産業革命の進展、その後を見据えての動き、日本は、少子高齢化、人口減少への対応等々、時代は多様化、複雑化し、変化・変動が大きく、激しく、かつそのスピードが加速している状況で、様々な課題に、取り組み対応するには、優秀な若手人材の育成が不可欠です。変化・変動に適応できる人材から一歩進めて、変化・変動を創り出せる人材をぜひ沼津高専で育成し、地域に、日本に、世界に輩出していただきたいと思います。そういう教育機関、教育システム・環境となるよう教職員の皆さんの取り組み・ご活躍に期待いたしております。

(清 委員)

この度、運営諮問会議委員をお受けし2年度目となりますが、前回と同様な意見となり、また内容が感想的になってしまいました。総合的所管として、業務運営に関する計画が多岐にわたり、目的目標に向かいきっちり立案され実施されている印象を受けております。

(唐國委員)

沼津高専は沼津市における唯一の高等教育機関として、沼津市の活性化にも貴重な存在であるはずですが、世界一元気な沼津をつくる事を謳って当選した、新沼津市長へのアピールをぜひお願いします。大沼氏は、工学部出身の技術者&起業家であり、父親は元沼津高専教員です。成長産業の誘致も政策に掲げており、沼津高専は大切な存在のはずです。

(木戸委員)

「入学者の確保」で触れましたが、「大学」「短大・高専・専門学校」「高校」「中学」の括りは、年齢的な括り方としては問題ありませんが、内容的には高専の実態を表すものとは大きくかけ離れます。「高専」の統計数値は、求人にしる平均年収にしる多くの項目が大学同等、あるいはそれ以上の数値が示させるのではと感じています。沼津高専で作る学校紹介資料の中では、これら世の中の誤解部分を払拭する内容も含めてはいかがでしょうか。2年前のアンケート調査の際には、同窓会から名簿を提供して調査協力も行っています。是非、調査結果内容を有効に活用して頂ければと思います。(本来は文科省や高専機構がそれなりの統計を提示すべきものと思いますが、設立50年以上経過しても出されていない?)

同窓会としても「卒業生の社会での活躍の様子」についてはいろいろな意味を持って調査収集し、公開(HP等、来年秋に第1弾)していきたいと考えています。それが高専教育の実態の一面を示すものとして利用されれば幸いとします。



## 運営諮問会議 議事要旨

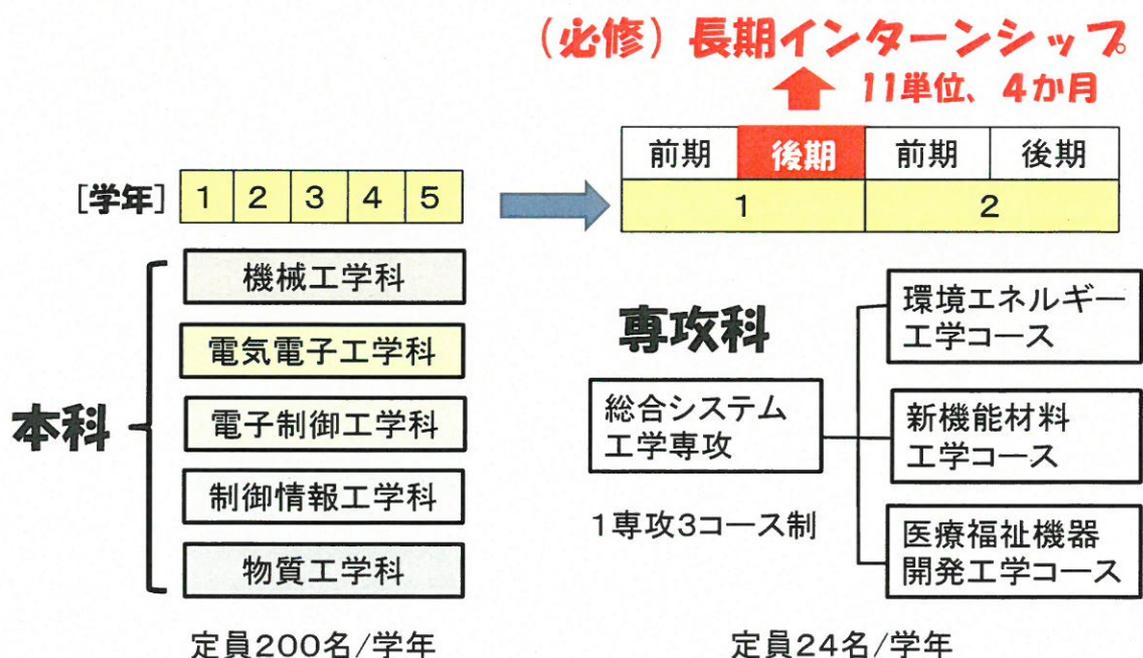
(平成 28 年 9 月 14 日(水) 本校3F 大会議室)



## 企業との共同教育 沼津高専の長期インターンシップ紹介

校長補佐(専攻科長) 高野明夫

### 沼津高専での 長期インターンシップの位置づけ



# スケジュール



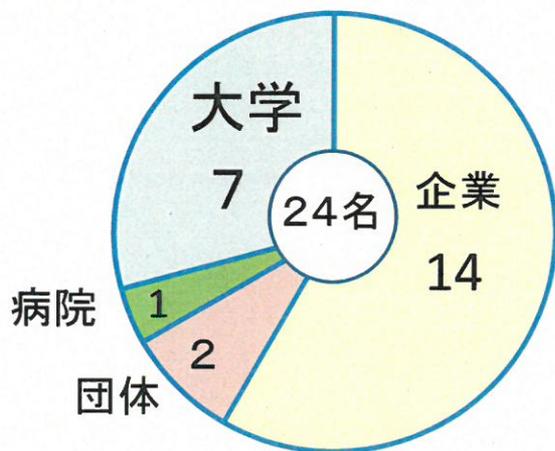
- 6月  
受入機関募集(受入票による申し込み)  
学生に順次開示
- 7月～8月  
受入機関決定  
指導教員と受入機関の間で打合せ
- 9月  
学生向け事前研修会(学内実施)  
事前学習報告書提出
- 10月初旬～1月下旬  
インターンシップ実施  
教員が適宜受入機関を訪問
- 報告会  
12月初旬:中間報告会(学内関係者のみ)  
2月初旬:最終報告会(一般公開)

**実習期間**  
**約4か月**  
10月初旬から1月下旬まで

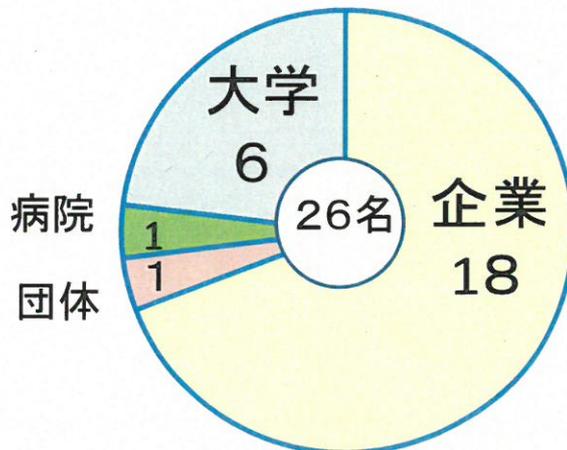


## インターンシップ<sup>o</sup>実習先の内訳

H26年度



H27年度

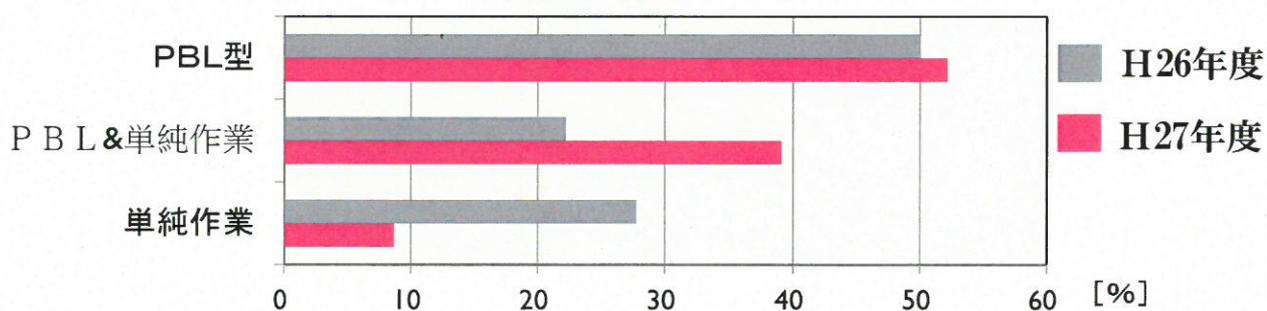


コース	種別	受入機関
環境エネルギー工学	企業	MyWayプラス株式会社
		平電機株式会社
		有限会社パインテック
		株式会社明電舎（可変速開発課）
		株式会社明電舎（システム開発課）
団体	ヤマハ発動機株式会社	
	横浜ゴム株式会社	
大学	一般社団法人日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所	
	首都大学東京（吉村研究室）	
新機能材料工学	企業	ケイ・アイ化成株式会社（10～12月）、日揮株式会社（1月）
		富士カプセル株式会社
	大学	矢崎総業株式会社（信頼性基盤技術研究部）
		長岡技術科学大学（小笠原研究室）
		静岡大学（坂井田・矢代研究室）
医療福祉機器開発工学	企業	Across Bio 株式会社
		株式会社エミック
		チームラボ株式会社
		株式会社ドゥシステム
		株式会社トライ・カンパニー
	病院	フジファルマ株式会社
		株式会社明電舎（システム開発課）
大学	矢崎総業株式会社（ナノマテリアル研究部）	
	公益社団法人有隣厚生会 富士病院	
		東京医科歯科大学（三林研究室）
		静岡大学（和田研究室）

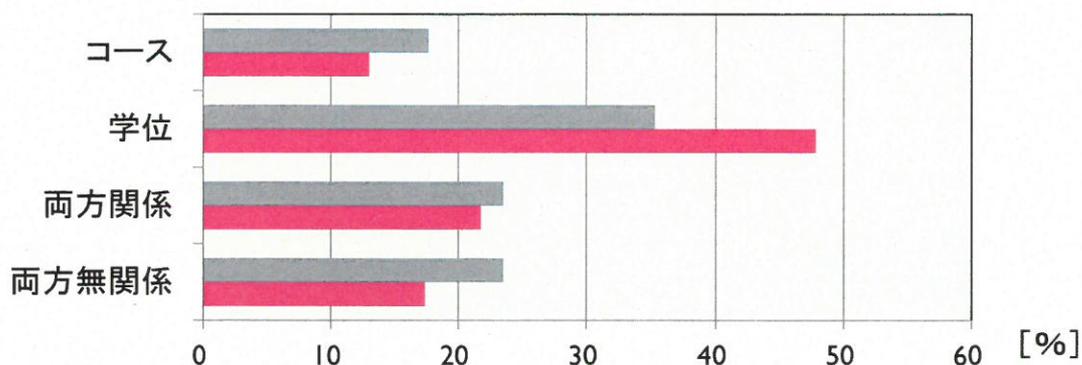
実習先  
(平成27年度)

## 学生アンケートに見る 長期インターンシップ

### 実習内容

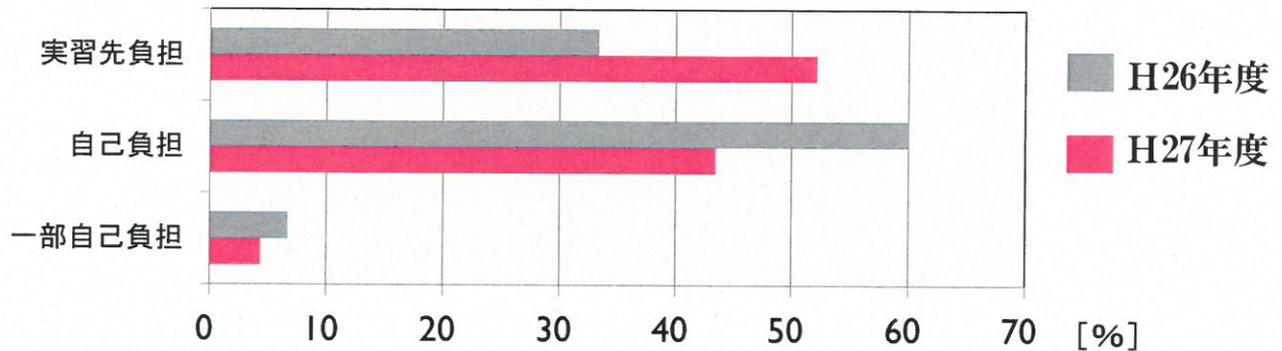


### コース, 学位 との関係

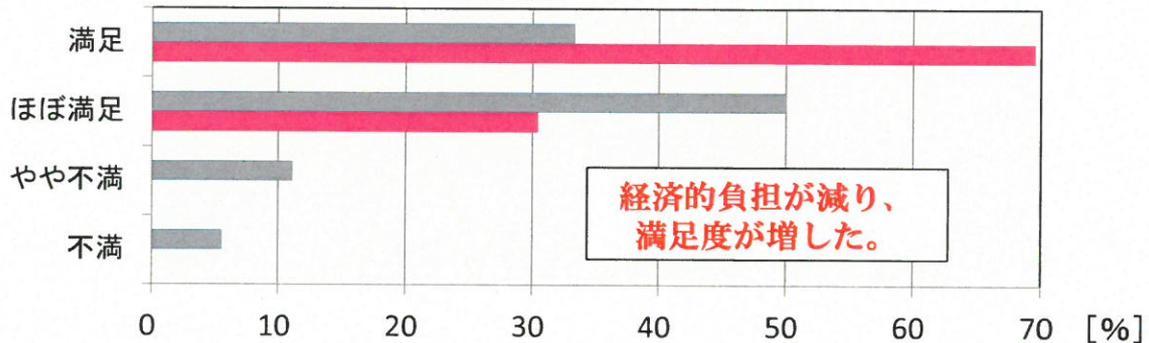


# 学生アンケートに見る 長期インターンシップ

## 交通費



## 満足度



## まとめ

### 1. 配属先の割合

企業等:大学=3:1~4:1

2. 実習内容は、「単純作業のみ」は減り、「課題解決型(PBL型)と単純作業の組み合わせ」が増加している。

3. 自宅から通っている者が6割以上を占める。交通費は企業負担が増え、学生の自己負担は減少傾向にある。

⇒配属先を自宅近くに設定し、経済的負担を軽減

4. 学生自身の満足度は極めて高い。

⇒PBL型の実習、配属機関の丁寧な指導、経済的負担の軽減が影響

平成28年度 沼津工業高等専門学校 運営諮問会議

# 学生寮について

平成28年9月14日

寮務主事 小林美学

1. 学生寮の概要
2. 昨年度の運営諮問会議
3. 学生へのサポート
4. 保護者との連携
5. 新入生, 指導寮生, 保護者へのアンケート

# 沼津高専学生寮

男子寮

女子寮



清峰寮



秀峰寮



優峰寮



明峰寮



栄峰寮



光峰寮

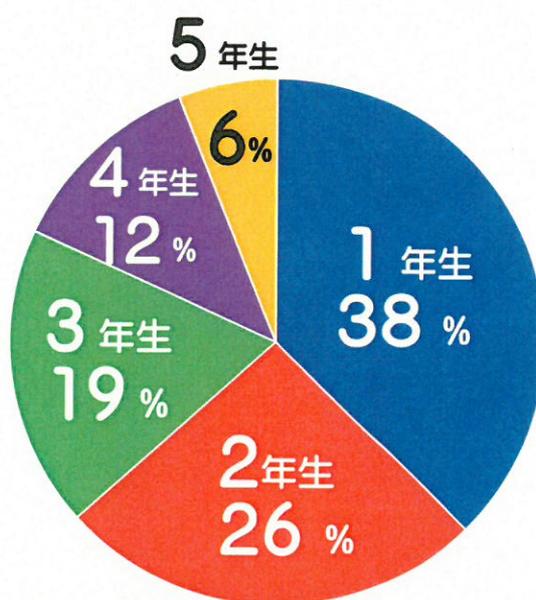


翔峰寮

寮生 **562人**  
(平成28年4月時点)

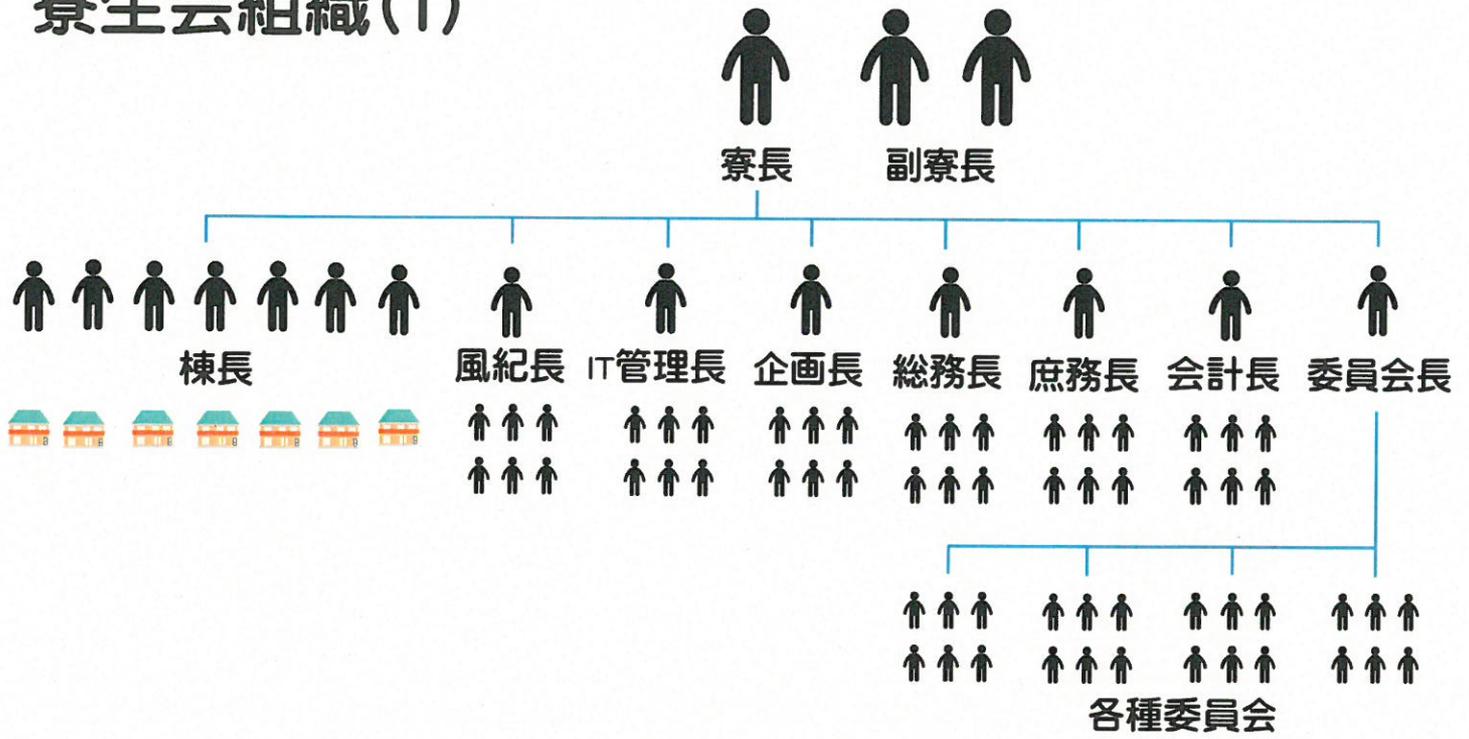
## 学年別人数 (H28.4.1)

1年生	211人
2年生	145人
3年生	104人
4年生	68人
5年生	34人
専攻科生	0人
<b>計</b>	<b>562人</b>

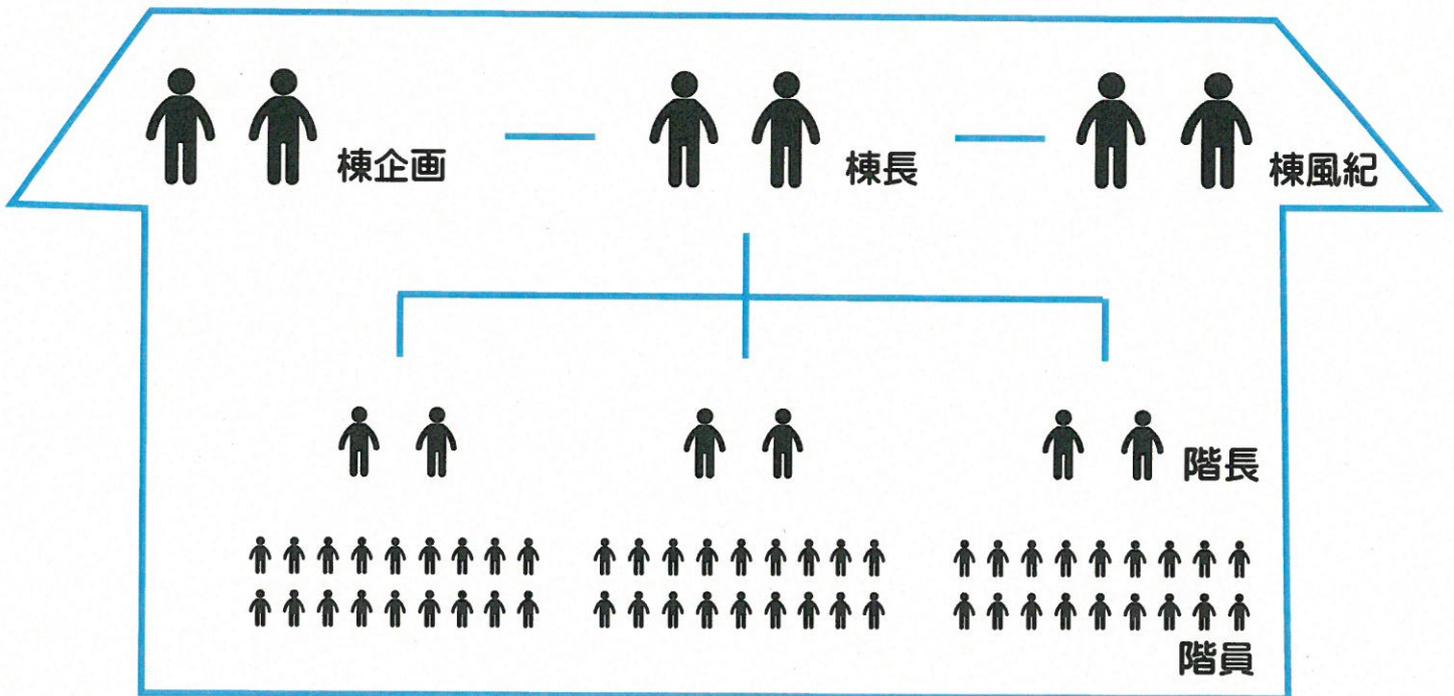


1, 2年生が**64%**

# 寮生会組織(1)



# 寮生会組織(2)



# 日課(1年生)

- 6:55 起床
- 7:00 点呼  
清掃
- 7:15 朝食
- 8:30 登校  
(学校)
- 17:00 夕食, 入浴
- 20:00 点呼  
学習時間
- 22:00 点呼  
静粛時間
- 23:00 消灯・就寝



点呼



清掃



浴室



寮食堂



勉強会



居室

## 寮生会の企画行事



親睦会(4月)



寮祭(5月)



夏祭り(7月)



棟別杯



クリスマスパーティ(12月)



防災訓練(4月)

1. 学生寮の概要
2. 昨年度の運営諮問会議
3. 学生へのサポート
4. 保護者との連携
5. 新入生, 指導寮生, 保護者へのアンケート

昨年度 運営諮問会議「寮生活の効用」

## 検討項目

1. 寮生活に対する評価
2. 低学年全寮制を継続すべきか
3. その他, ご意見や改善点

16歳人口  
の減少

保護者の  
意識変化

輩出する  
技術者像  
の変化

教育の  
高度化と  
深化

集団生活に  
なじめない  
学生

求められる  
効率化

厳しめに  
なりがちな  
指導

部屋数の  
不足

## 昨年度 運営諮問会議「寮生活の効用」

### 諮問委員の所見

- 自立と社会性を育む寮生活は、高専の大きな特徴。そこで学ぶ事は企業でも重要。低学年全寮制はぜひ継続すべき。
- 一方で寮生活の目的、効用を学生に説明し、個々の学生が主体性を持って寮生活を学べるようにすることも大事。
- 少子化の中で育っている子ども、発達障害の様な特性を持った子どもが増えている中、工夫も必要。

### 1. 学生寮の概要

### 2. 昨年度の運営諮問会議

### 3. 学生へのサポート

### 4. 保護者との連携

### 5. 新入生、指導寮生、保護者へのアンケート

# 木曜会



寮生会 本部会  
(週一回)



寮務担当者会議  
(隔週)

木曜会  
(隔週)

報告, 意見交換, 日程確認

# 棟顧問制度

各棟, 2名の担当教員



## 棟顧問制度

各棟, 2名の担当教員

棟長とミーティング・棟内巡回

棟別懇談会(主事, 寮監も同席)

棟ごとのスポーツ大会(棟別杯)の監督

## 配慮を要する学生への対応(例)



学生



保護者



学生生活支援室



寮務主事



指導寮生

寮生リーダー研修会にて, 自閉症スペクトラム障害に関する講演

# 新入生への配慮や規則の見直し

## 4月の帰省

大そうじの指導の適正化

メンター制度 (試行中)

年度途中の相方変更 (試行中)

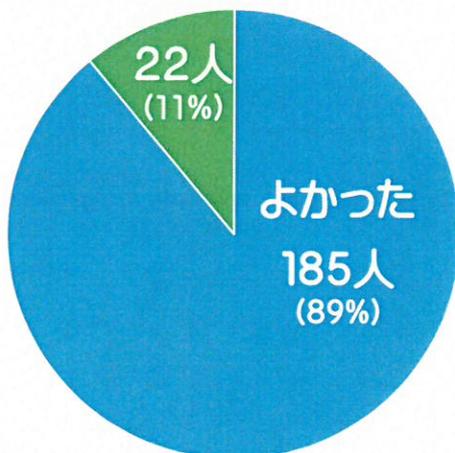
規則・慣習の見直し

情報端末や自転車の持ち込み時期 (5月→4月中旬)

昼食の時間制限

## 4月に帰省できてよかったですか？ (H28)

どちらともいえない

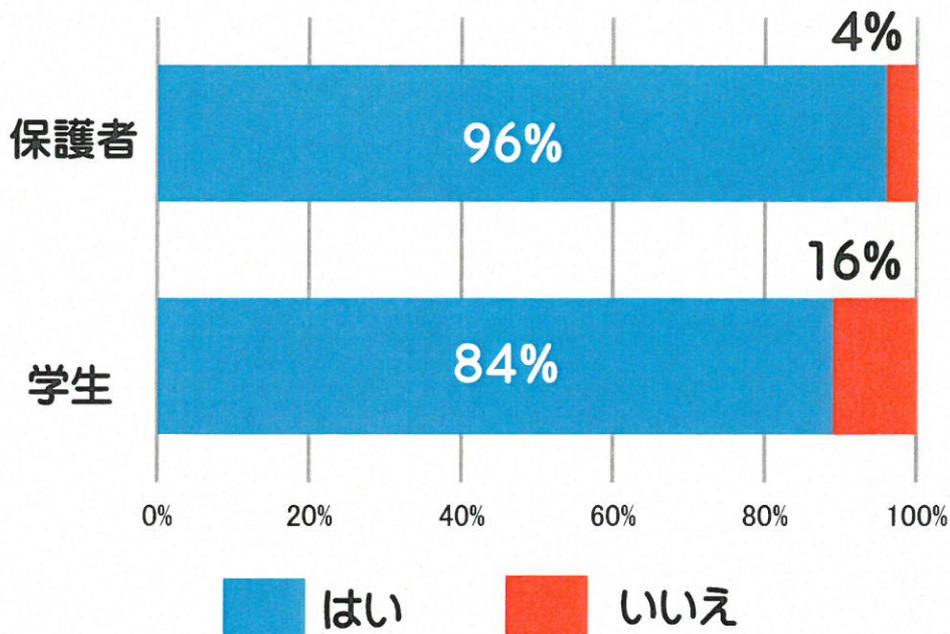


よくなかった 0人

よかった理由

- ・家に帰ってすごく楽になった
- ・リラックスできて、またがんばろうと思えた
- ・気分の切り替えができた
- ・忘れ物を取りに行けた

## 来年度も特別外泊をした方がよいですか？ (H27)



## 新入生への配慮や規則の見直し

4月の帰省

大そうじの指導の適正化

メンター制度 (試行中)

年度途中の相方変更 (試行中)

規則・慣習の見直し

情報端末や自転車の持ち込み時期 (5月→4月中旬)

昼食の時間制限

# 新入生への配慮や規則の見直し

4月の帰省

大そうじの指導の適正化

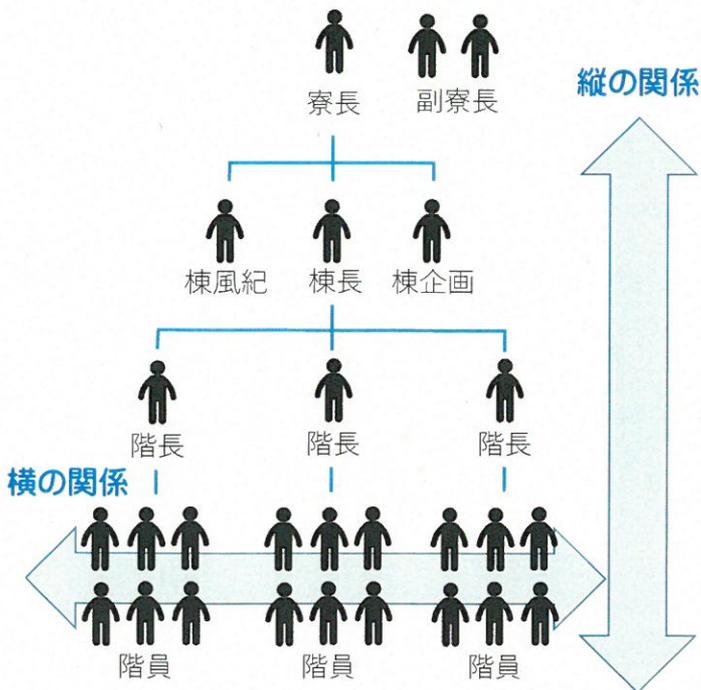
メンター制度 (試行中)

年度途中の相方変更 (試行中)

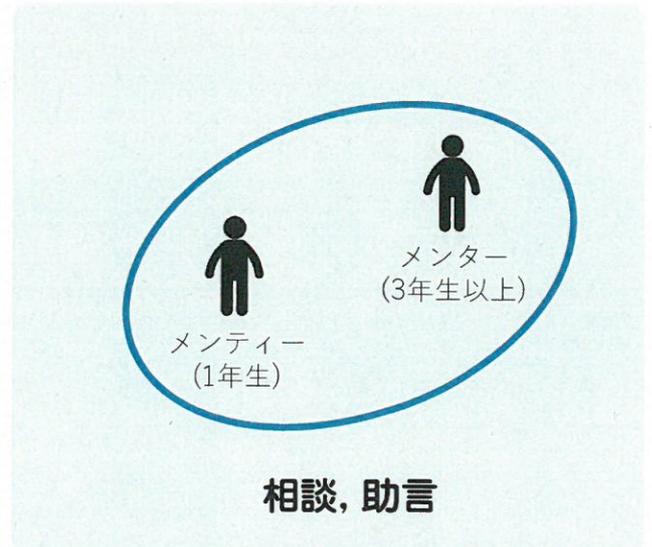
規則・慣習の見直し

情報端末や自転車の持ち込み時期 (5月→4月中旬)

昼食の時間制限



## メンター制度



試行で10人ほどで実施中

## 新入生への配慮や規則の見直し

4月の帰省

大そうじの指導の適正化

メンター制度 (試行中)

年度途中の相方変更 (試行中)

規則・慣習の見直し

情報端末や自転車の持ち込み時期 (5月→4月中旬)

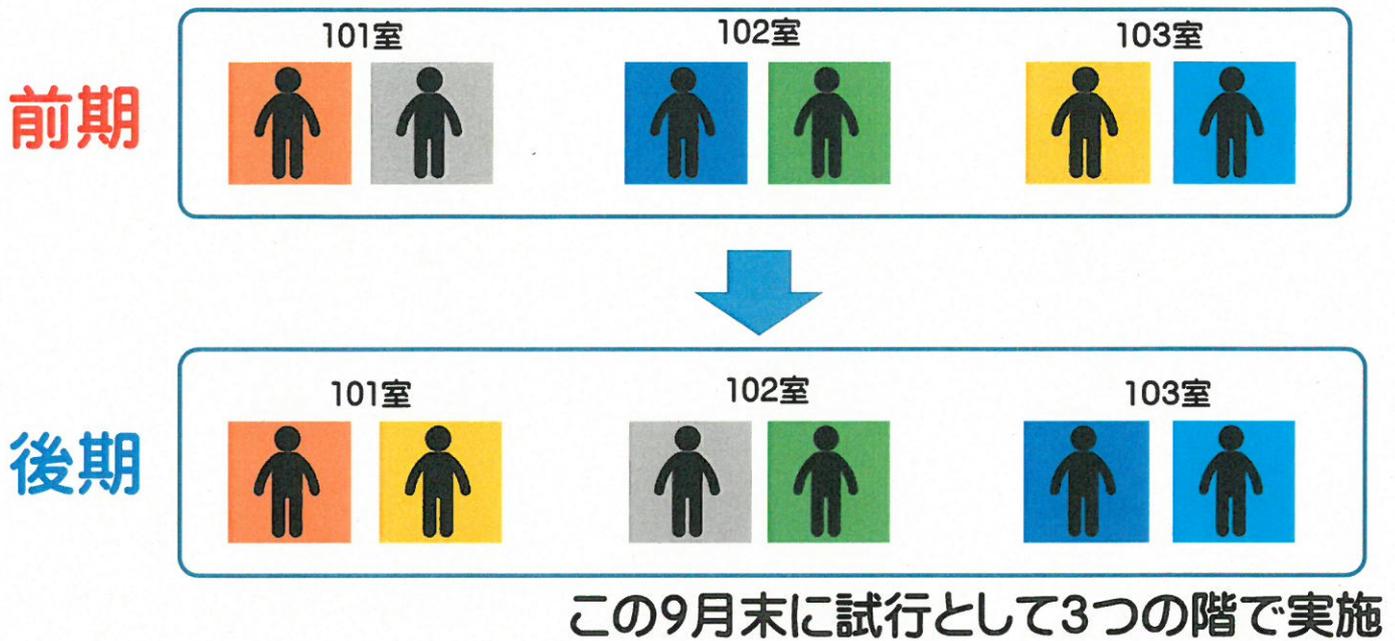
昼食の時間制限

1年生は2人一部屋

通年



1年生は2人一部屋



## 新入生への配慮や規則の見直し

4月の帰省

大そうじの指導の適正化

メンター制度 (試行中)

年度途中の相方変更 (試行中)

規則・慣習の見直し

情報端末や自転車の持ち込み時期 (5月→4月中旬)

昼食の時間制限

## 新入生への配慮や規則の見直し

4月の帰省

大そうじの指導の適正化

メンター制度（試行中）

年度途中の相方変更（試行中）

規則・慣習の見直し

情報端末や自転車の持ち込み時期（5月→4月中旬）

昼食の時間制限

## 教養講座

H27「自分の価値って何だろう」

本校スクールスクールカウンセラー 房間 貞

H28「これから多様な価値観の時代を生きる10代へ」

学生生活支援室 黒田一寿



# 寮生リーダー研修会 (2016年8月29日～30日)

## コミュニケーションスキル研修

タイトル 「コミュニケーション能力を刺激する120分」  
講師 静岡県舞台芸術センター 永井健二, 仲村悠希  
内容 「魔法使いの手」, 「声のキャッチボール」など  
6つのワークショップ

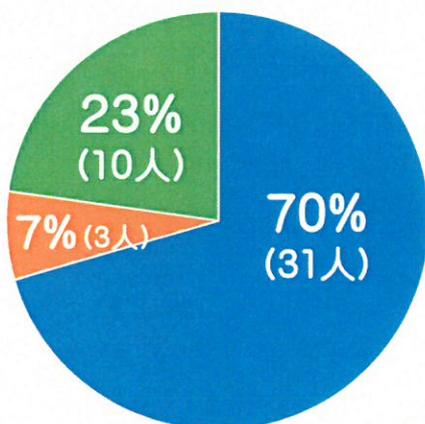


魔法使いの手



声のキャッチボール

研修で学んだ事を今後の寮生活に活か  
せそうですか？ (階長44人)

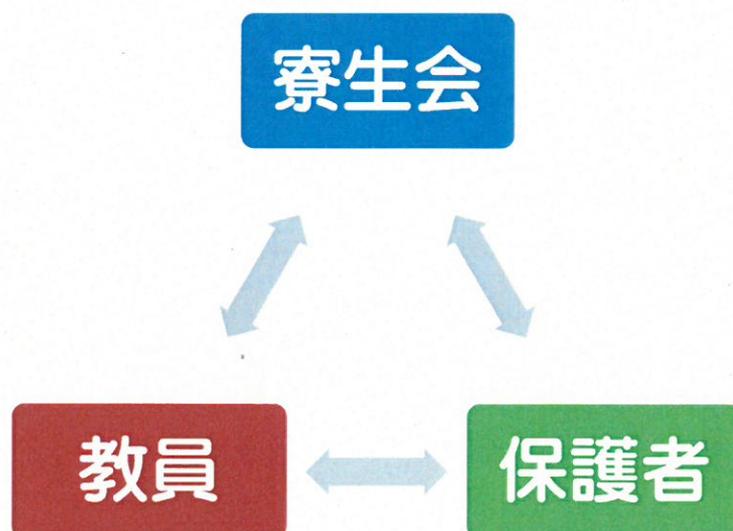


- そう思う
- そう思わない
- どちらとも言えない

### 【感想】

- 自分のコミュニケーションを見つめ直す良い機会になった
- 指導するときに、自分の基準で考えず、相手がどう受けとるかを想像して言葉を選ぶ事を心がけたい
- 人にはそれぞれ価値観があるので、それを尊重しようと思った。

1. 学生寮の概要
2. 昨年度の運営諮問会議
3. 学生へのサポート
4. 保護者との連携
5. 新入生, 指導寮生, 保護者へのアンケート



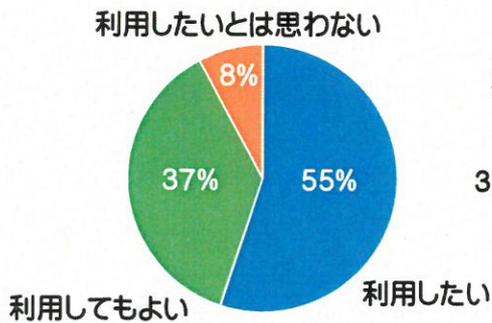
# 寮生保護者懇談会

平成27年度に実施 参加者 約120名

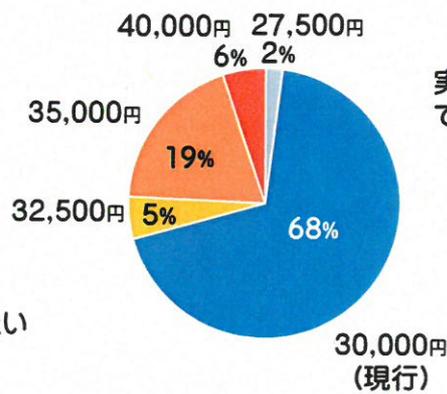


# 寮生保護者懇談会

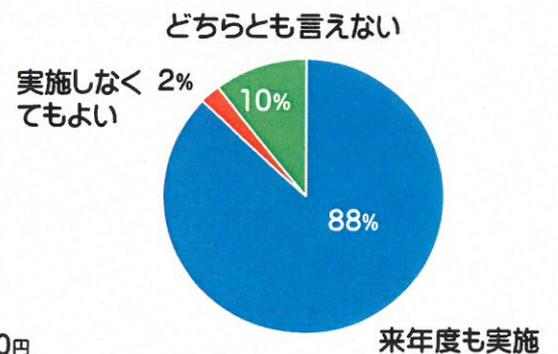
布団のリースサービス



給食費(月額)



寮生保護者懇談会



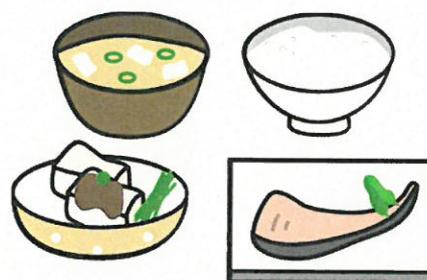
## 食事について

学校ホームページ上で、メニューを公開

### 保護者の寮食体験

食事内容について

十分に満足	3人
おおむね満足	3人
不満足	0人



## 教育後援会 寮生部会

平成28年度に設置

(12月に第一回の会合を予定)

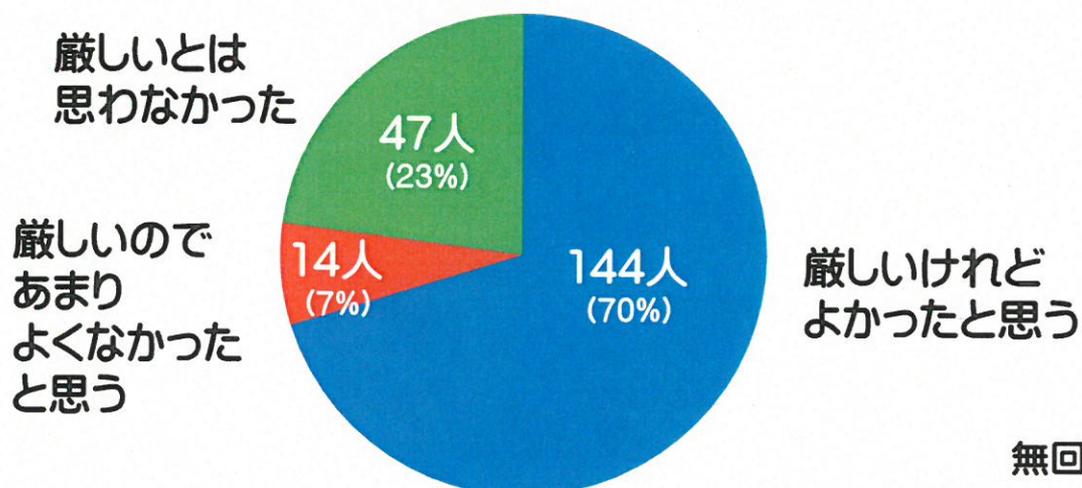
- ・ 寮費の決算報告
- ・ 寮生会の指導状況
- ・ 再入寮選考に関する報告
- ・ 食堂での食事と意見交換



1. 学生寮の概要
2. 昨年度の運営諮問会議
3. 学生へのサポート
4. 保護者との連携
5. 新入生, 指導寮生, 保護者へのアンケート

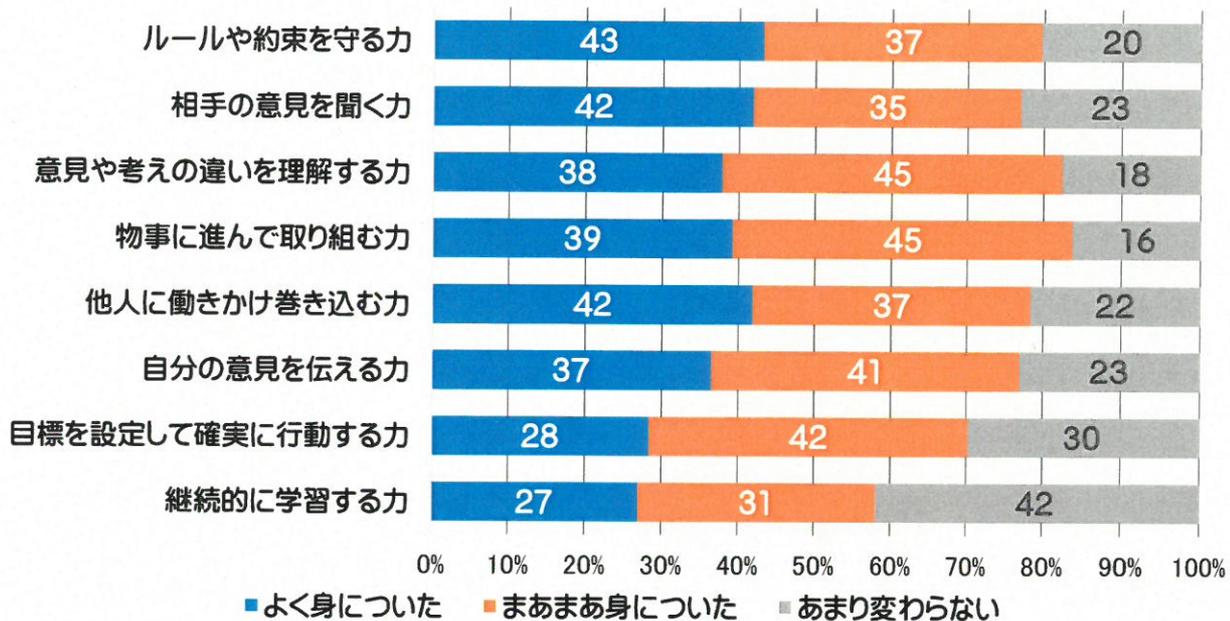
## 新入生 (H28年4月22日,23日)

入寮した頃の指導については厳しいと思いましたが。  
またそれに対してどう思いましたか。



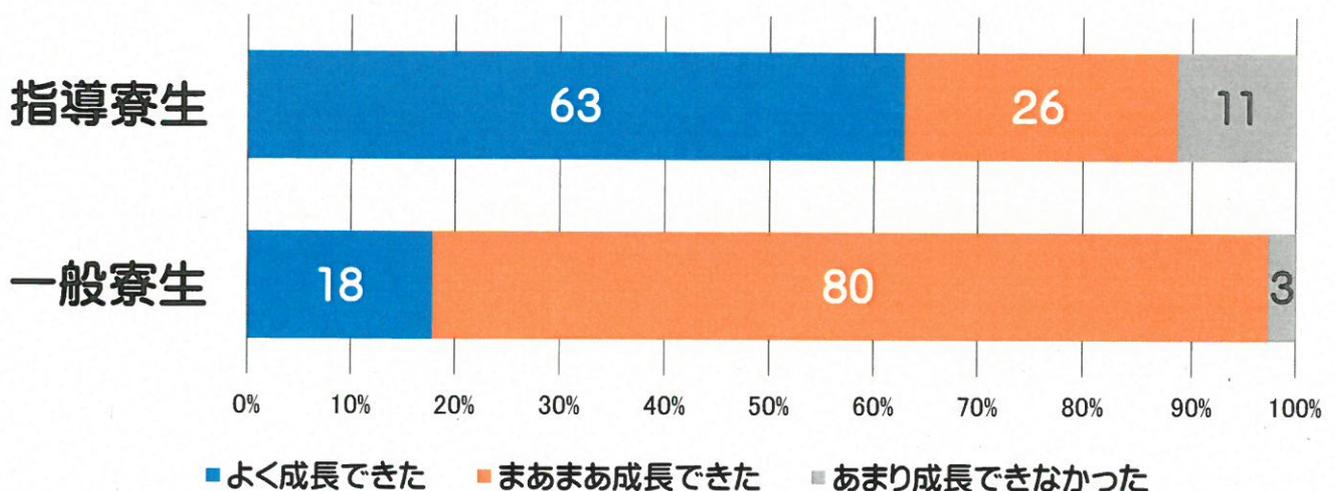
## 学生(指導寮生になる学生)

### 一年間の寮生活で身についた力



## 学生(指導寮生になる学生)

### 総合的に成長できたか (指導寮生になる2年生以上を対象)

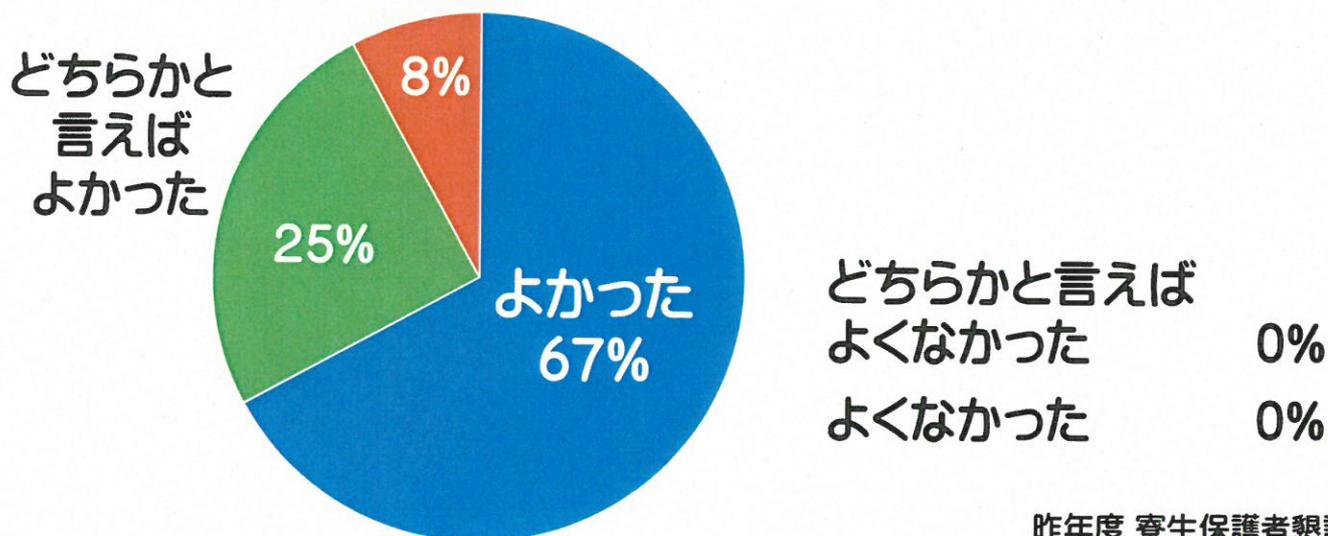


## 保護者

子どもが寮生活を経験してよかったですか

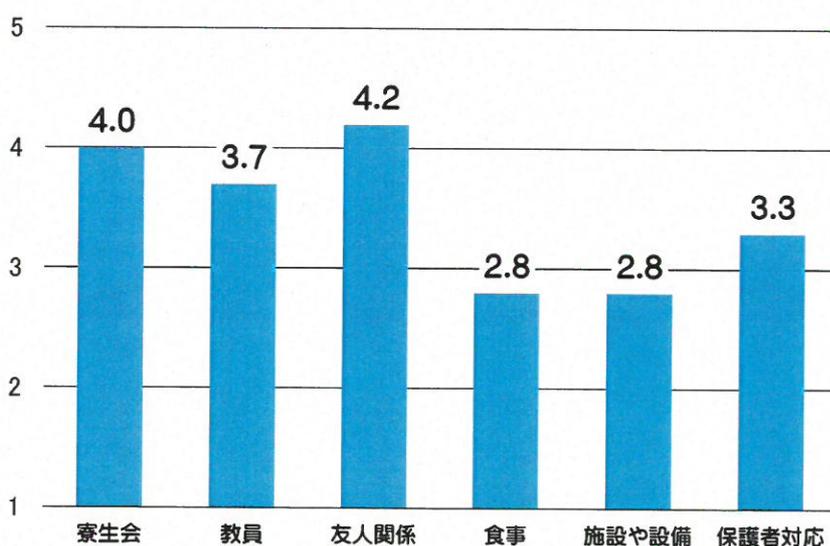
どちらとも言えない

(回答数88)



昨年度 寮生保護者懇談会より

## 保護者



寮についての五段階評価 (平均値)

昨年度 寮生保護者懇談会より

## まとめ

- 昨年度は寮生活に高い評価を頂いたが、個々の学生対応などに工夫も必要との意見
- 棟顧問制度, 配慮が必要な学生に対する対応, 新入生への配慮や慣習の見直し, 教養講座, 指導寮生のスキル研修など, 多面的に学生を支援 (さらに充実したい)
- 保護者との連携にも取り組み始めている (今後に期待)
- アンケートからも, 学生の成長が伺える (学生自身が明確な目標を立てやすいように工夫したい)

# 卒業生の社会での活躍について

沼津高専学生主事 芳野恭士

平成28年度沼津高専運営諮問会議(2016.9.14)資料

## 本校の沿革と卒業生数

---

- 1962 機械工学科(2学級)、電気工学科(1学級)設置
- 1966 工業化学科(1学級)設置
- 1986 電子制御工学科(1学級)設置
- 1989 工業化学科が物質工学科に改組
- 1992 機械工学科が機械工学科(1学級)と制御情報工学科(1学級)に改組
- 1996 専攻科設置
- 1999 電気工学科が電気電子工学科に改組

### 2016.3月時点での卒業生・修了生の総数

本科 8,668人  
専攻科 448人

## 本校にとっての卒業生

---

- ・もっとも身近なstakeholderであり、良き理解者  
→ そうなってもらえるよう、学校も努力する必要がある。
- ・学生にとっての将来像  
→ 学生にとってキャリアの見本になる。同窓生の意識形成。
- ・学校運営の応援者  
→ 授業やキャリア支援への参画。同窓会や行政との連携。
- ・受験者の確保  
→ 広報の一旦を担っていただける。ご子弟の進路先として選択。

2

## 本校にとっての卒業生

---

- ・もっとも身近なstakeholderであり、良き理解者  
→ そうなってもらえるよう、学校も努力する必要がある。
- ・学生にとっての将来像  
→ 学生にとってキャリアの見本になる。同窓生の意識形成。
- ・学校運営の応援者  
→ 授業やキャリア支援への参画。同窓会や行政との連携。
- ・受験者の確保  
→ 広報の一旦を担っていただける。ご子弟の進路先として選択。

3

## 卒業生と在校生の接点

### 文化講演会(毎年10月実施)

2004	二橋岩雄	トヨタ自動車九州(株)取締役会長
2006	平尾一郎	(独)理化学研究所チームリーダー
2007	小池伸二	(株)牧野フライス製造所取締役
2008	長谷川浩之	(株)HKS代表取締役社長
2009	村松正敏	富士フィルムイメージテック(株)取締役営業本部長
2015	山本芳春	本田技研工業(株)取締役専務執行役員 (株)本田技術研究所社長



### 今後の候補

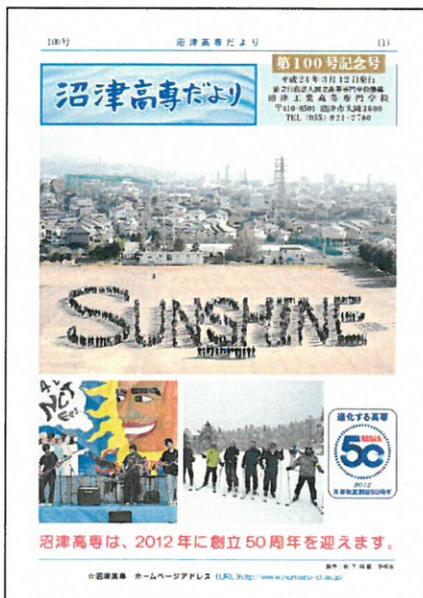
杉山政則  
井上真一

広島大学大学院特認教授  
(株)牧野フライス製作所取締役社長

4

## 卒業生と在校生の接点

### 学校広報誌「沼津高専だより」



#### 高専生活を振り返って

工業化学科21期生 山本 健

私は1990年3月に工業化学科(現 物質工学科)を卒業し、長岡技術科学大学工学部生物機能工学課程へ編入学しました。その後、同大学大学院工学研究科修士課程を修了し、現在の会社に就職しました。高専卒業後の進路については、卒業研究の担当教官の高めと遠伝子工などバイオテクノロジー分野が活発になってきた時代でしたが、当時の高専で十分な教育システムが揃っていませんでした。大学への進学を選択しました。高専を卒業してみると、在籍中には何に役立つのかわからずひたすら単位を取るために受けていた講義が、大学・大学院、企業での研究生活において、どれも実践的で役立つものであり、例えば、新しい学生実験とそのレポート(内容も提出期限も)、有効数字の考え方、鋳造・鍛造などの機械工学実習。当時はつまらないと感じていたものは、企業に勤務してから重要なことであると実感しています。特に卒業研究や実験レポートは、物事を論理立てて考えたり表現したりするために重要で、提出期限を守ると

いったことも含めてかなり鍛えられたと感じています(この原稿も締め切り1週間前に依頼されましたが期限を守ることができました)。昨今の企業は、専門性の高い人材を求めている反面、幅広い知識も要求されます。また、就職して自分の専門分野だけを仕事とするのは、ほんの一握りの社員のみで、大部分は専門外の仕事もこなす必要があります。私の場合、企業研究員のため、研究だけでなく経理(コスト)や営業も仕事の一部として行っています。専門外の仕事にも「物事を論理立てて考え表現する」ということは共通するため、今では高専生活の5年間で身に付けたことはとてもありがたく思っています。私は入社6年目から2年間ほど北海道の大学で研究をする機会を得ましたが、有名国立大学でも高専のような教育は、ほとんどなされていませんでした。したがって、高専の特長な環境は、自分の土台作りの場として有意義なものであったと感じています。高専生活の5年間は、自分形成の重要な時期だと思います。在校生の皆さんには、将来自分自身がどのようにしたいのか、どのようになっているか想像しながら有意義な時間を使っていただきたいと思います。一つのアドバイスとして、卒業研究の研究室を選ぶときは、厳しさと評判の研究室を選ぶことをお勧めします。

(22)

沼津高専だより

97号

#### 在校生の皆さんへ

物質工学科39期生 河合 佑加

皆さん、こんにちは。私は2009年の3月に物質工学科を卒業しました。卒業後は就職を選び、現在日星電気という会社で働いています。2008年の5月、会社からの内定を頂いた私は、就職先が法まったという安心感と共に、「高専卒でやっていけるんだろうか」と不安を感じていました。いくら専門的な勉強してきたとはいえ、大学へ4年間通った人達についていけないのでは、と考えてしまっていたからです。高専卒業後、就職を希望している在校生の皆さんには、少なからず同様な不安があるのではないのでしょうか?今同様の経験談(といってもたった1年間ですが)で、その不安が少しでも和らげば嬉しいです。

私が会社に入ってから覚えたことは、高専で習ってきたことがそのまま活かされたこと、と言っても、専門的な知識の話ではありません。会社では「いかに自分の意見をわかりやすく相手へ説明するか」が重要になります。特に私の仕事は製品の開発、評価なので、ディスカッションをする機会が多いです。そんな時、高専で学んだ発表方法、話し合い方法を思い出し、伝えたいこと、知りたい事を明確に相手に伝えるのに役立っています。他にも、寮生活で養った精神力や、他人とのコミュニケーション能力など、高専でしか学べず、現在に役立っていると思うことが多々あります。在校生の皆さんには、是非「高専だからだめか」ではなく「高専にしかない利点」を探して欲しいと思います。

ネガティブに考えず、常にポジティブに高専生活を送ってください!以上、最後まで読んで下さってありがとうございます。

5

## 卒業生と在校生の接点

### 各種イベント等での紹介



第10回「静岡県東部テクノフォーラム in沼津高専」併催イベント 2015.12



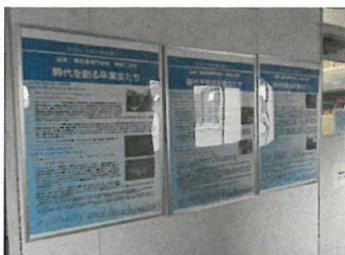
第39回 技能五輪国際大会併催OC 2007.11

## 卒業生と在校生の接点

### 各種イベント等での紹介



高専祭(文化祭)学科展示の中で



廊下にも常設

化学と生物の扉を開こう！

沼津工業高等専門学校 物質工学科

## 時代を創る卒業生たち

株式会社リコー 研究開発本部 高級技術研究所 分析・試作センター

八木 佑美子 さん(平成14年度 物質工学科卒業)

沼津高専で学んだ知識や技術は、現在の仕事に非常に役に立っています。

現在の仕事について 私の仕事は、自社製品コピー機の特殊部であるトナーや感光体、サーマルペーパー(紙)やその他の材料の化学分析です。分析結果の解析や目的に応じた検査方法の提案や検査を行っています。製品開発や品質管理、新たな工程トラブルやユーザーからの対応に欠かせない仕事です。仕事をすることで、製品やその材料に対する化学的な知識や分析方法についての知識が必要となります。

卒業生について 私は、入学入学をきっかけに沼津高専を志望しました。色々な経験がなかったのと、その時に在学生の先輩から学校生活の厳しさを知りたくて、沼津高専に入学を決めました。沼津高専で学んだ知識や技術は、現在の仕事に非常に役に立っています。化学分析にはその厳格性を身に付けていたためです。今に至りまで、もっとも大切に育ててもらった沼津高専で学んだ知識や技術は、現在の仕事に非常に役に立っています。また、懇話会にも入会して先輩と交流しました。当時思っていたよりも先輩の方が、今でもその頃の友人とは違いながらも接点があります。

卒業の経験について 私の経験で、私が経験者として得られる方は、授業のレベルが高いために、人間的にも能力的にも高いです。また、課外にもこれがあるような方は、他校が難かたそれだけのアイディアにも活かされていると願っています。化学や仕事に一生懸命に励む人は、それ以上に誇りを持って、自分ができることとやりがいを感じてほしいです。

日本食品化工株式会社 生産技術課

安枝 大輔さん(平成15年度 物質工学科卒業、平成17年度 専攻科卒業)

高専時代は、勉強だけでなく、社会人として技術者として即使える人材に育てて頂きました。

現在の仕事について 私の会社では、トフモコシを原料に食品用及び工業用の原料、水産物の飼料、飼料添加剤、動物の飼料などに幅広い種類の製品を製造しています。弊社は、例えばジュースのパッケージ印刷に用いられている「原材料名」に含有している「ぶどう糖液濃縮液」などで、お客様は最終製品メーカーです。このようにお客様は、お客様が安心して使用できる製品を提供するための品質管理や、お客様に製品を提供するための工場管理といったことを業務としております。品質管理、工場管理といった業務は多岐にわたります。これによって決まった仕事があるわけではなく、日々新しい仕事に挑戦しています。例えば品質管理については、お客様からの弊社製品に対する品質の管理が高まり、この管理を徹底したとすれば、お客様は安心して製品を使用できます。品質管理に力を入れた結果、お客様は安心して製品を使用できます。品質管理については、お客様からの安心を確保するために、品質管理に力を入れた結果、お客様は安心して製品を使用できます。品質管理については、お客様からの安心を確保するために、品質管理に力を入れた結果、お客様は安心して製品を使用できます。品質管理については、お客様からの安心を確保するために、品質管理に力を入れた結果、お客様は安心して製品を使用できます。

卒業生について 多くの先輩が活躍の場が広い中、私はどうもかといふと文系に近い考え方もあります。ですので、高専を卒業してから考えると、専攻科のバランスの良い考え方が必要になったのではないかと感じております。高専時代は、個人研究室に配属されました。勉強だけでなく、社会人として使える人材に育てて頂きました。高専時代に培った経験が、現在に活かされています。

卒業の経験について 多くの先輩は、多岐にわたる経験が、新しい世代への知識の継承が期待されています。高専には、これまでの経験の継承と共に、新たな知識の継承が求められる大きな時代であると思います。やりがいを見出して活躍して下さい！

Chemistry and Biochemistry

# 卒業生と在校生の接点

## 同級生交歓

文芸春秋 掲載記事

### 沼津工業高等専門学校

垣見祐二 (中部電力専務執行役員)

2015.03.18 07:00



静岡・沼津市 沼津工業高等専門学校にて (撮影 本社・杉山拓也)

## 校内の美術品

- (右から) 中部電力専務執行役員 垣見祐二
- SUS VIETNAM General Director 秋山盛
- 彫刻家・京都精華大学芸術学部教授 内田晴之
- リコージャパン専務執行役員 吾妻まり子
- 本田技研工業取締役専務執行役員 山本芳春

昭和四十三年、沼津工業高等専門学校工業化学科に、第三期生四十名が入学した。

何事にも黙々と取り組む山本は、ホンダで、技術者の道を貫き通した。数少ない女生徒で、毎週教室に花を飾ってくれた吾妻は、リコー初の生え抜き女性役員になった。内田は、彫刻の道に進んだ。磁石を使った動く彫刻で注目され、制作や後進の指導に余念がない。秋山は、大学アメフト部監督を経て、二十余年の海外駐在の末、ベトナムで活躍中だ。垣見は、発電用燃料の調達と海外事業に、世界中を飛び回る毎日だ。

あの入学式から半世紀、校庭から見上げる富士山は当時の姿のままである。

✕ 垣見 祐二

文芸春秋Webより

## 高専機構の活動

広報か？  
キャリア教育か？

### COBOL一筋20年！

今年創業20周年！ 2015年3月18日(水)に開催された「COBOL一筋20年！」の模様をレポートします。

あなたの  
みらいは…

Vol.2  
高専の活動から見える未来のイメージ



### 組長を志願することが海外勤務の特技



## 本校にとっての卒業生

- ・もともと身近なstakeholderであり、良き理解者  
→ そうなってもらえるよう、学校も努力する必要がある。
- ・学生にとっての将来像  
→ 学生にとってキャリアの見本になる。同窓生の意識形成。
- ・学校運営の応援者  
→ 授業やキャリア支援への参画。同窓会や行政との連携。
- ・受験者の確保  
→ 広報の一旦を担っていただける。ご子弟の進路先として選択。

10

## キャリア支援室の立ち上げと就職模擬面接

村松正敏氏 富士フィルムイメージテック(株)

2011～ キャリアコーディネーターとして、以下の活動を実施

- ・学生のキャリア支援及び就職意識の啓発の総括
- ・ガイダンス等就職支援事業
- ・学生のキャリア相談への対応



尚友会館内就職コーナー



現在は教員が活動を引き継いでいるが、今後は同窓会にも協力を要請する予定

11



## 同窓会の人材活用

教育に  
地域貢献に

そのために、卒業生の情報  
収集と人材リストの作成を  
計画中

### 沼津高専同窓会 エンジニア'S ネットワーク

#### 沼津高専同窓会 エンジニア'S ネットワーク設立について

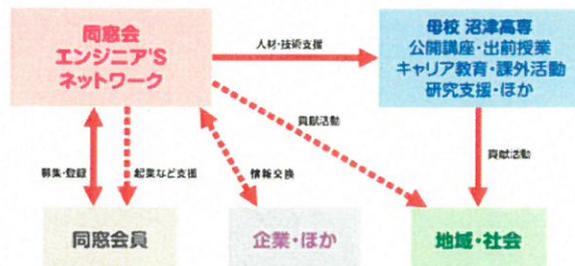
2010年9月 沼津高専同窓会 会長 名倉光雄

沼津高専は昭和37年（1962年）に創立され近く50周年を迎えます。その間に母校から巣出された同窓生は7000名を超え、我が同窓会も社会の中でより存在価値が求められるところです。そのような折、「沼津高専同窓会 人材バンク（エンジニア'Sネットワーク）」設立の声が上がり、その形づくりを進めています。同窓会が担う母校・地域・社会への貢献活動、ならびに定年を迎えられて益々元気な方々の（現役世代も含む）ご活躍の手助けを推進していこうとするものです。

エンジニア'Sネットワーク設立の目的

1. 同窓会が社会（母校含む）に貢献する活動をより広める。
2. 同窓生が保有する技術やその人材を社会（母校を含む）により役立てる。
3. 同窓生（特に定年以降）の生き甲斐や自己実現の機会創出・拡大の手助けをする。

当面は、母校沼津高専を通じての活動を中心に展開を進め今後の活動基盤を築いていき、その後一つ一つ活動の範囲を広げていきたいと考えています。



沼津高専同窓会 エンジニア'S ネットワークへの登録/依頼条件の申込は以下フォームから行ないます。以下リンクをクリックし、フォームに必要事項を記入の上、送信して下さい。

フォームからの登録

依頼条件の申込

## 行政との連携

---

### 沼津高専と共に歩む議員連盟



5月26日、本年2月に発足した「沼津高専と共に歩む議員連盟」に加盟している議員22名が本校を研修見学

14

## 本校にとっての卒業生

---

- ・もっとも身近なstakeholderであり、良き理解者  
→ そうなってもらえるよう、学校も努力する必要がある。
  - ・学生にとっての将来像  
→ 学生にとってキャリアの見本になる。同窓生の意識形成(最終学歴)。
  - ・学校運営の応援者  
→ 授業やキャリア支援への参画。行政からの支援。
  - ・受験者の確保  
→ 広報の一旦を担っていただける。ご子弟の進路先として選択。
- ⇒ 卒業生と学校との繋がりを、より強化する必要がある。
- ⇒ 卒業生についての社会の評価を正確に把握する必要がある。

15

## 企業・大学における本校卒業生の評価

---

以下の点等について、忌憚のないご意見をお聞かせください。

- ・企業/大学(進路先)から見た本校卒業生の評価できる点  
改善すべき点
- ・進路先でのミスマッチの状況

平成28年度 沼津工業高等専門学校運営諮問会議 議事要旨



日 時：平成28年9月14日（水）

場 所：沼津工業高等専門学校管理棟3F大会議室

出席者：【運営諮問委員】（敬称略）

第4条第1項第1号委員（大学等高等教育機関の関係者）

静岡大学副学長（企画戦略・情報担当理事）  
豊橋技術科学大学学長補佐・高専連携室長

東郷 敬一郎  
澤田 和明

第4条第1項第2号委員（産業・経済界の関係者）

富士通株式会社 沼津工場長  
東芝機械株式会社 顧問  
日医工ファーマテック株式会社 静岡工場代表取締役  
矢崎総業株式会社 技術研究所研究副所長

阿部 欣成  
岸本 吉弘  
清 勝彦  
植松 彰一

第4条第1項第3号委員（本校が所在する地域の関係者）

沼津市教育委員会 教育長  
地区中学校長会会長 沼津市立大岡中学校長

服部裕美子（公務欠席）  
唐國 宏章

第4条第1項第4号委員（本校の支援団体の関係者）

沼津工業高等専門学校 同窓会長

木戸 実

【本校出席者】

藤本校長、小林隆志副校長（教務主事）、芳野校長補佐（学生主事）、小林美学校長補佐（寮務主事）、高野校長補佐（専攻科長）、大山事務部長、村松機械工学科長、野毛電気電子工学科長、遠山電子制御工学科長、藤尾制御情報工学科長、後藤物質工学科長、佐藤教養科長、大久保図書館長、宮下総合情報センター長、稲津地域共同テクノセンター長、佐藤憲教育研究支援センター長、鈴木久学生生活支援室長、川上企画運営委員、長谷企画運営委員、露木総務課長、宇野学生課長、神田総務課課長補佐、杉山総務係員

## 議題

### I. 開会及び校長挨拶

議事に先立ち、藤本校長から、全国の高専や沼津高専が置かれている状況と、本校として良き方向を目指し懸命に対応しているが、その中、高専として本来の持つべき姿、進むべき方向を、当事者であるがゆえに見えない部分があるのではないかと考えている。この会議で皆様からご教示頂きたい旨の挨拶があった。

また、昨年度諮問を受けた3つのテーマの取組みについて説明が行われた。

### II. 議長選出

総務課長進行の下「議長の選出は、運営諮問会議規則第5条1項に規定に基づき、各委員の互選により選出される。」旨説明後、立候補者を募ったが特に申し入れがなかったので同課長から「静岡大学副学長、東郷委員を推薦したい」旨の提案があり、これを了承した。

### III. 議長及び各委員挨拶、並びに陪席者紹介

議長及び各委員から自己紹介を兼ね挨拶があり、引き続き総務課長から陪席する学校関係者の紹介が行われた。

### IV. 沼津工業高等専門学校概要説明

藤本校長から沼津高専の学校概要、現状と課題（留年退学の問題、自殺者の問題、進学者が多い、入学希望者の減少等）について、PPT資料に基づき説明が行われた。

(東郷議長) 有難うございました。今の説明を聞きますと高専が厳しい状況にあるという事を校長自身が認識されていてその状況で頑張っているという状況が分かります。その様な概要をベースに持って今日の審議事項というものがあります。という事で審議事項に移りたいと思います。

### V. 審議事項

(東郷議長) 先ほど話がありました通り3つのテーマについて審議を進めていきますが、審議の進め方については、それぞれのテーマについて、学校側から10分程度説明をして頂きまして、その後25分程度意見交換をする。可能であればそれをまとめて次のテーマに行くと言う形で進めていきたいと思います。

初めに「企業との共同教育について」学校から説明をお願いします。

#### 1) 企業との共同教育について (2:02 開始)

地域志向科目「社会と工学」担当教員の竹口教授、校長補佐(専攻科長)から専攻科の長期インターンシップの取組みについて、PPT資料2-1に基づき標記提案理由について説明が行われた。

(東郷議長) 有難うございました。それでは協議に入りたいと思いますが、特に最後に上げられました4つのテーマ、(1)交通費等の経済的支援に関する良策はあるか。(2)長期インターンシップの適切な期間はどの程度か。(3)長期インターンシップに大学の研究室を含めるべきか。(4)企業側から見て、長期インターンシップは学生に役立つと思うか。の何れかからでもよろしいので、企業の方からご意見を頂きたいと思いますが、どうでしょうか。

(岸本委員) 高専のカリキュラムの中に、一般教養的なものがあるのか、それは外に求められているのか、自由度はどのくらいあるのか。を伺いたい。

(東郷議長) それでは今の質問に対してカリキュラムの構成について回答をお願いします。

(小林副校長) 基本的には、教養科目は低学年で実施していて、約半分弱が教養科目となっています。

(藤本校長) カリキュラムの制約はされていません。学校の裁量に任されています。

(東郷議長) 専門科目も教養科目も、7年間で5年間で実施していると感じている。

(竹口教員) 「社会と工学」は専門科目として扱っています。

(小林副校長) 専門科目で学科横断型となっています。

(東郷議長) テーマを企業・公共団体から頂いているようだが、専門性とどのように結び付けているのか。

(竹口教員) テーマをお願いする時、担当の教員でピックアップしています。

(東郷議長) それでは質問等をどうぞ

(植松委員) 課題解決型という事で、大変興味深い取り組みだと思う。我々の企業でも大学から学生を受入しているが、いくつかテーマをあげて、大学の4年生だと思うが、その中から興味のあるものを取り上げて、それに教員がついて我々もプレゼンをするのですが、4年生ですと卒業研究に繋がるものですから、1年間でかなりみっちりやるという事になっています。

今回は高専の4年生という事で、少し位置付けが違うかなと思っているが、「どちらかという教育寄りになるのかな」と考えられるが、どういう位置付けになっているのか。教育寄りであるとする、企業側がアウトプットを期待するのは少し大変かなと思うし、問題解決を体験するという方向で課題を設定する方が良いのかなと思うが、アウトプットを期待しているとする、企業側の要求も増えると思うし、時間が足りないのではないかなと思うので、どういう位置付けにされているのかを伺いたい。

(竹口教員) 卒業研究に結び付けたいと考えていたが、企業の要望にはなかなか応えられないとの事で、教育的な配慮で会社の方にはご協力を頂いて、社会・企業を知る事に方向を変えました。

(東郷議長) この取組と卒業研究との関係はどのようになっていますか。

(竹口教員) 10件の内1件は可能性があるものだったが、今の所結びついているものはありません。

(東郷議長) ありがとうございます。外にご質問はありますか。

(岸本委員) 最初に質問したのは、一般教養教育の補完なのかなと思った訳で、今のご説明で専門科目の一環としている事が理解できましたが、高専としては意義のある事かもしれませんが、地域や企業にとっては、何のメリットがあるのかという所、どうコラボしていくか、目的が教育なのか、まあ多くの事を望まれているなという印象で、成果を評価するというのは難しいと感じます。

目的意識をどう評価するとか、もう少し明確にして行かないと発展性は難しいと感じます。

(東郷議長) ありがとうございます。何かコメントはございますか。それでは外に何かありますか

(小林副校長) 今の件ですが、社会と工学ですが今年2年目という事で、やってみて学校としても、「学校の中だけの閉じた教育」だけではなくて、社会との繋がりの中でやって行こうと努力しているのですが、200名の学生を学修させるので、体験させるというのが主眼となっているかなと思います。担当教員も全体の学生に体験させるという事で苦勞している所なので、またご意見・アドバイスを頂けたらと思います。

(植松委員) 問題解決型で大変面白いと思うので、色々試行錯誤されたらよろしいかと思います。

(澤田委員) 今回学科横断型という事で、大学でもチームワーク力だとか、リーダーシップ力を育てるという事を考えるが、その事と、課題解決だとすれば、その関係の教員を配置して、力を入れてやるというバランスがうまく成功されると、良いカリキュラムになるのではないかと思います。

(東郷議長) ありがとうございます。そろそろこのテーマを纏める時間になりましたので、これまで色々ご意見を頂きましたが、科目の目的、ミッションをはっきりして、教育なのか、企業の問題解決なのかという所をはっきりさせて、教育なら企業の方に、チームワーク力を作るとか、社会の状況を学生に理解させるためにこの科目を実施しているという事を理解してもらって、企業の方に協力してもらおう。という事が重要だと感じます。

大学でも地域に貢献するという事で、授業の中にこういう事を組み入れて行かなければいけないという事が沢山ある。大学の場合は幅が広いので、地方公共団体や文系的な事もやるが、高専の場合は可能ならばテクニカルなベースの事でテーマが設定できて、学生が研究テーマや学んできた分野の事ができ、社会との関係が分るようになれば、非常に有効なものになるのではないかと思います。まだ2年目という事なので、是非そういう観点で発展させて頂ければ良いと締めたいと思います。

(東郷議長) 次のテーマに移りたいと思います。学生寮について学校側から説明をお願いします。

## 2) 学生寮について

校長補佐(小林寮務主事)からPPT資料2-2に基づき標記提案理由について説明が行われた。

(東郷議長) 昨年度の議論を踏まえて、個々の寮生に対する取り組んできた事について発表して頂きましたが、質問等はありませんか。私の感じですが、寮生に対して非常に手厚く努

力されていると思います。寮生活をしながら学生が成長しているという事が伝わって来るが、問題点は何かありますか。

(小林校長補佐) 我々も関わって努力をしておりますが、学生が指導に係っている以上、寮生一人ひとりを見たとき、「良い指導が其々に出来ていたか」という所は気になる所です。そうならないように努力はしておりますが、学生が指導に係る以上心配になる所です。

2点目としては、仲良く、楽しく、助け合いながら寮生活を送っていると思いますが、もう少し、隣の子の事が心配できる友愛的な部分が出来るようになると、寮生活も充実してくるのではと考えています。

(清 委員) 寮生活の中身を聞かせてもらって、素晴らしい取り組みをされていると感じました。もう少し中身を伺いたいと思いますが、今年からメンター制度を試行して行くという事ですが、私どもの会社でも、年齢構成も高く、主力社員の退職に伴い、新入社員が数多く入ってくる状況にある。

新人に対する心配も増えて来るのでメンター制度を取り入れているが、メンターを集めて確認を行った所、メンティーの事を考えて始めた事が、メンターの方に、非常に良い勉強になっている事が分った。

指導寮生の63%が満足しているとお話だったが、指導寮生の10名は希望者を募ったのか、先生から指名をしたのか、私の所では、伸びしろのある社員を部・課長から指名してもらっているが、そのあたりの考え方はどうか。

(小林校長補佐) 当初は1年生全員をメンティーに考えていたので、上級生全員をメンターとして考えていましたが、今回が初めてである事と、寮生会と相談して実施したので不安も大きかったため、この人数になったと考えています。今年度は希望者で行いました。

(唐国委員) 寮制度の事が諮問されているのは、マイナス面の問題があるからそれを解消しようとするのではなくて、本来10の良いものがあるが、現在は7くらいなので、良いものをもっと伸ばしたいとか、そのような問題意識でよろしいでしょうか。

(小林校長補佐) 本校は全寮制を布いていますが、その事をちゃんと見直そうという事で、昨年度テーマとして諮問しました。

今年度は昨年の事についての補足説明や、一年間取り組んだ事について意見を頂きたいと考え、その取り組みの方向性で良いのか、同時に取り組みの方法にもっと良い方法があればと考え、テーマに上げさせて頂きました。

(東郷議長) 沼津高専は低学年全寮制を取っている学校で、寮生活も教育の一環として行っているが、唐国先生は中学校の先生として子供を送る立場でいらっしゃるの、今の取り組みについて、どんな感想をお持ちになったか伺いたいのですが。

(唐国委員) 「高専」というと子供達は、すごく高い所をイメージしていて、最近はそうでもなくって来ているが、「あそこ(高専)は高校じゃあないよ、大学と同じ」というイメージを持っている。それは私達も同じだが、今の話を聞くと、「1年生はまだこの時期中学生かな」と思われるので、その年代の子供たちに様々な配慮がされるという事はとても良い事だと思う。

それに加えて、先ほど校長先生の言われた「人柄の良い」という部分の教育制度として寮制度があるという事は、非常に良いと思うし、その制度を上手に使う事は大変プラスになると思います。

一点、先ほどお話がありました、「寮制度があるから入ってこない」という事についてですが、沼津高専を希望する生徒は、かなり高いレベルにあり、寮というストレスはあるかもしれないが、そもそも「寮があるから」を理由にしている子はレベル的にも受からないと思う。

報告にもあったが、近年増えている「高度発達障害」を持つ子供達は、強い拘りがあるため、ある面で言えば高専は入り易い学校でもあると思う。知識は高いが「ソーシャル・スキル」に弱点がある。そんな子供達に対するケアをどのようにするか、寮生活を「ソーシャル・スキルを身につけるための制度」として、どのように使うかによって、非常に有益であるというように聞かせて頂きました。

(東郷先生) それでは次に、このような寮生活を体験した学生を受け入れる企業からのご意見を伺います。

(阿部委員) まとめるのは難しいが、「いかに学生が寮生活をうまくやって行けるのか」という事に色々な取り組みをされている事が理解できる。第一印象として「これまでやるのか」という取り組みをされていると思う。

何で全寮制を取っているのかの理由を、もう一度確認するが、たぶん、「人柄の良い優秀な技術者」を育成するには、寮生活を体験させる事が有効ではないかとの判断から、全寮制を取られているのではないかと思う。なので、そもそもその所を考えた時に、「どういうやり方が良かったんでしたっけ」という所で、全寮制を取っていない高専生とも違うだろうし、一般の高校生と比べたら、まったく違って、「20時には何をして」「22時には何をして」とかやっている高校生は、絶対にいないだろうと私は思う。

規律や規約を設ける事で、間違いなくストレスにはなっていると思う。それをやる事が本校の教育理念である「人柄のよい」に繋がって行くと思って全寮制を取っている。寮制をとるにしても、もっと緩いやり方もあると思う。どこを拘わって、これが重要だと考えるのか、それをうまく機能させて行くために、メンター、メンティーと言う制度を導入する事を考える。

現在試行している事がすごく良い取り組みをされているので、良い成果が出てくるのではないかと思います。

(岸本委員) 私も、重要性があるという事を認識しながらも、毎年大きな課題として掲げられているのは、どうしてと思いました。

色々なお話を聞いて、十代の人格形成という意味で全寮制にして、3分の一を勉強、24時間面倒を見るという所では、非常に役割が大きいのかなと感じました。

その所をもって高専で取り組まれていると思いますが、一つだけ、要点として、学生の声は聞かれている。保護者の声も聞かれているが、先生方の声はどうでしょうか。学校としての方針はあると思いますが、全員が同じ認識でいるのか、宿直もあるだろうし、24時間学生に向き合わなければならないと言う状況で、先生方の考え方についても一度聞かれて反映させると、より良く取り組んで行くという面も出てきたら良いのかなと思いました。

(東郷議長) まとめて頂き有難うございました。

非常に良い取り組みをされているが、まだスタッフの人たちが一致して、同じ方向を向いてやられているかどうかの確認が取られていない。アンケート等も必要かもしれない。

こういう形で全寮制を今後も続けて行くのか、続けないと目標とする教育ができなくなってしまうのか。全寮制を止めてしまったら、こういう取り組みが出来なくなってしまう、体験させる事が出来なくなってしまう。

取り組み自体は、これ以上の面倒の見方は無いくらいだと思いますが、その分だけスタッフの苦労は多いと思います。そのあたりを整理されて対応されるとよろしいのではないかと思います。

### 3) 卒業生の社会での活躍について

校長補佐(学生主事)からPPT資料2-3に基づき標記提案理由について説明が行われた。

(東郷議長) 有難うございます。

このテーマは、OB会との繋がりが強いので、同窓会の役割が大切だと思われませんが、木戸委員いかがでしょうか。

(木戸委員) 本校にとっての卒業生、理解者で、将来像で、応援者で、受験生の確保に役立てればいいという所を目指して行きたいと思いますのでよろしく願いいたします。

将来像というのは、私は9千分の1でありますけれども、45年前卒業をしたが、終身雇用が大勢を占めている時代で、良い安定した企業に入って、そこを勤め上げるという事だった。その中でスピンアウトしたり、起業したり、或いは自営でという方がいた。社会の評価というのは、どれだけ昇進したり昇給したり会社を大きくしたりというもので、目指す所があった時代だった。今は、やりがいのある仕事へ付くというのが増えてきているのではないかと、一般的な考えですが、学校の中での就業意識をしっかりと育てた学生は、社会へ出てどこへ行っても活躍できるのではないのでしょうか。

社会へ出てどのように活躍しているか、活躍する姿という事は、良い仕事、地位ポジションだけでなく、良い技術者の素養を持った人は、どこへ行っても良い仕事が出来るとは思っています。教育理念の「人柄のよい優秀な技術者となって、世の期待に応えよ」という事かなと思っています。

(東郷議長) ありがとうございます。卒業生の活躍といった事を調べるには、きっとデータベースが必要になると思いますが、そういったものを同窓会で整理して頂いて、高専と同窓会が連携して、高専卒業生の活躍を発信できるといいと思います。それに協力をして行くと言うように聞かせて頂いたのですが、そういう事でよろしいですか。

(木戸委員) 協力するというか、同窓会の半分の意義は学校と連携して役に立つという事にあるので、協力してやっていきたいと考えています。

(東郷議長) 次に、大学・企業から見た高専生の評価という点で、何か改善できる点はございますか。まず企業の方からお願いします。

(芳野学生主事) ミスマッチとかの事例は無いでしょうか。

(阿部委員) 私の所で採用される高専生で私が知っている方はそれほど多くはないので、それをもって沼津高専の卒業生はという評価は出来ないが、人柄もよく、物事に柔軟に対応できる方しか知らないなので、一般論でというのは難しいがそういう評価です。

最近ですが4年生のインターンシップの学生を1名受け入れして、その最終報告会に出た時の事ですが、率直に「こんなに出来が良いのか」と感じました。大学生とか院生もインターンシップで受入するが、比べてみても何の遜色もない。19歳という年齢にもかかわらず非常に飲み込みの良さ、取り組む姿勢が素晴らしい。高専の学生さんの実力は高いと感じている。期待しているレベルに近い、もしくはそれ以上という印象があります。

(東郷議長) 他にはいかがでしょうか。

(岸本委員) 高専生をどのように評価しているかと問われれば、スタートについては、処遇の部分では若干差はあるかもしれないが、企業は実力主義なので、すぐに追いついてしまうと思います。

高専を出て進学してしまうと、最終学歴は高専とはされないのでは、高専卒の優秀さが表に出てこないのではないかと。

(東郷議長) 今のご意見は私も同感で、高専出身者を是非フォローして頂きたい。大学に行ってもその後どうしているかをフォローして頂きたい。

大学の事をお話しますと、私の所で一番外部資金を取ってくるのは、高専の卒業生です。

やはり高専の教育制度を経験した人が、企業に入った人がどのように活躍しているか、あるいは大学へ進んだ人がその後どんなキャリアを積んでいるか、是非フォローし、それを「沼津高専の卒業生の活躍ですよ」というように整理し、それを中学生にアピールして頂いて、高専に入る人は15歳である程度自分の将来を決めるようなもので、必ず不安もあります。その不安を払拭するためには、卒業生の活躍の様子を伝えられた方が良いと思います。

校長先生の最初の話と違ってしまふかもしれないが、高専の卒業生は、大学の中でも、企業の中でも頑張っている人が沢山いますし、そのルーツはどこにあるのかと言うと、多くの場合高専の教育あたりにあると思うし、本人もそう思っている場合もある。そういったものを大事にされたらどうかと思います。

以上で3つの項目に対する議論を終わらせて頂きたいと思います。

この後各委員におかれましては、学校が作成した平成27年度自己点検評価票に関するコメントと、平成28年度年度計画に対するコメントの作成をお願いいたします。それでは事務局にお返しすることと致します。

(校長) 長時間にわたり貴重なご意見を頂きありがとうございました。

今年度提案いたしました3件の事案ですが、本校のインターンシップに関する件では、インターンシップは大学でも何処でも行っていますが、それをもっと発展させるにはどうしたらいいかを考えております。

協働教育ということで、現在はインターンシップを企業側に全て、お願いしてありますが、もう少し進めて、企業の間を借りて学校が教育を行うという事も考え、発展できる可能性があるのではないかと考えております。

お話の中で、企業側からは、学校はインターンシップをどう考えているのかという事を、投げかけられているように感じます。何のためにやるのかを、整理をしなければいけないと感じました。

次の寮の問題ですが、全寮制は本校の特徴でもあるので、無くすつもりはありませんが、寮生活を体験することによる利点は沢山あります。ただ、長くなることにより利点がだんだん減っていき、欠点がだんだん増えていく。そのクロスオーバーの点がだんだん早くなっているように感じています。

集団生活を体験するためのやり方は変えられるのではないかと、昔と学生も変わってきて集団生活に馴染めない子もいます。その中で2年間と言う期間が本当に適切であるのか、1年或いは半年でも、体験するだけなら短くても良いのではないかと、そんなことも考えています。

お話の中でありますが、スタッフに対してアンケートをとることになると思いますが、結果は、いかに理念や情報を共有していないかと言う事になると思います。寮生活の体験がどれだけ大切なことであるかと言う認識について温度差があると思います。

最後は卒業生の活躍ですが、卒業生が活躍することが学校の評価だと思います。

卒業生の活躍を見せることが、入学生にいかに安心感を与えるか、高専卒業生として、どれだけ胸を張れるかということだと思います。

確かに現在の日本の企業で学歴で差をつけられる余裕のある企業は無いと思うが、それが分らない。具体的な例を示すことが出来るのは卒業生であろうと言うことで、文化講演会の講師として招いたりしています。

もっと卒業生と在校生がふれあう事が出来る機会、一つの例としては、入学式で卒業生から話をさせていただく等を増やしていこうと考えています。

本日頂いた貴重なご意見は、今後生かして行きたいと思えます。本日は長時間に亘りありがとうございました。

(総務課長) 以上で運営諮問会議を終了いたします。本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。

## 運営諮問会議報告書

—平成 27 年度年度計画自己点検評価の検証／平成 28 年度年度計画—  
(平成 29 年 3 月発行)

沼津工業高等専門学校 総務課

〒410-8501 沼津市大岡 3600

TEL 055-926-5856

Fax 055-926-5700

URL <http://www.numazu-ct.ac.jp>